



TEIKYO

2023 診療科案内

特定機能病院
地域がん診療連携拠点病院
東京都災害拠点病院

帝京大学医学部附属病院



TEIKYO TOPICS 2023

セミオープンシステムと無痛分娩の導入

産婦人科

当院のセミオープンシステムの概要図

16週未満	連携医療機関へ 帝京1回目受診時に、右記の検査結果をお知らせください。	●検査項目* ・子宮頸部細胞診 ・腔培養 ・血算 ・梅毒スクリーニング ・トキソプラズマ抗体 ・風疹抗体(HI) ・HBs抗原	・HCV抗体 ・HIVスクリーニング ・HTLV-1抗体 ・随時血糖 ・TSH ・fT4 ・クラミジア
16~20週ごろ	帝京1回目(初診) 赤ちゃんの状態や胎盤の位置を確認します。上記の検査結果の添付がなければ、共通診療ノートでお知らせします。	●持ち物 ・診療情報提供書(初回のみご用意ください) ・母子手帳 ・共通診療ノート ・健康保険証 ・当院の診察券(受診歴のある方)	
21~27週	連携医療機関へ 帝京2回目受診時に、右記の検査結果をお伝えください。	●検査項目*1 ・50gGCT*2 ・75gOGTT ・血算	*1 貴院で行えない検査があれば、当院で行います。 *2 妊娠中期の糖代謝異常スクリーニングを随時血糖でされている場合は、当院で50gGCTを行います。
28~30週ごろ	帝京2回目 超音波健診や指導を行います。	●持ち物 ・共通診療ノート ・母子手帳 ・健康保険証 ・当院の診察券	
31~33週	連携医療機関へ		
34週以降	分娩まで帝京へ	●持ち物 ・共通診療ノート ・母子手帳 ・健康保険証 ・当院の診察券	
出産			
出産後1か月	1か月健診 帝京で受けられます。		



8月1日より セミオープンシステムの 正式運用開始

セミオープンシステムとは、クリニックや診療所などの地域の連携医療機関と連携し、妊婦さんが安心して出産できるようにするものです。妊婦健診は自宅や職場近くの通いやすく、待ち時間の少ない連携医療機関で、分娩は当院でおこないます。

セミオープンシステムを利用できるのは、初妊婦と経産婦でリスクの低い方です。ハイリスク妊娠の方やメンタルに持病がおりの方は、従来どおり当院で妊婦健診を続けていただきます*。

セミオープンシステムをご希望の妊婦さんには、システムについてご説明のうえ、左図のタイミングで当院へご紹介ください。

*従来どおり、妊婦健診を初診から引き続き当院で受けることも可能です。



◀ 共通診療ノート

当院では東京都既定のものを使います。もし貴院にノートがなければ、帝京1回目の受診時に患者さんにお渡しします。

無痛分娩で 分娩後の社会復帰を スムーズに

無痛分娩は、分娩時の痛みを大きく緩和し、産後の回復を促せることと、よりスムーズな社会復帰につながる事が利点です。

当院では、麻酔科専門医、新生児科医、産科医、助産師がしっかりとチームを組んだ万全な医療体制のもとで無痛分娩を受けられます。無痛分娩のメリット・デメリットなどを事前に十分理解できるように、「無痛分娩麻酔外来」も開設しています。

当院で無痛分娩をご希望される方、内容をくわしく知りたい方は、当院診察時にお気軽にご相談ください。

リニアックやPET-CT等、新機器の導入

放射線科

2023年春に、大学病院として国内初となる新型リニアック「Harmony」の臨床稼働を開始しました。

Harmonyは、各種がんの治療に用いられる放射線治療機器です。柔らかな印象を持つ洗練されたデザインで、患者さんに安心を与えつつ、人間工学に基づくエラープルーフ化を促進するシステムで、治療提供側が効率的に操作できるように設計されています。



▲ Elektta社製Harmony。効率よく高精度治療を実施できます。

▼PET-CT。従来の機器よりドームが広くなり、閉塞感が低下。



またPET-CT等の検査機器も新しく入れ替えました。画質が向上してより鮮明になり、撮影時間が短縮されました*。検査だけのお申し込みも、地域の医療機関から受け付けています。ぜひご利用くださいませ。

こうした新機器を活用して、当院では先進的がん治療に全力で取り組んでまいります。

*検査業を投与してから、検査までの待機時間は従来どおりです。

脊椎脊髄病センターの新設

整形外科 等

2023年4月より、脊椎脊髄病センターを新設いたしました。

今までも整形外科では脊椎診として、脊椎や脊髄のさまざまな疾患に対し、専門の治療を提供してきました。今回当センターを新設することで、脳神経外科、脳神経内科をはじめとする脊椎、脊髄疾患をとりあつかう科だけでなく、外傷センター、リハビリテーション科、放射線科など診療、治療に協力する各科が結集し、さらに高度な診療を提供できる体制が整いました。

当センターでは、最新の医療機器を導入し、低侵襲手術から、高難度脊椎脊髄手術まであらゆる疾患に対応しています。また外科的治療に限定せずに疾患に合わせた最適な治療を提供していきます。

当センターを利用したい場合、まずは整形外科の脊椎診宛にご紹介ください。その後センター内で患者さんの状態に合わせて、適切な検査や治療を進めてまいります。ぜひご利用ください。



▲カンファレンスの様子。診療科の枠を越えて意見を出し合います。

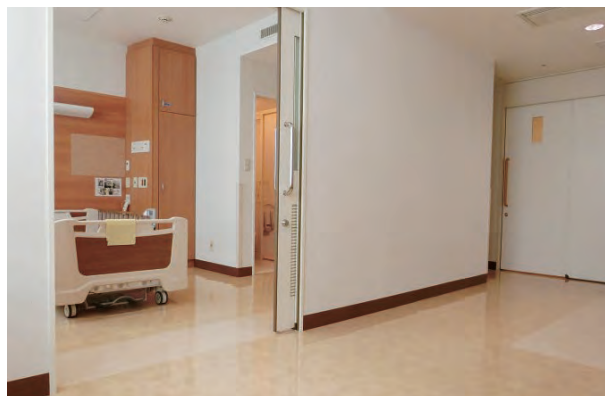
小児の感染症対応病室が増加

小児科

小児科病棟の改修工事が終了いたしました。改修期間中は受入の制限があり、地域の医療機関の先生方には、長らくご迷惑をおかけいたしました。

改修によって、感染症に対応する病床（陰圧病床）が増えました。小児の感染症の患者さんを受け入れやすくなり、緊急入院の受け入れもできるようになりました。

今後も帝京大学病院は、地域の小児医療体制の一層の充実に貢献いたします。



▲新しい陰圧個室。前室つきで、保護者の付き添いもしやすくなりました。

CONTENTS

帝京トピックス2023	1
病院長ご挨拶	4
病院の理念・基本方針	5
患者の皆様の権利	5
病院の概要	5
診療受付のご案内	7
初診紹介患者さんの電話予約について	8

診療のご案内

内科	9
緩和ケア内科	13
循環器内科	14
腫瘍内科	15
脳神経内科	16
外科	17
心臓血管外科	21
救急診療部 高度救命救急センター・ERセンター	23
救急科 外傷センター	24
産婦人科	25
小児科	26
メンタルヘルス科／デイケア	27
皮膚科	28
眼科	29
耳鼻咽喉科	30
整形外科	31
泌尿器科	33
脳神経外科	35
放射線科	37
リハビリテーション科	38
麻酔科	39
ペインクリニック科	40
形成外科	41
歯科口腔外科	42
総合診療科	43
セカンドオピニオン外来	43
病理診断科	44
不妊カウンセリング外来	45
禁煙外来	45
ゲノム医療外来	45
遺伝カウンセリング外来	46
総合周産期母子医療センター	47
腎センター	48
循環器センター	49
心臓リハビリテーションセンター	50
脳卒中センター	51
IBDセンター	52
静脈瘤センター	53
周術期管理センター	53
帝京がんセンター	54
緩和ケアセンター	57

病院長ご挨拶

帝京大学医学部附属病院
病院長 澤村 成史

帝京大学医学部附属病院は特定機能病院として質の高い医療を提供するため、「患者そして家族と共にあゆむ医療」という理念のもと、職員全員が一丸となって次に示すような基本方針で、患者の皆さま方をお迎えできるような病院作りに取り組んでおります。

1) 安心安全な高度の医療を提供いたします。

特定機能病院としてガバナンスを強化し、安全管理委員会、感染制御委員会の指導のもとに各部署が連携し、より安全に高度な医療が行える体制を目指します。また、患者の皆さま方が安心して病気を治せるように、全ての病院職員が最大限の努力をいたします。

2) 患者中心の医療を行います。

患者の皆さま方の立場に立ち、最新の医療設備と医療機器を活用し、質の高い技術により、皆さま方一人一人が満足できる医療を提供させていただきます。そのため、医師、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士、栄養士、事務職員など全職員が連携し、患者の皆さま方を支える「チーム医療」を推進します。

3) 地域への貢献を行います。

地域の基幹病院として近隣の医療機関と連携し、「救急・急性期医療」「がん治療」「高度の専門治療」を柱とした医療を推進いたします。「救急・急性期医療」としては、高度救命救急センター、ERセンター、外傷センター、循環器センター（CICU）、脳卒中センター、総合周産期母子医療センターを充実させ、救急患者の受入要請に応えます。「がん治療」に関しては、外来化学療法室、がんゲノム医療支援室、がん相談支援室や緩和ケアチームなどを備える帝京がんセンターを中心に、地域がん診療連携拠点病院として充実した体制を整えております。さらに、全ての分野の専門医が協力し高度の専門医療を提供させていただきます。

4) よき医療人の養成を行います。

臨床研修制度や専門医制度の基幹施設として、高度の知識と技術を持つだけでなく、豊かな人間性を持った医療人を育成いたします。何よりも、一人の人間として患者の皆さま方に接するという態度が身に付くよう徹底して教育していきます。また、附属病院では医学生や看護学生、薬学生などが医療スタッフの一員として患者の皆さま方の医療に参画しております。ご理解のほどお願いいたします。

5) 医学の進歩に貢献します。

新しい治療法の開発は患者の皆さま方へ大きな恩恵をもたらします。高い倫理観のもと透明性の高い医学研究を推進することによって医学の進歩に貢献し、その成果を患者の皆さま方へ還元いたします。

今後も地域の医療機関・診療所の方々のご協力のもと、院内の職員間の連携を強化し、「地域の皆さまに安心して頂ける高度で質の高い医療を提供する」という目標にむかって邁進して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



病院長 澤村成史

帝京大学医学部附属病院は「特定機能病院」「地域がん診療連携拠点病院」「東京都災害拠点病院」として地域社会に貢献しています

病院の理念

「患者そして家族と共にあゆむ医療」

病院の基本方針

- ◇ 安心安全な高度の医療
- ◇ 地域への貢献
- ◇ 医学研究の推進
- ◇ 患者中心の医療
- ◇ 医療人の育成

患者の皆様の権利

帝京大学医学部附属病院では、高度で良質、安全な医療を提供するとともに、患者さんの立場に立った患者中心の医療を実践し、信頼され安心して受診していただける病院を実現するために患者の皆様の基本的な権利を明確にし、これを尊重いたします。

- 良質で適切な医療を平等に受ける権利があります。
- 病院を自由に選択し変更する権利があります。
- 治療の方法等についてセカンドオピニオンを求め、自分で選択する権利があります。
- 必要な情報を理解しやすい言葉で説明を受ける権利があります。
- 個人情報及びプライバシーに関わる秘密は守られる権利があります。

病院の概要

名称 帝京大学医学部附属病院
所在地 〒173-8606 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL 03-3964-1211 (代表)
病院長 澤村 成史
開院年月 昭和46年9月
許可病床数 1,074床

● 承認指定

特定機能病院
地域がん診療連携拠点病院
東京都災害拠点病院
高度救命救急センター
東京都指定二次救急医療機関
救急告示医療機関
東京都地域救急医療センター
総合周産期母子医療センター
東京都エイズ診療拠点病院
東京都難病診療連携拠点病院
東京都肝臓専門医療機関指定
東京都脳卒中急性期医療機関
基幹型臨床研修病院
外国人医師臨床研修指定病院
がんゲノム医療連携病院
東京都アレルギー疾患医療専門病院
東京都小児がん診療病院

● 診療科目

内科 循環器内科 緩和ケア内科 腫瘍内科 脳神経内科	外科 心臓血管外科 整形外科 産婦人科 小児科	眼科 耳鼻咽喉科 皮膚科 泌尿器科 メンタルヘルス科/デイケア	放射線科 脳神経外科 ペインクリニック科 リハビリテーション科 形成外科	歯科口腔外科 救急科 病理診断科 総合診療科
--	-------------------------------------	---	--	---------------------------------

● 法令による医療機関の指定一覧

生活保護法
障害者自立支援法
母子保護法
感染症防・医療法
原爆援護法
母体保護法
労働者災害補償保険法
地方公務員災害補償法
公害健康被害補償法
自動車損害賠償保障法
後期高齢者医療制度
特定疾患治療研究事業
小児慢性特定疾患治療研究事業
その他各種都医療費助成制度

● 基本診療料の施設基準一覧

特定機能病院入院基本料(一般:7対1、精神:13対1)
臨床研修病院入院診療加算
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
妊産婦緊急搬送入院加算
診療録管理体制加算1
医師事務作業補助体制加算2(50対1)
急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割未満)
看護職員夜間配置加算(12対1配置加算2)
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算1・2
緩和ケア診療加算
精神科身体合併症管理加算
精神科リエゾンチーム加算
がん診療連携拠点病院加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算1
感染対策向上加算1
患者サポート体制充実加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算
ハイリスク分娩管理加算
術後疼痛管理チーム加算
後発医薬品使用体制加算2
病棟薬剤業務実施加算1・2
データ提出加算2のイ
入退院支援加算1
精神疾患診療体制加算
精神科急性期医師配置加算2のイ
地域医療体制確保加算
救命救急入院料1・4
特定集中治療室管理料3・4
総合周産期特定集中治療室管理料
新生児治療回復室入院医療管理料
小児入院医療管理料1
地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療環境体制加算2
看護職員処遇改善評価料
(2023年7月1日現在)

● 先進医療

・陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ十二センチメートル未満のものに限る。)[外科的治療を実施する施設](2018年4月1日承認)

(2023年6月1日現在)



● 特掲診療料の施設基準一覧

- ・外来栄養食事指導料の注2、注3に規定する基準
心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器
移植期施設加算)
- ・心臓ペースメーカー指導管理料(注5に規定する
遠隔モニタリング加算)
- ・高度難聴指導管理料
- ・慢性維持透析患者外来医学管理料の腎代替療法実績加算
- ・糖尿病合併症管理料
- ・がん性疼痛緩和指導管理料
- ・がん患者指導管理料口・ハ・ニ
- ・外来緩和ケア管理料
- ・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)
- ・糖尿病透析予防指導管理料
- ・婦人科特定疾患治療管理料
- ・腎代替療法指導管理料
- ・一般不妊治療管理料
- ・生殖補助医療管理料1
- ・二次性骨折予防継続管理料1・3
- ・下肢創傷処置管理料
- ・院内トリアージ実施料
- ・外来放射線照射診療料
- ・外来腫瘍化学療法診療料1
- ・連携充実加算
- ・ニコチン依存症管理料
- ・がん治療連携計画策定料
- ・がん治療連携管理料1
- ・肝炎インターフェロン治療計画料
- ・薬剤管理指導料
- ・医療機器安全管理料1・2・(歯科)
- ・歯科治療時医療管理料
- ・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料 遠隔モニタリング加算
- ・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジボンブと
連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下
連続式グルコース測定
- ・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジボンブと
連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
- ・造血管腫瘍遺伝子検査
- ・遺伝学的検査
- ・染色体検査の注2に規定する基準
- ・骨髄微小残存病変量測定
- ・BRCA1/2遺伝子検査
- ・がんゲノムプロファイル検査
- ・先天性代謝異常症検査
- ・HPV核酸検出及びHPV核酸検出
(簡易ジェノタイプ判定)
- ・検体検査管理加算(I)・(IV)
- ・国際標準検査管理加算
- ・遺伝カウンセリング加算
- ・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
- ・植込型心電図検査
- ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ・胎児心エコー法
- ・ヘッドアップティルト試験
- ・単繊維筋電図
- ・脳波検査判断料1
- ・神経学的検査
- ・補聴器適合検査
- ・黄斑病所網膜電図及び全視野精密網膜電図
- ・ロビージョン検査判断料
- ・小児食物アレルギー負荷検査
- ・内服・点滴誘発試験
- ・センチネルリンパ節生検(片側)
- ・前立腺針生検法(MR1撮影及び超音波検査融合
画像によるもの)
- ・画像診断管理加算1・2
- ・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
- ・CT撮影及びMRI撮影
- ・冠動脈CT撮影加算
- ・血流予備量比コンピューター断層撮影
- ・外傷全身CT加算
- ・大腸CT撮影加算
- ・心臓MRI撮影加算
- ・乳房MRI撮影加算
- ・頭部MRI撮影加算
- ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- ・外来化学療法加算1
- ・無菌製剤処理料
- ・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
- ・廃用症候群リハビリテーション料(I)
- ・運動器リハビリテーション料(I)
- ・呼吸器リハビリテーション料(I)
- ・摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・歯科口腔リハビリテーション料2
- ・通院・在宅精神療法の療養生活継続支援加算
- ・精神科ショート・ケア「大規模なもの」
- ・精神科デイ・ケア「大規模なもの」
- ・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統
合失調症治療指導管理料に限る。)
- ・医療保護入院等診療料
- ・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
- ・硬膜外自家血注入
- ・エタノールの局所注入(甲状腺)
- ・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)

- ・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
- ・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
- ・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を
呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェリシス療法
- ・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
- ・一酸化窒素吸入療法(新生児の低酸素呼吸不全に
対して実施するものに限る。)
- ・口腔粘膜処置
- ・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
- ・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を
算定する場合に限る。)
- ・皮膚移植術(死体)
- ・組織拡張器による再建手術(一連につき)
- ・(乳房(再建手術)の場合に限る。)
- ・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手
術の注に規定する処理再建加算
- ・緊急整備固定加算及び緊急挿入加算
- ・骨移植術(軟骨移植術含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
- ・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
- ・椎間板内酵素注入療法
- ・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
- ・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術、脊髄刺
激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
- ・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置
交換術(便失禁)
- ・角結膜悪性腫瘍切除術手術
- ・角膜移植術(内皮移植加算)
- ・羊膜移植術
- ・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術
(プレートのあるもの))
- ・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再
建術併用眼内ドレーン挿入術)
- ・緑内障手術(濾過泡再建術(needle法))
- ・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
- ・網膜再建術
- ・経外耳道の内視鏡下鼓室形成術
- ・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工中耳
植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植
術及び植込型骨導補聴器交換術
- ・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
- ・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
- ・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加
算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算
定する場合に限る。)
- ・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭
清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術
(腋窩郭清を伴うもの))
- ・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
- ・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機
器を用いる場合)
- ・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機
器を用いる場合)、胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内
視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- ・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、
心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
- ・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除
又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用
支援機器を用いる場合)
- ・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視
鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内
視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)
腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術
(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、陰腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
- ・経皮的冠動脈形成術
- ・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
- ・経皮的冠動脈ステント留置術
- ・胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
- ・胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- ・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及
び経皮的大動脈弁置換術)
- ・経皮的僧帽弁クランプ術
- ・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)、
(経カテーテルの手術によるもの)
- ・経皮的中隔心筋焼灼術
- ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換
術、ペースメーカー移植術及びペースメーカー交
換術(リードレスペースメーカー)
- ・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
- ・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び
両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
- ・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの
又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細
動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
- ・両室ペース機能付き植込型除細動器移植術
(経静脈電極の場合)及び両室ペース機能付き
植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
- ・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
- ・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
- ・補助人工心臓
- ・経皮的動脈遮断術
- ・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)
- ・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
- ・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)

- ・ダメージコントロール手術
- ・内視鏡的逆流口粘膜切除術
- ・腹腔鏡下十二指腸腸胃切除術(内視鏡処置を併設するもの)
- ・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援
機器を用いる場合)及び腹腔鏡下胃切除術(悪性
腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
- ・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手
術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下噴門
側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機
器を用いるもの))
- ・バルーン閉塞逆行性経静脈的塞栓術
- ・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
- ・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除
(葉以上)を伴うものに限る。)
- ・体外衝撃波胆石破砕術
- ・腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び側区域切除)、
(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。))、2区域切除及び3区域切除以上のもの)
- ・体外衝撃波脾石破砕術(一連につき)
- ・腹腔鏡下脾腫瘍摘出術及び腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
- ・腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援
機器を用いる場合)
- ・腹腔鏡下脾頭部腫瘍切除術
- ・腹腔鏡下脾頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機
器を用いる場合)
- ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- ・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援
機器を用いる場合)
- ・内視鏡的小腸ポリープ切除術
- ・腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用
いるもの)及び腹腔鏡下副腎腫瘍摘出術(褐
細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
- ・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び
切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- ・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
- ・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
- ・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機
器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術
(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
- ・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を
用いる場合)
- ・生体腎移植術
- ・膀胱水圧拡張術及びハナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
- ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術、腹腔鏡下膀胱悪性腫
瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- ・人工尿道括約筋植込・置換術
- ・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰莖
手術及び陰莖水腫手術(鼠径部切開によるもの)
- ・精巢内精子採取術
- ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援
機器を用いるもの)
- ・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機
器を用いる場合)
- ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
- ・腹腔鏡下子宮癒着部修復術
- ・胎児胸腔・羊水腔シャント術(一連につき)
- ・体外式膜型人工肺管理料
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科
点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則16に掲げる手術
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則19に掲げる手術(遺
伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則19に掲げる
手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子
宮付属器腫瘍摘出術)
- ・輸血管理料I、輸血適正使用加算、貯血式自己血
輸血管理体制加算
- ・自己生体組織接着剤作成術
- ・自己クリオプレシビート作製術(用手法)及び同
種クリオプレシビート作製術
- ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- ・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- ・歯周組織再生誘導手術
- ・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
- ・レーザー機器加算
- ・麻酔管理料(I)・(II)
- ・周期薬剤管理加算
- ・放射線治療専任加算
- ・外来放射線治療加算
- ・高エネルギー放射線治療
- ・1回線量増加加算(全乳房照射・前立腺照射)
- ・強度変調放射線治療(IMRT)
- ・画像誘導放射線治療加算
- ・体外照射呼吸性移動対策加算
- ・定位放射線治療
- ・定位放射線治療呼吸性移動対策加算(体外照射呼吸
性移動対策加算・定位放射線治療・その他のもの)
- ・画像誘導密封小線源治療加算
- ・保険医療機関間の連携による病理診断
- ・病理診断管理加算2
- ・悪性腫瘍病理組織標本加算
- ・口腔病理診断管理加算2
- ・クラウン・ブリッジ維持管理料

(2023年7月1日現在)

診療受付のご案内

診療受付時間(救急は除く)

		平日	土曜日
初診	予約あり	8:30 ~ 14:30	8:30 ~ 11:30
	予約なし	8:30 ~ 11:30 13:00 ~ 14:30	
再診	予約あり	7:45 ~ 16:00	7:45 ~ 11:30
	予約なし	7:45 ~ 11:30 13:00 ~ 14:30	

診療時間(救急は除く)

平日 9:00~17:00

土曜日 9:00~12:30

休診日

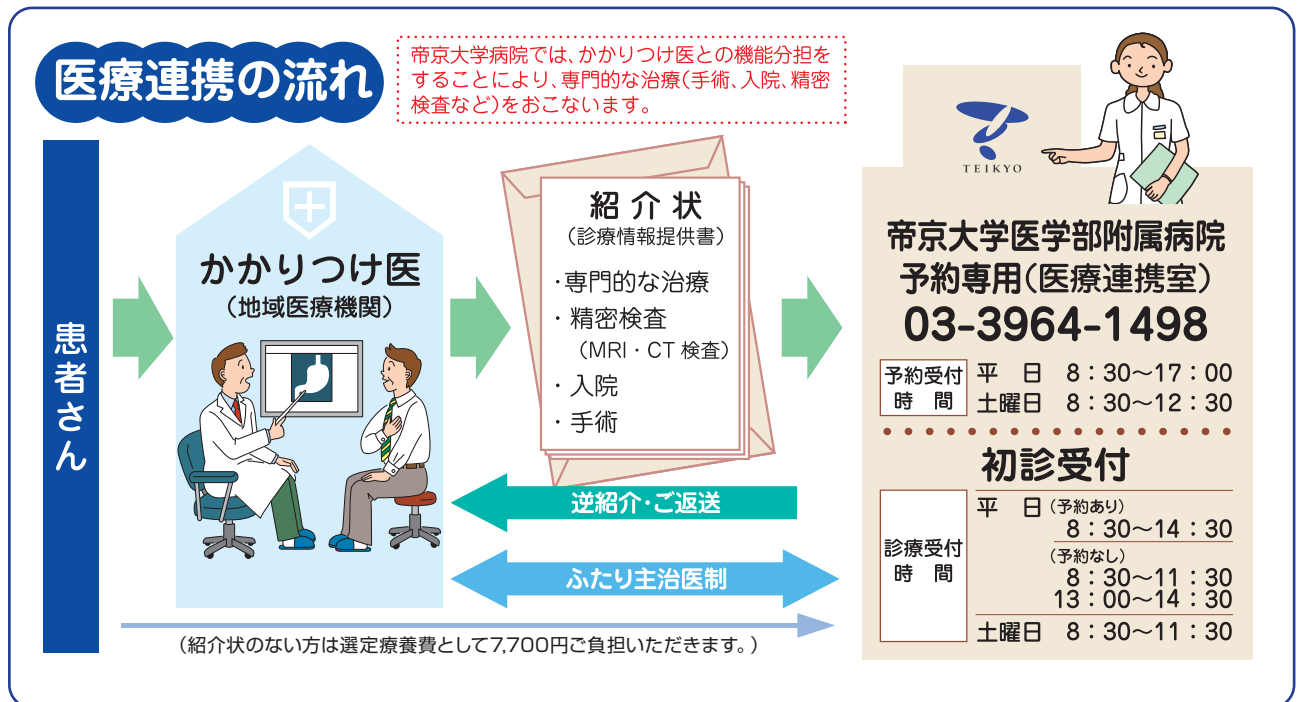
日曜日・祝日・年末年始(12月29日~1月3日)

創立記念日(6月29日)

医療連携の流れ

帝京大学病院では、「ふたり主治医制」を推進しています。

これは「かかりつけ医」や密接に情報共有を行っている「帝京大学病院医療連携登録医」と連携し、機能分担を行うことによって、「2人の主治医」で継続した医療を提供することを目的としています。



初診紹介患者さんの電話予約について

医療連携室では、初診紹介患者さんの待ち時間を短縮するため、ご予約を承ります。

医療機関または患者さん

事前に電話予約

電話 **03-3964-1498** (予約専用)

※当日にご紹介いただく場合も事前に必ずお電話ください。
予約受付窓口 医療連携室

予約受付時間
平日 8:30~17:00
土曜日 8:30~12:30

診療情報提供書をご用意のうえ
お電話で

①患者氏名 ②生年月日 ③性別 ④電話番号 ⑤診療科
⑥症状や病名 をお知らせください。

※血液内科、リウマチ・膠原病内科、
呼吸器内科、心臓血管外科は、
事前に診療情報提供書のお控えを医療連携室まで
FAX (03-3964-9849) にてご送付ください。

当日 予約時間の15分前までに初診受付①窓口へお越しください。

当日お持ちいただくもの

・保険証(各医療証) ・診療情報提供書 ・診察券(当院受診歴がある方)

当院の診療情報提供書の使用方法

2枚目：診療情報提供書(①帝京病院提出用)

3枚目：診療情報提供書(②医療連携室用)
2枚目・3枚目を封筒に入れて患者さんにお渡し
ください。

4枚目：診療情報提供書(③貴院控)
紹介元医療機関で保管してください。

診療情報提供書等の資料請求先

医療連携室 電話 03-3964-9830

●診療時間外、休日の診療は代表電話(電話 03-3964-1211)より救急外来へご連絡ください。



診療科長
上妻 謙

外来医長
石川 敏夫 (内分泌)
主任医局長
田村 好古 (腎臓)
副医局長
新井 繁幸 (腎臓)
浅子 来美 (リウマチ・膠原病)
三浦 亮 (消化器)
川嶋 秀幸 (循環器)

病棟医長
盛田 幸司 (総合内科/総病棟医長)
宇野 健司 (総合内科)
柴田 茂 (総合内科)
浅岡 良成 (消化器/14階東病棟)
杉本 直也 (呼吸器/15階東病棟)
松本 謙介 (血液/16階西病棟)

診療内容・特色

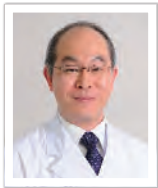
内科は、消化器、呼吸器、腎臓、血液、内分泌代謝・糖尿病、感染症、リウマチ・膠原病の各専門グループから構成されています。外来診療では、月曜日から金曜日の午前・午後及び土曜日の午前外来ブースで診療を行っています。内科外来は教授、准教授、講師を中心とした医師が担当し、各専門グループがそれぞれの外来にて、専門性の高い診療を行っています。病棟診療では総合内科を設けて、各内科専門グループからスタッフを供出して総合内科診療にあたります。また、専門性の高い診療・治療においては専門グループが独立したユニットをもって先進的な医療を提供する体制をとっています。さらに総合内

科と専門グループが協力することで様々な内科疾患への対応を可能とし、多くの疾患を同時に有する高齢者が益々増加する今後の我が国の医療に必須の体制であると考えております。このように、内科として一つの講座であるゆえに、横のつながりが非常に強く、円滑に専門グループへのコンサルテーションが可能であり、帝京大学医学部附属病院が目標とする「患者そして家族とともに歩む医療」を具現化していると考えております。各専門グループの情報については、各科のページをご参照いただければ幸いです。今後も、各専門グループが協力しての内科診療を医局員一同更に推進してまいりますので、宜しくお願い致します。

内分泌代謝・糖尿病



最新情報はこちら



塚本 和久



石川 敏夫



大久保 由美子



盛田 幸司

医局長
内野 卓也

糖尿病・脂質異常症などの代謝疾患、および下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎などの異常による内分泌疾患を診療対象としています。

代謝性疾患の診療においては、必要に応じて循環器内科・腎臓内科・眼科との併診を行って動脈硬化症・慢性腎臓病・眼疾患（網膜症など）などにも対処し、肥満症・高血圧症などの改善も目指す包括的な診療を心がけています。

内分泌疾患の診療においては、間脳下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎・膵消化管内分泌など多岐にわたる領域に対し、脳神経外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、外科、また必要に応じて他院とも連携して診療を行っています。

外来受付 **TEL:03-3964-1211 (代)**
内線:30214

再診予約・変更電話 **TEL:03-3964-8615**
受付時間(月～金) 13:00～17:00

医療連携室

初診予約専用 初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498

電話予約時間(平日) 8:30～17:00 (土曜日) 8:30～12:30

医師専門分野一覧

ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。

医師名	職位	専門分野	外来診療日
塚本 和久	教授	糖尿病・脂質異常症 代謝疾患	月 午後 金 午前・午後
石川 敏夫	教授	内分泌(甲状腺・副甲状腺 下垂体・副腎など)・糖尿病	水 午前・午後 木 午前・午後
大久保 由美子	医学教育学講座 主任教授	内分泌(甲状腺・副甲状腺 下垂体・副腎など)・糖尿病	水 午後
盛田 幸司	病院教授	内分泌(甲状腺・副甲状腺 下垂体・副腎など)・糖尿病	火 午前・午後 水 午前 金 午前
宇野 健司	准教授	糖尿病・脂質異常症・肥満症	月 午前 金 午前 木 午前
山崎 広貴	講師	内分泌代謝・糖尿病	火(偶数週) 午前・午後
内野 卓也	助教	内分泌代謝・糖尿病	木 午前・午後
寺川 瞳子	助手	内分泌代謝・糖尿病	月 午前 火(奇数週) 午前・午後
鈴木 崇史	助手	内分泌代謝・糖尿病	月 午前・午後
中島 利菜	臨床助手	内分泌代謝・糖尿病	当番外来
岡本 かおり	臨床助手	内分泌代謝・糖尿病	当番外来
飯郷 徹	シニアレジデント	内分泌代謝・糖尿病	当番外来
長谷川 嵩晃	シニアレジデント	内分泌代謝・糖尿病	当番外来
大畑 夏美	シニアレジデント	内分泌代謝・糖尿病	当番外来
神保 彰寛	医師	内分泌代謝・糖尿病	当番外来
神保 佳穂	医師	内分泌代謝・糖尿病	当番外来
伴光 帆奈美	医師	内分泌代謝・糖尿病	当番外来
眞弓 大輝	医師	内分泌代謝・糖尿病	当番外来
関口 徹	医師	内分泌代謝・糖尿病	当番外来
柴山 瑠里子	医師	内分泌代謝・糖尿病	当番外来
江戸 直樹	非常勤講師	内分泌代謝・糖尿病	金(奇数週) 午後
藤巻 祐子	非常勤助手	内分泌代謝・糖尿病	水 午後
石渡 千聖	非常勤医師	内分泌代謝・糖尿病	当番外来

血液



田代 晴子

医局長
白崎 良輔

当科では、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病などの血液悪性腫瘍や免疫性血小板減少症、再生不良性貧血などの非悪性腫瘍疾患も含めた幅広い血液疾患の診療を行っています。

確定診断前の患者さんのご紹介をいただくことも多く、必要な科と連携をとりながら速やかな診断が得られるよう努めています。確定診断後、悪性腫瘍であれば可及的速やかに入院にて治療の導入を行い、状態の安定された患者さんであれば通院での化学療法も積極的に行っています。

入院病床は、Class100の無菌室4床、Class10000の準無菌室8床を含む血液内科専門病床を擁しており、自家移植、同種移植（特に臍帯血移植）や化学療法を行っています。移植医療は多職種連携が重要な治療ですので、看護師（移植後フォローアップ認定看護師含む）、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカー、移植コーディネーターなどの多職種連携にも力を入れています。



最新情報はこちら

医師専門分野一覧		ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。		
医師名	職位	専門分野	外来診療日	
田代 晴子	教授	造血器悪性腫瘍(特に白血病) 造血細胞移植	火金	午前 午前・午後
松本 謙介	病院准教授	造血器悪性腫瘍 造血細胞移植	月土	午前・午後 午前
白崎 良輔	講師	造血器悪性腫瘍 (特に多発性骨髄腫)	水土	午前・午後 午前
松尾 琢二	助手	血液学(特に悪性リンパ腫)	月木	午前 午前・午後
荒井 翔也	助手	血液学	火	午前
大井 淳	医療技術学部 教授	造血器腫瘍 造血細胞移植	水	午前

腎臓



柴田 茂



藤垣 嘉秀

医局長
新井 繁幸

慢性腎臓病(CKD:Chronic Kidney Disease)は世界レベルにおいて注目されている病態であり、その原因としての糖尿病・高血圧・動脈硬化症など生活習慣病との関連で当科(腎臓内科)は全身を診る必要があります。また、将来の腎代替療法導入を遅らせるためにも当科の果たす役割は重要であります。当科では、

- ① 蛋白尿・血尿・尿量増加や減少・浮腫(むくみ)・高血圧・電解質異常など「腎・尿・ミネラル」に関することを全て診ます。
- ② 保存期CKDの管理(将来の腎代替療法導入を遅らせるための治療法の選択など)を集学的に行います。
- ③ 尿異常や腎機能障害が急に出現して悪化する場合は診断と治療について幅広く行います。
- ④ 患者のQOL(Quality Of Life)にふさわしい腎代替療法(血液透析もしくは腹膜透析)の選択および腎代替療法導入時の管理を行います。

以上のような医学的治療を栄養士・薬剤師・コメディカルさらにはかかりつけ医の方々と連携を取りながらチーム医療を実践しています。多発性のう胞腎と腎移植に関するご相談もお受けしています。



最新情報はこちら

医師専門分野一覧		ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。		
医師名	職位	専門分野	外来診療日	
柴田 茂	教授	慢性腎臓病・電解質異常 高血圧・血液浄化療法	水	午前・午後
藤垣 嘉秀	教授	腎炎・ネフローゼ・慢性腎臓病 血液浄化療法・急性腎不全	金土(第1・3・5週)	午前・午後 午前
田村 好古	准教授	腎臓病・透析・高血圧 高尿酸血症	月	午前・午後
山崎 修	准教授	腎臓病・透析・高血圧	月	午前
新井 繁幸	助教	腎臓病・透析・高血圧	木	午前・午後
奈倉 倫人	臨床助手	腎臓病・透析・高血圧	木土(第2・4週)	午前 午前
浅川 信一郎	臨床助手	腎臓病・透析・高血圧	金	午前
森本 幾之	臨床助手	腎臓病・透析・高血圧	火	午前
安川 穂	臨床助手	腎臓病・透析・高血圧	火土(隔週)	午後 午前
落合 文佳	臨床助手	腎臓病・透析・高血圧	火	午後
村田 博	シニアレジデント	腎臓病・透析・高血圧	月	午後
伴光 幸大	シニアレジデント	腎臓病・透析・高血圧	金	午後
村川 允崇	シニアレジデント	腎臓病・透析・高血圧	木	午後
河越 美佳	医師	腎臓病・透析・高血圧	水	午後
小田嶋 宏平	医師	腎臓病・透析・高血圧	土	午前
加世田 健	医師	腎臓病・透析・高血圧	水	午前
藤井 航	非常勤助手	腎臓病・透析・高血圧	火	午前

外来受付 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30214 再診予約・変更電話 TEL:03-3964-8615 受付時間(月~金) 13:00~17:00

医療連携室 初診予約専用
初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498 電話予約時間(平日) 8:30~17:00 (土曜日) 8:30~12:30

消化器



田中 篤



山本 貴嗣



最新情報はこちら

医局長
三浦 亮

専門外来

肝臓

あらゆる肝臓病に対して豊富な経験を有し、幅広く診療しています。B型・C型ウイルス肝炎については、田中教授は日本肝臓学会の治療ガイドライン作成において中心的な役割を果たしており、経口抗ウイルス薬による治療について十分な経験を持っています。肝臓についても消化器外科・放射線科と連携し、手術、ラジオ波焼灼術、経カテーテル動脈化学塞栓術、経口抗癌薬治療など、個々の患者さんの病態に応じた治療を行っています。厚生省が指定難病としている自己免疫性肝炎や原発性胆汁性胆管炎、原発性硬化性胆管炎など自己免疫性肝疾患については、他の施設から多くの紹介患者さんを受け入れ、診療に当たるとともに、田中教授は新薬の治験、診療ガイドライン作成の主導、一般向け・専門医向けの講演、国内・海外において研究成果の発表などを行っており、国内ではリーダー的存在です。また、他施設ではほとんど経験がないと思われる小児期発症の希少難治性肝・胆道疾患についても、小児科医・小児外科医と連携して成人期に達した患者さんの紹介を積極的に受け入れ、スムーズな移行期医療の推進に努めています。

胆道・膵臓

ここ数年、胆道癌、膵癌、胆嚢炎・胆管炎、膵炎など胆道・膵臓疾患の患者さんが急増しており、有住講師を中心として診療に当たっています。緊急治療を要する患者さんには24時間体制で対応する一方、胆道・膵臓癌の患者さんに対しては消化器外科・腫瘍内科と緊密に連携しながら、一人一人の患者さんの目線に立った丁寧な診療を心がけています。

消化管

癌診療と救急医療を軸に、炎症性腸疾患や機能性消化管障害など多くの疾患について専門性の高い診療を行っています。癌診療については、食道・胃・十二指腸・大腸の早期癌に対する先端的内視鏡治療を、小田島准教授を中心に複数の熟練医が日々行っています。また、外科、腫瘍内科など関係部署と協調して初診から治療までスムーズに行えるシステムを構築し、最適な治療を速やかに提供できるよう心がけています。救急医療については、救急診療部門と密に連携を取りながら24時間体制で対応しており、消化管出血や腸閉塞といった緊急を要する際は、適宜内視鏡等の治療を行っています。潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に対しては、2017年6月より下部消化管外科と共にIBDセンターを設立し、新規薬剤の導入など最新治療を積極的に取り入れながら、患者さん個々のニーズに合わせた治療を目指しています。また、慢性便秘症等の機能性消化管疾患の診療にも力を注いでおり、山本教授を中心に、生活の質の向上を目指した診療を行っています。

医師専門分野一覧

ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。

医師名	職位	専門分野	外来診療日	
田中 篤	教授	消化管・肝臓 ウイルス性肝疾患 自己免疫性肝疾患	月 木	午前 午前
山本 貴嗣	教授	消化管・消化管機能性疾患 薬剤性消化管傷害	水 木	午前 午前
浅岡 良成	准教授	消化管・肝臓・肝細胞癌 ラジオ波焼灼療法 分子標的治療	水 金	午前 午前
小田島 慎也	准教授	消化器(消化管) 消化管腫瘍に対する内視鏡診 断・治療	火	午前・午後
阿部 浩一郎	准教授	消化器(消化管)	火	午前
有住 俊彦	講師	消化器(胆膵)	水 土	午前 午前
三浦 亮	助教	消化器(肝臓)	木	午前・午後 (9月末まで)
青柳 仁	助教	消化器(消化管)	金	午前
丸山 喬平	助教	消化器(消化管)	土	午前
磯野 朱里	助手	消化器(消化管)	木 土	午後(IBD) 午前
松本 康佑	助手	消化器(肝臓)	月	午前
本田 卓	助手	消化器(消化管)	月	午前
清水 友貴	シニアレジデント	消化器	月	午後
梶田 航平	シニアレジデント	消化器	木	午後
徳富 遥	シニアレジデント	消化器	火	午後
山下 麻由	シニアレジデント	消化器	月	午後(9月末まで)
植村 伶央	シニアレジデント	消化器	火	午後
澁谷 悠希	シニアレジデント	消化器	水	午後
八児 逸平	シニアレジデント	消化器	金	午後
櫻井 美代子	医師	消化器	金	午前
生坂 顕	医師	消化器	水	午後
青木 直晃	医師	消化器	金	午後
竹内 研人	非常勤医師	消化器	月	午後(10月～)
曾根 雅之	非常勤医師	消化器	木	午後(10月～)

外来受付 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30214
再診予約・変更電話 TEL:03-3964-8615 受付時間(月～金) 13:00～17:00

医療連携室 初診予約専用 初診で紹介状をお持ちの方 TEL:03-3964-1498 電話予約時間(平日) 8:30～17:00 (土曜日) 8:30～12:30

感染症



北沢 貴利



吉野 友祐



最新情報はこちら

医局長
若林 義賢

呼吸器、肝・胆道、消化管、腎・尿路、中枢神経系などの内科領域を中心とした臓器の感染症診療を主として行っています。

皮膚・軟部組織、骨などの他領域の感染症に対しても、他の専門診療科と共同で診療を行っています。対象とする原因微生物も、細菌、真菌、ウイルス等多岐に渡ります。

また東京都エイズ診療拠点病院として、HIV感染症・サイトメガロウイルス感染症、PCP（ニューモシスティス肺炎）などの日和見感染症の専門家を数多くそろえており、これらの領域の診療経験はきわめて豊富です。新型コロナウイルス感染症で当院に入院した後にケアが必要となった方の診療も行っています。

また発熱が持続してその原因が分からない不明熱の方の対応もいたします。

ワクチン接種希望の方のご相談にも積極的に応じております。

医師専門分野一覧

ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。

医師名	職位	専門分野	外来診療日	
北沢 貴利	病院教授	感染症 敗血症・腎盂腎炎	月 火 木 土(第3週以外)	午前 午後 午前 午前
吉野 友祐	微生物学講座教授	感染症	火 金(第4週)	午前 午前
若林 義賢	講師	感染症	水 木 金(第4週以外) 土(第3週)	午前 午後 午前 午前
山本 藍	臨床助手	感染症	月	午後
中山 津	医師	感染症	水	午後

呼吸器・アレルギー



長瀬 洋之



医局長
杉本 直也



最新情報はこちら

気管支喘息、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、間質性肺炎、肺癌、慢性咳嗽など、最新の診断機器や治療薬を駆使して、呼吸器疾患全般に対応しています。当科は東京都アレルギー疾患医療専門病院に指定されています。気管支喘息は、500症例以上を外来診療しており、重症喘息診療の経験が豊富です。

当科全体で100症例近い抗体治療薬の経験があり、長瀬は喘息ガイドラインや抗体治療薬使用の手引き作成に従事しています。呼気一酸化窒素(FeNO)などの検査をもとに、適切に薬剤を選択いたします。COPDは、喘息との鑑別を行い、適切な治療薬を選択します。間質性肺炎は、的確な病型診断に基づき、最新の治療薬を導入しています。肺癌は、超音波気管支内視鏡も用いて、迅速な診断と治療開始をめざし、外来治療も積極的に行っています。腫瘍内科や緩和ケアチームとも連携しています。アナフィラキシーなどのアレルギー疾患についても、詳細な病歴聴取や検査により、原因の確定を行います。

医師専門分野一覧

ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。

医師名	職位	専門分野	外来診療日	
長瀬 洋之	教授	気管支喘息・COPD・アレルギー 間質性肺炎・肺癌 アスリート喘息・慢性咳嗽	月 木 禁煙外来 月(交代制)	午前・午後 午前・午後 午後
杉本 直也	講師	呼吸器・アレルギー 気管支喘息・間質性肺炎・肺癌	月 木	午前 午前・午後
石井 聡	助教	呼吸器・アレルギー 気管支喘息・間質性肺炎・肺癌	金	午前・午後
小林 このみ	助手	呼吸器・アレルギー 気管支喘息・間質性肺炎・肺癌	火 禁煙外来 月(交代制)	午前・午後 午後
豊田 光	助手	呼吸器・アレルギー	金	午前・午後
井本 早穂子	助手	呼吸器・アレルギー	月	午前・午後
竹下 裕理	助手	呼吸器・アレルギー	火	午前・午後
上原 有貴	医師	呼吸器・アレルギー	木	午後
服部 沙耶	医師	呼吸器・アレルギー	火	午後
石塚 眞菜	医師	呼吸器・アレルギー	金	午前
田中 悠太郎	医師	呼吸器・アレルギー	金	午後
永田 真紀	医師	呼吸器・アレルギー	月	午後
中野 純一	非常勤講師	呼吸器・アレルギー	水	午前・午後
江崎 崇	非常勤助手	呼吸器・アレルギー	木	午前
鈴木 有季	非常勤助手	呼吸器・アレルギー	火	午前

外来受付 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30214
再診予約・変更電話 TEL:03-3964-8615 受付時間(月～金) 13:00～17:00

医療連携室 初診予約専用 初診で紹介状をお持ちの方 TEL:03-3964-1498 電話予約時間(平日) 8:30～17:00 (土曜日) 8:30～12:30

リウマチ・膠原病



最新情報はこちら



河野 肇

医局長
浅子 来美

関節リウマチ・全身性エリテマトーデス、血管炎をはじめとする膠原病とその類縁疾患の治療と診断を幅広く行っています。特にベーチェット病については治療経験が豊富です。

プライマリケアで問題になる多発関節痛、発熱、筋痛、全身症状を伴う皮疹などの鑑別診断に力を入れております。入院病棟では大きなベッド数を担当する総合内科の一員として活動しています。総合内科病棟にはリウマチ膠原病専門医の他に感染症、糖代謝内分泌、腎臓、循環器、呼吸器、消化器、血液の指導医が属しております。そのため多臓器の病変をきたしうるリウマチ膠原病の各種病態に対して、各臓器専門医との強力なパートナーシップのもとに診療にあたっております。このような体制は不明熱などの患者さんの診断決定にも強力な助けとなっております。

医師専門分野一覧

ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。また「リウマチ・膠原病新患枠」をお使いいただくと早めの予約がお取りいただけます。

医師名	職位	専門分野	外来診療日
河野 肇	教授	リウマチ・膠原病 アレルギー・不明熱	月 木 午前・午後
菊地 弘敏	医療共通教育研究センター教授 (G-MEC)	リウマチ・膠原病 ベーチェット病	火 水 午後 午前・午後
浅子 来美	助教	リウマチ・膠原病	火 水 午前・午後
木村 佳貴	微生物学講座 助教	リウマチ・膠原病	月 午前
大久保 麻衣	助教	リウマチ・膠原病	金 午前・午後
冨塚 崇史	助手	リウマチ・膠原病	水 木 午後 午前
廣畑 俊成	客員教授	リウマチ・膠原病 ベーチェット病	土(第2・4週) 午前
中島 壘	医師	リウマチ・膠原病	金 午後
津久井 大輔	非常勤助手	リウマチ・膠原病	木 午後
小口 洋子	非常勤医師	リウマチ・膠原病	木 午前

外来受付 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30214 再診予約・変更電話 TEL:03-3964-8615 受付時間(月～金) 13:00～17:00

医療連携室 初診予約専用
初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498

電話予約時間(平日) 8:30～17:00 (土曜日) 8:30～12:30

緩和ケア内科



最新情報はこちら



診療科長
有賀 悦子

診療内容・特色

他院・当院で外来がん治療中の方、地域医療機関にかかりつけの方、ご遺族の方を対象に、(1)身体的な不快な症状(疼痛・嘔吐・呼吸困難・リンパ浮腫など)、(2)精神・心理的な問題(不安・不眠・抑うつ・せん妄など)、(3)療養の場の選択支援(在宅、ホスピス・緩和ケア病棟、介護施設など)、(4)社会制度利用のサポート(医療保険、介護保険・福祉制度など)、(5)今後の事(治療、生活全般など)を決めていく支援(意思決定支援;アドバンス・ケア・プランニング)、(6)ご家族のサポート、(7)ご遺族のケアなどを提供しています。

がん治療の院内外のスタッフと連携し、緩和ケアや精神科医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどの多職種緩和ケアチームで行っており、緩和ケア内科はそのチームをリードしていく診療科です。

がん治療や病期に関わらず、外来をいつでも受診していただけます。病床を持っていない関係で、入院はお受けしていません。ご相談内容によっては、院内の治療主科との連携や専門職種への紹介、地域の医療機関や行政(福祉課等)との協働も行っています。

専門外来

症状緩和・がん患者支援外来

2018年9月より当院では緩和ケアセンターが設立され、患者さんの苦痛をそのままにしないチーム医療を展開しています。その活動の一つが、がんと診断された早い時期から受診頂ける外来です。体の症状がない方でも、気がかりなことがあればご受診いただけます。また、治療後後遺症(例:リンパ浮腫)の長期フォローも行っています。



医師専門分野一覧

ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。

医師名	職位	専門分野	外来診療日
有賀 悦子	科長 教授	緩和医療学・腫瘍免疫学	月・金 午後

外来受付 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30214 再診予約・変更電話 TEL:03-3964-4164 受付時間(月～金) 13:00～17:00

医療連携室 初診予約専用
初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498

電話予約時間(平日) 8:30～17:00 (土曜日) 8:30～12:30



診療科長

上妻 謙

外来医長

横山 直之

病棟医長

渡 雄至

医局長

渡邊 雄介

専門外来

循環器内科の専門外来としては、ペースメーカー外来とICD(植え込み型除細動器)外来があります。

これらの外来は体内に植え込まれたペースメーカーや除細動器などの定期的な管理を目的としています。ペースメーカー外来とICD外来は共に火曜午後となっています。また、開胸しない新しい弁膜症の治療である経カテーテル大動脈弁植え込み術(TAVI)および経皮的僧帽弁接合不全修復術(MitraClip)を積極的に行っております。弁膜症のカテーテル治療専門外来は金曜日・土曜日午前に渡邊雄介外来で行っております。

睡眠呼吸障害センター

睡眠時無呼吸症候群は、心不全や高血圧に合併しやすく、循環器内科が介入して治療するケースがもともと多くありました。その他にも耳鼻科や歯科口腔外科、呼吸器内科など、多岐にわたる原因がある可能性があります。さまざまな科が協力して治療に当たれるよう、睡眠呼吸障害センターを設立しました。専門外来としては月曜日と木曜日の午後に行っております。

診療内容・特色

循環器内科は心臓血管領域の循環器疾患を専門としています。狭心症や心筋梗塞などの冠動脈疾患や動脈硬化症、各種不整脈、弁膜症、心筋症、心不全、高血圧、大動脈疾患、末梢動脈疾患など、多くの疾患をカバーする領域です。当科では高度な集中管理が可能な循環器センター病棟をバックに、急性心筋梗塞や急性大動脈解離、急性心不全などの救急疾患にも24時間体制で対応しています。

得意な分野は、経皮的冠動脈インターベンション、弁膜症に対するカテーテル治療、不整脈や心不全に対する低侵襲治療です。

令和4年度治療実績は経皮的冠動脈インターベンション405例、末梢血管インターベンション64例、ペースメーカー/植え込み型除細動器/心臓再同期療法計106例、心房細動を中心としたカテーテルアブレーション70例でした。カテーテルにより人工弁を植え込む経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)は、令和4年は208例行い、全国屈指の症例数です(東京都2位)。平成30年4月より新しいカテーテル治療として経皮的僧帽弁接合不全修復術(MitraClip)とインペラ補助循環用ポンプカテーテルも始まり、令和4年にMitraClipは40例(東京都2位)、インペラは16例を施行し、最新の心不全治療に対応しております。

外来は教授3名、准教授1名、講師2名を含めた17名の医師が月曜から金曜まで(土曜日は臨時外来のみ)毎日診療を行っています。

そのほか、外来患者さんに対する心臓リハビリテーションも月曜から土曜まで(土曜午後は休診)、毎日行っています。

当科の外来は完全予約制となっていますが、紹介状があれば予約外での診療も随時行います。初診で受診される場合には、心電図やレントゲン、採血結果などの資料とともにかかりつけ医からの紹介状があると、大変参考になります。また、常用薬がありましたら、お薬手帳など、リストをお持ち頂きますようお願い致します。

医師専門分野一覧

ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。

医師名	職位	専門分野	外来診療日
上妻 謙	科長 教授	循環器一般・虚血性心疾患 冠動脈インターベンション 薬剤溶出性ステント	火・木 午前
横山 直之	教授	循環器一般・虚血性心疾患 弁膜症・脈管疾患 循環器画像診断	月 金 午前・午後 午前
渡邊 雄介	教授	循環器一般・弁膜症 経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI) 経皮的僧帽弁接合不全修復術(MitraClip) 冠動脈インターベンション 経皮的左心耳閉鎖(WATCHMAN)	金 土 午前 午前
片岡 明久	准教授	循環器一般・弁膜症 経皮的僧帽弁接合不全修復術(MitraClip) 循環器画像診断	火 午前・午後
渡 雄至	講師	循環器一般 不整脈(心房細動アブレーション)	水 午前・午後
山本 裕貞	講師	循環器一般 冠動脈インターベンション 心血管内イメージング	金 午前・午後

医師名	職位	専門分野	外来診療日
川嶋 秀幸	助教	循環器一般・心臓弁膜症・経カテーテル大動脈弁置換術・虚血性心疾患・冠動脈インターベンション	水 午後
高村 慎太郎	助教	循環器一般 心血管インターベンション	月 午前
初野 弥奈	助手	循環器一般・不整脈・ペースメーカー・植え込み型除細動器	金 午前
片山 大河	助手	循環器一般・睡眠時無呼吸 心臓リハビリテーション	月 木 午後 午前
井関 洋成	助手	循環器一般	火 午前
太田 龍哉	助手	循環器一般	月 午前
岡本 真希	助手	循環器一般	水 午前
土田 泰之	医師	循環器一般	木 午前
鬼頭 健人	医師	循環器一般	木 午後
藤井 美佐子	医師	循環器一般	水 午前
初野 健人	非常勤医師	循環器一般・睡眠時無呼吸	木 午後

外来受付 TEL:03-3964-1211 (代)内線:30214
再診予約・変更電話 TEL:03-3964-8615 受付時間(月~金) 13:00~17:00

医療連携室 初診予約専用 TEL:03-3964-1498 電話予約時間(平日) 8:30~17:00 (土曜日) 8:30~12:30
初診で紹介状をお持ちの方



診療科長

関 順彦

外来医長

市川 靖子

病棟医長

丹澤 盛

専門外来

腫瘍内科では肺がん、消化器がん、乳がんなど、いろいろながんの抗がん剤療法を中心に、療養全般にわたる専門的な診療を行います（年間の入院治療約300例、外来化学療法約1500件）。また、がんに関する、予防・診断・治療についての総合的なご相談をお受けします。

当科は、キャンサーボードによる各臓器がん分野の内科、外科など関連診療科医師と連携しながら、治療を行っています。

専門的な抗がん剤の治療だけでなく、がん検診や緩和医療など、がんについてのさまざまなご相談もお受けします。なお外来診療担当日については、担当曜日以外でも毎日腫瘍内科として受診可能です。

腫瘍内科では、定期的に、入院・外来を問わず担当患者さんに関するスタッフ間診療連絡ミーティングを行っています。

外来化学療法

帝京大学医学部附属病院外来化学療法室では、抗がん剤治療に熟練した腫瘍内科医師に加え、専属の看護師・薬剤師により患者さんの安全を最優先に、快適な環境のもとで抗がん剤治療を受けていただくことができます。

肺がん、消化器がん、乳がんなどをはじめとするさまざまながんにおいて、薬物療法の役割が増加しています。さらに、ここ数年来、分子標的薬というがん細胞に特異的な効果を示す薬剤が次々に開発導入され、複数の臓器のがんにおいて同一の分子標的薬が効果を発揮することが明らかになってきました。手術や放射線治療と組み合わせた集学的治療を行うことが多くのがんにおいて一般的になりつつあり、新たな薬剤開発とともに副作用に対する支持療法や緩和ケアも飛躍的に進歩しています。

外来での抗がん剤治療の実施により、これまでの生活を維持しながら抗がん剤治療を継続することができるようになりました。外来化学療法室では、治療の前後やご自宅などでご心配なことがあった場合でも、電話で相談をお受けしています。かかりつけの地域医療機関の皆さまとの連携を基盤として、通院や入院を分け隔てることなく、最適ながん治療を提供しています。

診療内容・特色

腫瘍内科は、当院が地域がん診療連携拠点病院に指定された平成20年に開設されました。がん診療連携拠点病院の高次機能として、専門的ながん薬物療法を担当しています。患者数の多い5大がんから原発不明がんなどまで、各臓器専門の診療科と連携し、総勢6名で、いろいろな進行がんの治療を行っています。当科のスタッフは国立がん研究センター中央病院・東病院、四国がんセンター、神奈川県立がんセンターなどがん専門センター病院に勤務していた実績のある医師で構成され、抗がん剤の分野では、日本臨床腫瘍学会薬物療法専門医資格を有する医師が6名勤務しています。スタッフの中で、臓器がんの担当が決まっていますが、診療科内で毎日連絡を密にしているので、ご紹介初診については、どの曜日でもがん腫にかかわらず受診いただくことが可能です。

肺がん、乳がん、大腸がん、胃がん、原発不明がん等を対象とした専門的ながん薬物療法、緩和的治療としての骨・脳転移などに対する放射線治療、疼痛対策などを担当しています。院内の外科・内科のみならず、放射線治療医、緩和ケア医、ペインクリニックなど、院外では地域の医療機関と連携して、進行・再発がん患者さんの総合的な診療を行っています。がんの標準治療を安全に実施し、新しい抗がん剤の治験や副作用対策の新薬に関する治験、多施設共同試験グループによる臨床試験などを積極的に行い、最新かつ最善のがん医療の提供に取り組んでいます。また、がん検診や予防に関するご相談や、セカンドオピニオン外来も行っていきますので、患者さんのご要望によりご利用いただければ幸いです。

医師専門分野一覧			ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。	
医師名	職位	専門分野	外来診療日	
関 順彦	科長 教授	臨床腫瘍学・肺がん・消化器がん・乳がん・原発不明がん	火・金	午前・午後
渡邊 清高	病院教授	臨床腫瘍学・消化器がん・肺がん・原発不明がん等の診療および連携に関する相談	木	午前・午後
市川 靖子	講師	臨床腫瘍学・肺がん・消化器がん・原発不明がん	火 水	午前 午後
本田 健	講師	肺がん・消化器がん・乳がん	月	午前
丹澤 盛	講師	肺がん・消化器がん・乳がん	金	午前・午後
石原 昌志	助教	肺がん・消化器がん・乳がん	水	午前

外来受付 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30214
再診予約・変更電話 TEL:03-3964-8615 受付時間(月～金) 13:00～17:00

医療連携室 TEL:03-3964-1498 電話予約時間(平日) 8:30～17:00 (土曜日) 8:30～12:30
初診予約専用 初診で紹介状をお持ちの方



診療科長
小林 俊輔

外来医長
斉藤 史明

病棟医長
北國 圭一

医局長
千葉 隆司

専門外来

物忘れ外来

当科では物忘れ専門外来を完全予約制で受けております。物忘れや認知症を心配されている方、高次脳機能障害の評価をご希望の方を対象とした外来です。診断・評価を行い、その後の継続的な診療はかかりつけ医療機関で受けて頂きます。かかりつけ医がいる場合は診療情報提供書を持参の上、必ず身近なご家族・介護者が同伴して受診してください。当科での診断・評価後はかかりつけ医の元に通院していただくことになります。

神経筋電気診断センター

針筋電図、神経伝導検査、体性感覚誘発電位（SEP）、超音波などの生理学的検査法を駆使して、脊髄・末梢神経・筋疾患を診断する分野を、神経筋電気診断学といいます。当科では以前より圓生雅弘前教授がこの分野のエキスパートとして全国からの紹介を受けており、2014年から「神経筋電気診断センター」と公示して、他の医療機関からのご相談をお受けしております。中央検査部とも協力し、日本臨床神経生理学会専門医・専門技術師総計14名を中心に診療にあたっています。圓生雅弘前教授も当センターにて継続して診療にあたっています。当科外来では問診、診察によってこれらの検査の必要性を判断し、神経筋電気診断センターとシームレスに連携して神経伝導検査、筋電図など電気生理学的な手法や超音波による診断を行います。当センターは他医療機関からの紹介のみを受けております。当センターへの紹介については、脳神経内科外来にお問い合わせ下さい。

受診を考えられる方へ

最初に書いたような症状が気になる方は、どうぞ受診をご検討下さい。ただし、かかりつけ医等にご相談の上、紹介状（診療情報提供書）をご持参ください。

他医療機関の方へ

神経疾患が疑われる患者さんのご紹介をお受けいたします。特定機能病院としての高度外来・入院機能を維持するために、診療方針の決まった患者さんについては積極的に地域に逆紹介しています。

外来受付 **TEL:03-3964-1211 (代)**
内線:30208
再診予約・変更電話 **TEL:03-3964-8528**
受付時間(月～金) 13:00～17:00

医療連携室
初診予約専用 初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498
電話予約時間(平日) 8:30～17:00 (土曜日) 8:30～12:30

診療内容・特色

脳神経内科では、神経系(脳、脊髄、末梢神経、筋)の器質的な(精神的なものではない)疾患を対象に診療を行っております。症状としては頭痛、しびれ、めまい、ものが二つに見える、呂律が回らない、手足が動かない、ふるえる、歩行の障害など多岐にわたります。

当科では地域の医療機関と連携しながら、脳卒中、脳炎、髄膜炎などの急性期疾患や、パーキンソン病、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症などの神経難病から片頭痛など一般的な疾患まで対象として診療しております。特にしびれ・脱力については下記の神経筋電気診断センターをご参照ください。

また、専門外来にしておりませんが、頭痛診療、パーキンソン病・パーキンソン関連疾患、神経免疫疾患の診療にも力を入れています。難治の片頭痛症例やパーキンソン病・パーキンソン関連疾患の初期評価や治療に難渋する進行期症例、多発性硬化症・視神経脊髄炎・重症筋無力症の評価治療についてのご紹介をお受けいたします。

当院は脳卒中学会指定の一次脳卒中センターコア施設として24時間365日脳卒中患者を受け入れております(脳卒中センターの詳細はP.50に掲載しております)。

医師専門分野一覧

ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。

医師名	職位	専門分野	外来診療日
小林 俊輔	科長 主任教授	臨床神経学 高次脳機能障害 パーキンソン病	脳神経内科(初診) 月 午後 土(第1・3・5週) 午前
			脳神経内科(再診) 月 午後 水・土 午前 もの忘れ外来 月 午後
斉藤 史明	教授	臨床神経学 認知症・変性疾患 神経筋疾患分子病態学	脳神経内科(初診) 月 午前・午後 脳神経内科(再診) 月 午前・午後 もの忘れ外来 月 午前・午後
			火・土 午前
畑中 裕己	准教授	臨床神経学・脳卒中 神経筋電気診断学(臨床 神経生理学)	脳神経内科(初診) 木 午前 水 午後 脳神経内科(再診) 木 午前 土(第2・4週) 午前
			土 午前
北國 圭一	講師	臨床神経学・脳卒中 神経筋電気診断学(臨床 神経生理学)	脳神経内科(初診) 金 午前 土(第2・4週) 午前 脳神経内科(再診) 水 午後 土 午前
			土 午前
磯尾 紀子	生理学講座 講師	生理学・臨床神経学 認知症	もの忘れ外来 木 午後
神林 隆道	助教	臨床神経学 神経筋電気診断学(臨床神 経生理学) 脳卒中	脳神経内科(初診) 水 午前 土(第1・3・5週) 午前 脳神経内科(再診) 水 午前 土(第1・3・5週) 午前
			土 午前
千葉 隆司	助教	臨床神経学 神経筋電気診断学(臨床神 経生理学)	脳神経内科(初診) 水 午前 脳神経内科(再診) 水 午前・午後
			水 午前
古川 裕一	臨床助手	臨床神経学	脳神経内科(初診) 月 午前 脳神経内科(再診) 水 午前 木 午後
			木 午後
松倉 清司	臨床助手	臨床神経学	脳神経内科(初診) 水 午後 脳神経内科(再診) 水 午後 金 午前
			金 午前
内田 雄大	臨床助手	臨床神経学	脳神経内科(初診) 木・金 午後 脳神経内科(再診) 木・金 午後
			木・金 午後
向井 泰司	臨床助手	臨床神経学	脳神経内科(初診) 木 午前
			木 午前
田中 園子	臨床助手	臨床神経学	脳神経内科(初診) 火・金 午前 土(第2・4週) 午前 脳神経内科(再診) 火 午後 金・土 午前
			火 午後
永井 知代子	非常勤講師	臨床神経学・神経心理学・高 次脳機能障害	脳神経内科(再診) 木 午後
			木 午後
圓生 雅弘	医療技術学部 教授	臨床神経学 神経筋電気診断学(臨床 神経生理学)・筋電図検査 約17,000例・脊髄・末梢神 経・筋疾患	脳神経内科(初診) 金 午前 (圓生宛紹介予約のみ)
			金 午前
藤井 勇基	シニアレジデント	臨床神経学	脳神経内科(初診) 火 午後 木 午前 脳神経内科(再診) 火 午後
			火 午後
黒澤 豪	シニアレジデント	臨床神経学	脳神経内科(初診) 金 午後
			金 午後
新井 祐子	医師	臨床神経学	脳神経内科(再診) 火 午前(不定期)
			火 午前(不定期)
村嶋 英治	医師	臨床神経学	脳神経内科(再診) 金 午後(不定期)
			金 午後(不定期)
新井 謙	非常勤医師	臨床神経学	脳神経内科(再診) 月(第1・3週) 午前



診療科長
深川 剛生
外来医長
齋藤 雄一
病棟医長
澁谷 誠
金子 建介
清川 貴志
細田 利史
医局長
堀川 昌宏

診療内容・特色

全ての外科疾患を対象としています。対象は上部消化管疾患(胃・食道)、下部消化管疾患(大腸・小腸・肛門)、肝臓・胆道・膵臓疾患、呼吸器疾患(肺・縦隔等)、乳腺疾患、内分泌疾患(甲状腺・副甲状腺)をはじめ、内視鏡外科疾患や胸壁疾患(ヘルニア等)、小児外科領域など多岐にわたります。今年度からACS(Acute Care Surgery)部門が新しく外科に含まれます。

対象となる疾患は悪性疾患が多く、術後のQuality Of Life(QOL)を維持するため、内視鏡下手術や縮小手術、ロボット手術を積極的に行っています。また、進行がんや良性疾患には化学療法や内視鏡下手術を含む低侵襲手術を行うなど患者さんひとりひとりにとってよりよい治療が選択できるようにしています。全ての外科系の救急疾患に対しても対応することができ、指導医のもとに最善の医療を心がけています。

呼吸器



最新情報はこちら



坂尾 幸則



川村 雅文

呼吸器疾患のうち外科的な治療・診断が必要な疾患を対象に診察いたします。具体的には肺癌、転移性肺腫瘍(大腸癌や子宮癌などが肺に転移したもの)、縦隔腫瘍、胸膜中皮腫、自然気胸、巨大肺嚢胞、肺膿瘍、肺化膿症、結核、非結核性抗酸菌症、重症筋無力症、肺分画症等の先天性肺疾患、外科的診断が必要な疾患(原因不明の胸水貯留・間質性肺炎)など幅広い疾患が対象となります。

患者さんには負担が少ない術式を選択することを考慮し、自然気胸・転移性肺腫瘍ではほぼ全例で、肺癌の手術では7~8割の症例で胸腔鏡手術が行われ、小さな傷で治療がなされています。

超音波気管支鏡(EBUS)を用いて縦隔リンパ節の穿刺吸引細胞診を行うことにより手術前の病期を確定し、必要に応じて手術前化学療法を実施いたします。複数の臨床試験に参加した経験から化学療法、放射線療法、分子標的治療、凍結治療等に習熟しており、進行した肺癌の手術後の補助療法(抗癌薬治療)や再発した肺癌の治療等につきましても患者さんの希望を踏まえた上で最適な治療法をご提案いたします。

健康診断で胸部に異常陰影を指摘され専門の医療機関の受診を勧められた方や、既に他院で治療を勧められている方のセカンドオピニオンのご相談も受け付けています。

医師専門分野一覧

ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。

医師名	職位	専門分野	外来診療日
坂尾 幸則	教授	約3000例の呼吸器外科手術、約2000例の肺がん手術を術者・指導者として手掛けています。その約7割が胸腔鏡手術です。肺癌はもちろん多様な疾患についてもご相談下さい。	月木 午前・午後 午後
川村 雅文	教授	呼吸器外科手術(年間250例:総手術経験症例数3,000例超) 肺がん手術経験症例数1,000例超・特に高齢者呼吸器外科手術を得意とする	水 午前
齋藤 雄一	准教授	肺感染症に対する手術を得意とする 結核療養所で呼吸器外科手術を500例以上経験 ハイブリット手術室で呼吸器外科手術を行っています	月木土(第1・3・5週) 午前 午後
山内 良兼	講師	ロボット手術を含む呼吸器外科手術、および気管支鏡検査 患者さん個々の状況に寄り添い、迅速に対応させていただきます	月金土(第2・4週) 午後 午前・午後 午後
出嶋 仁	助教	呼吸器外科	月木 午前 午後
白井 俊	臨床助手	呼吸器外科	木金 午後 午後

肺・縦隔腫瘍のロボット手術を行っています。

対象となる主な疾患

- ・肺癌
- ・転移性肺腫瘍(大腸癌や子宮癌などが肺に転移したもの)
- ・縦隔腫瘍
- ・胸膜中皮腫
- ・自然気胸、月経随伴性気胸、難治性気胸、巨大肺嚢胞
- ・感染症:膿胸、肺膿瘍、肺化膿症、結核、非結核性抗酸菌症
- ・重症筋無力症
- ・先天性肺疾患:肺分画症等
- ・外科的診断が必要な疾患(原因不明の胸水貯留・間質性肺炎)など

外来受付 TEL:03-3964-1211(代) 内線:30224
再診予約・変更電話 TEL:03-3964-8657 受付時間(月~金) 13:00~17:00

医療連携室 初診予約専用
初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498 電話予約時間(平日) 8:30~17:00 (土曜日) 8:30~12:30

肝胆膵



佐野 圭二



三澤 健之



最新情報はこちら

肝胆膵外科は、難治がんの代表といわれる肝臓、胆道（胆管、胆嚢、乳頭部）、膵臓のがん治療を中心に治療をしています。肝臓にがんができれば直接命にかかわること、胆道のがんでは黄疸になり小さながんでも命とりになること、またおなかの深いところにある膵臓のがんは見つけにくく、早期に見つけても血液やリンパの流れにのって転移をおこしやすいなど難敵です。

われわれは化学療法や放射線治療をつかって進行がんを安全に確実に切除する工夫をした手術、さらにはキズが小さく痛みが少ない腹腔鏡下手術・最新鋭のロボット手術を積極的にを行っています。その他、重粒子線・陽子線や新しい薬の開発などの研究も多くの病院と協力して積極的に行っています。個々の患者さんに最適で最善ながん治療を提供いたします。

皆さんお気軽に何でもご相談ください。



医師専門分野一覧

ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。

医師名	職位	専門分野	外来診療日
佐野 圭二	教授	肝切除(肝硬変・多発肝腫瘍) 部分肝移植・胆道癌切除(肝門部胆管癌・胆嚢癌)・膵切除	火金 午前・午後
三澤 健之	教授	肝胆膵脾拡大手術 腹腔鏡下手術(ロボット手術)	金 午前・午後
澁谷 誠	助教	肝胆膵悪性切除、膵嚢胞性疾患切除、脾臓切除、高難度腹腔鏡下手術、ロボット手術	木 午前
貝沼 雅彦	助手	肝胆膵悪性切除・腹腔鏡手術 生体肝移植手術	火 午前
高橋 邦彦	助手	肝胆膵悪性切除・救急手術	土 午前
渡邊 理	臨床助手	腹腔鏡手術・ヘルニア手術	木 午前

対象となる主な疾患

肝臓の病気	肝細胞癌、肝内胆管癌(胆管細胞癌)、転移性肝腫瘍、肝内結石症、嚢胞性疾患等
膵臓の病気	膵癌、膵管内腫瘍(IPMN、MCN)、膵神経内分泌腫瘍(インスリノーマ、ガストリノーマ等)、急性膵炎、慢性膵炎、膵石症等
胆道の病気	胆管癌、胆嚢癌、十二指腸乳頭部癌、胆石症、胆嚢胆管炎、先天性胆管拡張症等
脾臓の病気・脾摘術が必要な病気	脾腫瘍、肝硬変に伴う脾腫や胃・食道静脈瘤、特発性血小板減少性紫斑病、遺伝性球状赤血球症等
ヘルニア(鼠径部・手術跡)	

内分泌



池田 達彦



最新情報はこちら

帝京大学内分泌外科は2021年4月より本格的に診療を再開しました。主に甲状腺および副甲状腺疾患全般を対象としています。甲状腺については、バセドウ病・橋本病・亜急性甲状腺炎・甲状腺良性腫瘍・甲状腺がんなどの疾患があります。甲状腺疾患は些細な症状のことが多く見つからないまま放置されている事も少なくありません。主に手術が必要な疾患を対象としていますが、それ以外でも甲状腺の事であれば何でも対応致します。

医師専門分野一覧

ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。

医師名	職位	専門分野	外来診療日
池田 達彦	講師	内分泌外科 (甲状腺・副甲状腺)	水木土 午前・午後

副甲状腺については原発性副甲状腺機能亢進症の原因となる腺腫・過形成・がんや、2次性副甲状腺機能亢進症などを対象としています。

当科の特徴としては、超音波専門医による確実な診断が得られることや、内分泌外科専門医による最新の知見に基づいた治療が行えることがあります。また手術は小切開による低侵襲手術を行っていることや、他科の協力も得て気管浸潤などの進行した甲状腺がんの手術も行えることなども挙げられます。

甲状腺、副甲状腺でお困りの際はお気軽にご相談ください。

外来受付 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30224
再診予約・変更電話 TEL:03-3964-8657 受付時間(月～金) 13:00～17:00

医療連携室 初診予約専用 初診で紹介状をお持ちの方 TEL:03-3964-1498 電話予約時間(平日) 8:30～17:00 (土曜日) 8:30～12:30

上部消化管



深川 剛生



最新情報はこちら

上部消化管外科は、食道、胃、十二指腸の病気を中心に、その診断と治療を行っています。
 具体的には、食道癌、胃癌、十二指腸癌、胃・十二指腸潰瘍、ポリープ、異物、その他の腫瘍などが対象です。
 癌の治療では部位やその進み具合に即して、①お腹や胸を切らない内視鏡的治療、②小さい創で手術をする腹腔（胸腔）鏡補助下手術、③逆流やダンピング症状を少なくする幽門保存手術、胃を全摘した場合の代用胃（空腸嚢）の作成、④進行した癌に対しては、抗がん剤や放射線などを組み合わせた集学的治療を行っています。さまざまな原因で食事ができない人に対して、栄養を与えるための胃瘻や腸瘻、食道瘻を内視鏡的(PEG)あるいは外科的に造っています。また、在宅で点滴の栄養や胃瘻からの栄養を行って栄養状態を改善するお手伝いも致します。
 鼠径ヘルニアの診療も行っていますのでお気軽にご相談ください。

胃癌の腹膜播種(腹膜転移)に対する治療

腹膜に転移した胃癌の治療は大変困難です。このような患者さんの腹腔内(お腹の中)に直接抗がん薬(パクリタキセル)を投与すると、従来の治療に比べて良好な成績が得られています。これまで当科では先進医療や患者申出医療としてこの治療法を行ってきましたが、新規登録が終了しましたので、現在は自由診療で行っています。どうぞご相談ください。

医師専門分野一覧		ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。		
医師名	職位	専門分野	外来診療日	
深川 剛生	科長 主任教授	上部消化管外科 胃がん・食道がん手術 化学療法	火 水	午前・午後 午前・午後
清川 貴志	講師	上部消化管外科 腹腔鏡手術(胃)	火	午後
外村 修一	助教	上部消化管外科・食道がん手術	水	午前・午後
堀川 昌宏	助教	上部消化管外科・ヘルニア	木・土	午前
熊田 宜真	臨床助手	上部消化管外科・ヘルニア	木	午後
鈴木 悠介	臨床助手	上部消化管外科・ヘルニア	水	午後
緑川 裕紀	臨床助手	上部消化管外科・ヘルニア	火	午後

胃癌のロボット手術を行っています。
 問い合わせ先：深川 剛生、清川 貴志

下部消化管



落合 大樹



最新情報はこちら

診療内容

下部消化管グループでは主として大腸・肛門、小腸の病気の診断と治療を行っています。下部消化管に関わるすべての外科的疾患を扱っており、大腸がん、大腸ポリープ、痔核、炎症性腸疾患、腸閉塞などが主な診療対象です。虫垂炎や鼠径ヘルニアなども診療いたします。
 外科手術のほかに大腸がんの化学療法、緩和医療、大腸内視鏡検査、注腸造影検査などの検査も行っています。どのような時に下部消化管グループを受診するかについては特徴・特色の項をご覧ください。

特徴・特色

下部消化管グループでは主として大腸・肛門、小腸の外科的疾患の診断と治療を行っています。当グループでは大腸肛門病学会より認定された指導医・専門医を中心に、火・木・金曜日、担当医が外来診療を行っています。急病の場合にはいつでも対応可能です。

医師専門分野一覧		ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。		
医師名	職位	専門分野	外来診療日	
落合 大樹	教授	消化器外科・大腸癌化学療法 腹腔鏡手術(良性・悪性大腸疾患全般) ロボット手術(直腸・結腸) 開腹手術(良性・悪性大腸疾患全般)・ 炎症性腸疾患	火 金(新患のみ)	午後 午前
野澤 慶次郎	准教授	消化器外科(主に下部消化管) 腹腔鏡手術(良性・悪性大腸疾患全般) ロボット手術(直腸・結腸) 開腹手術(良性・悪性大腸疾患全般)・ 炎症性腸疾患	下部消化管 人工肛門	火 水・金 午前 午後
端山 軍	講師	消化器外科(主に下部消化管) 腹腔鏡手術(良性・悪性大腸疾患全般) ロボット手術(直腸・結腸) 開腹手術(良性・悪性大腸疾患全般)・ 炎症性腸疾患	火	午前
福島 慶久	助教	消化器外科(主に下部消化管)	木	午後
金子 建介	助教	消化器外科(主に下部消化管)	火	午後

対象となる主な疾患

腫瘍性疾患	大腸がん、肛門がん、小腸がん、大腸ポリープ、大腸ポリポースなど
炎症性腸疾患	潰瘍性大腸炎、クローン病、虚血性大腸炎、腸バネーケット病、大腸憩室炎など
機能的腸疾患	便秘、大腸憩室症、偽性腸閉塞症など
急性腹症	急性虫垂炎、穿孔性腹膜炎、腸閉塞症、急性腸間膜血管閉塞症など小腸、大腸、肛門のあらゆる外科的疾患が対象となります。

乳 腺



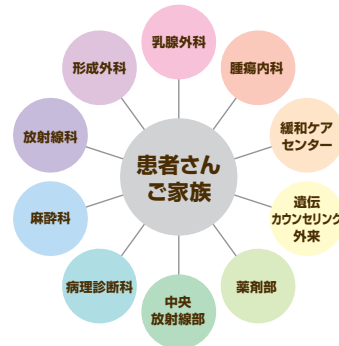
最新情報はこちら



神野 浩光

乳腺外科では、乳癌を主とした乳腺疾患全般の診療を行っています。乳癌は日本人女性の中で最も罹患率が高い癌ですが、同時に根治する可能性が高い癌でもあります。診療は、日本乳癌学会にて認定された乳腺専門医を中心に行っております。手術は、乳房部分切除術、乳房全切除術に加えて、乳頭温存乳房全切除と再建術の組み合わせを個々の症例に応じて行っております。さらにBRCA遺伝子に変異のある遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対して予防的乳房切除術+再建術も行っております。手術の前後には最新のエビデンスに基づいた薬物療法を行いQOLと根治性の両立を目指しております。健康診断や一次検診で異常を指摘されたときや、他の病院で診療を受けていてセカンドオピニオンを希望される場合は、医療連携室にご相談ください。

医師専門分野一覧		ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。	
医師名	職位	専門分野	外来診療日
神野 浩光	教授	乳腺外科 外科腫瘍学	月 木 午前・午後 午前
池田 達彦	講師	乳腺・内分泌外科	水 木 土 午前 午後 午前
松本 暁子	助教	乳腺外科	月 水 午前・午後 午前
山田 美紀	臨床助手	乳腺外科	月 午前
佐藤 綾奈	臨床助手	乳腺外科	水 午後
前田 祐佳	シニアレジデント	乳腺外科	火 午前
鳴瀬 祥	シニアレジデント	乳腺外科	月 午前
磯野 優花	シニアレジデント	乳腺外科	金 午後



外
科

小児外科



最新情報はこちら



細田 利史

小児外科では、新生児から中学生までの患者さんを主に診療する外科です。小児は大人に比べ単に小さいという存在ではなく、からだの機能、成長、精神面において特有な特徴を持っています。そのような子ども達に小児外科専門医が診察・治療を行います。小児に特有な疾患は下記の様

医師専門分野一覧		ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。	
医師名	職位	専門分野	外来診療日
細田 利史	講師	小児消化器外科 小児外科一般 腹腔鏡手術	月・水 土 午後 午前
石岡 茂樹	助教	小児消化器外科 小児外科一般	月 金 土 午前 午後 午前

に多数存在します。必要と考えられた場合には適宜最も適した施設にご紹介いたします。また、成人であっても小児に特有な外科疾患は当科にて治療いたします。さらに小児外科疾患の手術後、加療後の患者さんでは成人に達している方々も当科で定期診療を行っております。

対象となる主な疾患

頭頸部疾患	正中頸嚢胞、耳前瘻
食道疾患	先天性食道閉鎖症、先天性食道狭窄、腐食性食道炎
横隔膜疾患	横隔膜ヘルニア、胃食道逆流症、食道裂孔ヘルニア
胃・十二指腸疾患	胃軸捻転症、肥厚性幽門狭窄症、胃・十二指腸潰瘍
小腸・大腸	胎便関連性疾患、腸回転異常症、腸重積症、胎便性腹膜炎、Meckel憩室、炎症性腸疾患、腸管ポリープ、虫垂炎、Hirschspung病
消化管閉鎖症	先天性十二指腸閉鎖症、先天性小腸閉鎖症
直腸・肛門	直腸脱、肛門周囲膿瘍、裂孔、直腸肛門奇形、慢性便秘症
肝・胆・膵	胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症
腹壁・臍・鼠径部	臍帯ヘルニア、腹壁破裂、鼠径ヘルニア、精索水腫、Nuck水腫、停留精巣
小児腫瘍	神経芽腫、腎悪性腫瘍、肝悪性腫瘍、胚細胞腫瘍、横紋筋肉腫、悪性リンパ腫、血管腫、リンパ管腫

外来受付 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30224 再診予約・変更電話 TEL:03-3964-8657 受付時間(月～金) 13:00～17:00

医療連携室 初診予約専用
初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498 電話予約時間(平日) 8:30～17:00 (土曜日) 8:30～12:30



診療科長
下川 智樹
外来医長
浦田 雅弘
病棟医長
浦田 雅弘
医局長
今水流 智浩

専門外来

専門外来・セカンドオピニオン外来は毎日受け付けております。成人心臓血管外科領域に関して、最先端レベルを目指し、患者さん重視の医療を実践していきます。診療内容の概略は以下の通りです。

弁膜症手術

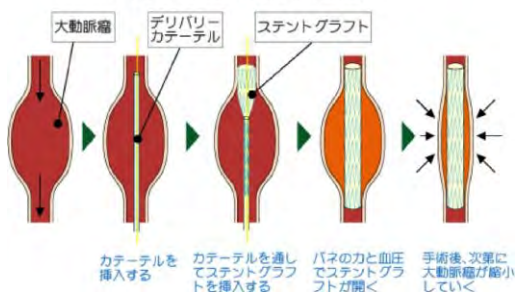
当科で積極的に行っている自分の弁を温存し修復する弁形成術は、人工弁を使用した際に必要となる抗凝固薬を飲まなくて済むという利点があります。複雑な逆流を完全になくすには高度な弁形成術の技術が要求されるといわれ、同時に技術以外に術前・術中の弁のエコーによる評価が重要となります。僧帽弁閉鎖不全症では95%の症例で弁形成術を行っており、術後の心機能やQOLの高い向上を得ています。



冠状動脈バイパス術

心臓が拍動したままでする手術を行う心拍動下冠状動脈バイパス術（オフポンプ手術）を基本とし、左前下行枝のびまん性病変等は、中隔枝を温存する広範囲血行再建バイパス術（Onlay patch grafting手術、内膜摘除手術）も積極的に行っています。早期開存率98%以上と成績も非常に良好です。また、低侵襲にも力を入れており、ロボット手術やMICS-CABで小さい創での施行を可能にしています。

ステントグラフトとは



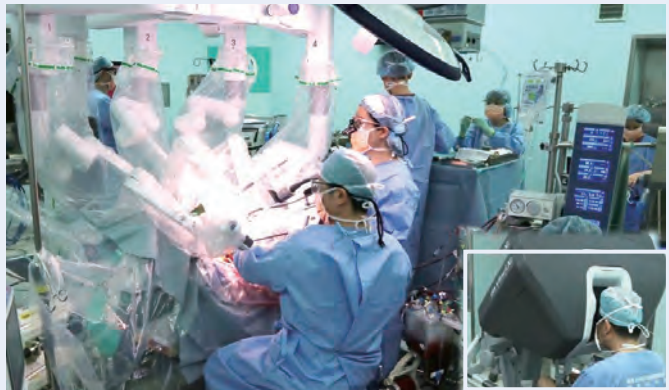
診療内容・特色

- 高度救命救急センターを有し、24時間365日、お断りせずに緊急手術に対応しています。
- 循環器センターを有し、専門的な循環器治療を実践しています。
- 総合病院の強み・他部門のバックアップを生かし、患者さんに「多様な治療方法」を提示・提供できます。
- 弁膜症に対する弁形成・自己弁温存手術や狭心症・心筋梗塞に対する低侵襲冠動脈バイパス手術（ミックスキャブ）・オフポンプ冠動脈バイパス手術などは、周囲の医療機関からも多く御紹介いただき良好な成績です。最新の治療として、低侵襲心臓手術（ミックス）やロボット手術（ダヴィンチ）も行っています。関東圏・関東圏外からの受診も増加しています。
- 大動脈瘤に対しても患者さんに応じた、人工血管置換術・ステントグラフト内挿術を多く施行しています。
- 重症心不全治療も、インペラを導入し、良好な成績です。

地域の医療機関と連携し、先生方と議論しながら患者さんにとっていい医療が受けられるよう努めてまいります。

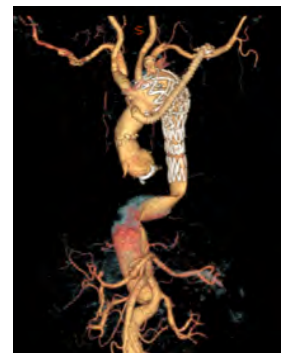
ロボット手術（ダヴィンチ）、低侵襲心臓手術（MICS）

創部を可能な限り小さく、かつ安全に心臓手術を行う為に最新の技術も取り入れ、幅広い患者さんのニーズに対応しています。僧帽弁形成・置換術、大動脈弁置換術、心臓中隔欠損症、心臓腫瘍、冠動脈バイパス術が適応となります。



大動脈疾患

緊急症例をはじめ、様々な大動脈疾患に対応しています。特殊な疾患であり、専門治療を掲げる施設が少ないのが現状ですが、当院は都内でも有数の症例数を誇り、上行大動脈人工血管置換術から胸腹部大動脈人工血管置換術など多くの症例経験を有しており、経験豊富な専門医・指導医により専門的な治療を行っています。また、ハイブリッド手術室も整備し、症例に応じて胸部・腹部のステントグラフト内挿術も盛んに行っています。

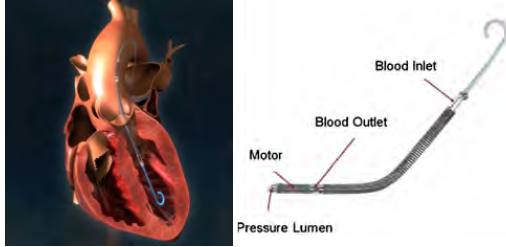


心房細動に対する外科治療

弁膜症や心房中隔欠損症、冠動脈疾患などの器質的心疾患に伴う心房細動に対して、同時手術としてメイズ手術を行います。デバイスの進歩により、小切開による低侵襲手術（MICS）のときにもメイズ手術を行えるようになりました。

重症心不全の外科治療

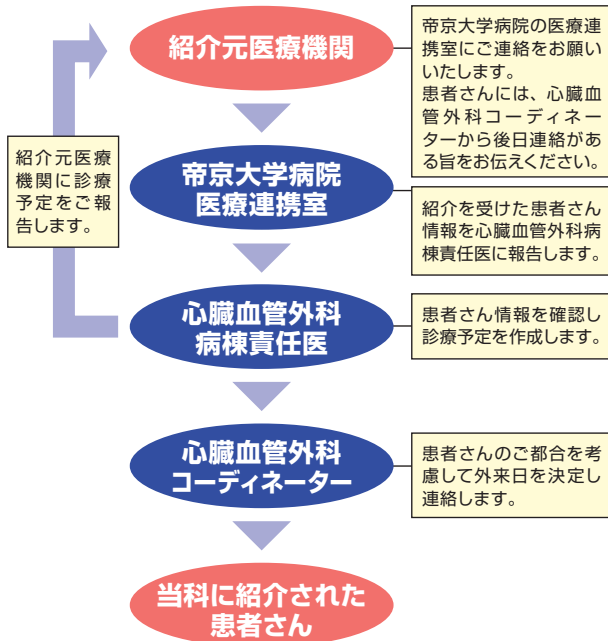
重症心不全は、近年増加傾向にあり心疾患の最終局面に当たります。虚血性心疾患や心筋症の末期状態における僧帽弁形成術や左室縮小形成術（ドール・バチスタ手術）などを行っています。また、心機能が破綻した症例についても機能を改善させて手術を行うなどの工夫も行っており、経皮的補助人工心臓（IMPELLAなど）を使用しています。治療に難渋する症例を多数御紹介いただき適切な治療を行っております。



腹部大動脈・末梢血管疾患

腹部大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症に対しても積極的に外科治療やステントグラフト治療を行っています。当院では、疑わしい症例や診断が必要な症例も地域の先生方と協力して治療を進めていきます。重症の閉塞性動脈硬化症の治療もフットケアチームで相談・診療し、下肢血管バイパスや血管内治療（IVR）を行っています。

【ご紹介の流れ】



医師専門分野一覧		ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。	
医師名	職位	専門分野	外来診療日
下川 智樹	科長 主任教授	低侵襲心臓手術専門医 ロボット心臓手術指導者 (プロクター) 後天性心疾患(虚血性心臓 病手術・弁膜症手術・不整 脈手術・大動脈手術) 心臓大動脈手術 7745例 (2002年5月-2022年3月)	火・水 午後 (15:00~17:00)
今水流 智浩	教授	成人心臓血管外科全般 大動脈外科・血管外科治療 弁膜症 冠動脈手術 胸部・腹部ステントグラフト 治療(指導医) 弁膜症 (経カテーテル大動脈弁置 換術(TAVI) 末梢血管外科治療 フットケア	水 午前 (9:00~13:00)
浦田 雅弘	講師	成人心臓血管外科治療 冠動脈バイパス術 ロボット手術	
大野 真	講師	成人心臓血管外科治療 末梢血管治療 TAVI	
内山 雅照	講師	成人心臓血管外科治療 末梢血管治療	
尾澤 直美	助教	成人心臓血管外科治療 低侵襲心臓手術(MICS) ロボット手術	
尹 亮元	助教	成人心臓血管外科治療 弁膜症外科	
植原 裕雄	助手	成人心臓血管外科治療 弁膜症外科	
齋藤 真人	助手	成人心臓血管外科治療	

循環器センターを有し、高い医療水準の循環器医療を提供します。
24時間365日 緊急手術に対応できる体制を完備しています。
電話:03-3964-1211(代表) 心臓血管外科病棟担当もしくは当直医まで

外来受付 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30224 再診予約・変更電話 TEL:03-3964-8657 受付時間(月~金) 13:00~17:00

医療連携室 初診予約専用
初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498 電話予約時間(平日) 8:30~17:00 (土曜日) 8:30~12:30



最新情報はこちら



診療科長
森村 尚登

高度救命救急センター長
三宅 康史

副高度救命救急センター長
間田 千晶

ERセンター長
森村 尚登

副ERセンター長
高橋 宏樹



外来医長 副外来医長
大貫 隆広 **西 竜一**

病棟医長 副病棟医長
神田 潤 **朝長 鮎美**

医局長 副医局長
吉田 昌文 **間田 千晶**

特色・活動

救急医療は「急な傷病の種類や原因によらず、来院する時間や手段によらず、年齢を問わず、すべての救急患者に対する診療」であり、救急科はすべての診療科と連携しながら日々救急医療に従事しています。また特に重症な場合には救命救急処置、集中治療を行っています。「急な」傷病とは、言い換えれば「緊急度の高い」傷病です。「緊急度」は、「時間経過が各病態の生命予後や機能予後に影響を与える程度」と説明されています。すなわち「重症化するスピード」です。この緊急度に応じた最適な治療を適時に実践するために、救急科は関連各科と連携しながら、救急診療部（高度救命救急センター・ERセンター）と外傷センターにおいて、軽い「病気やけが」から重い「病気やけが」まで幅広く、その「急ぎ具合」に応じた適時の救急医療を実践しています。また地域中核救急医療機関に専門医を輩出しております。

今後も全科との連携を深めながら、医学的エビデンスに基づく救急診療を実践する「患者さん中心（Patient-centered）」の体制強化に努めてまいります。また現在の仕組みにドクターカーネットワークやAcute care surgery体制、総合診療科との連携を視野に入れた「プレホスピタルから集中治療・再建に至るまで」の幅広い領域をカバーするAll in One体制を創り、日本の救急医療体制の雛形として国内外に発信していきたいと思っています。

今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

診療内容・特色

高度救命救急センターは、1978年に救急医療センターとして発足し、1981年に救命救急センターに認定された第三次救急医療施設です。

外傷外科、脳蘇生、重症救急疾患、広範囲熱傷、急性中毒などの専門スタッフを擁し、主として東京消防庁からの三次救急施設に搬送を選定された患者さんを24時間体制で受け入れています。直接近隣の救命センターを含む救急医療機関や他県からの紹介患者さん、院内各科あるいは救急外来よりの重症患者さんの診療にあたっています。対象は●突然の心肺停止状態●多発外傷で出血が多くショック状態である●脳梗塞、脳出血が原因で意識がない●重い内臓疾患のため、ショック状態や意識状態の悪化、あるいは呼吸が著しく不良な状態●広範囲熱傷で大量の輸液が必要●医薬品の大量服用や有毒物質にさらされたため重中毒症状が出現し呼吸循環の維持が必要などです。2017年1月から高度救命救急センターの指定を受け、切断された指趾の再接合にも対応できる体制をとっています。同年7月からはハイブリッドERシステムを導入し、ERで全身CT、IVR、緊急手術まで可能となり、救急科医、外傷外科医、放射線科IVRチームが一丸となって重症外傷患者さんの救命手術に注力しています。

ERセンターは、初期、2次救急患者さんの診療を行っています。特に救急車搬送症例に対しては、高度救命救急センターと強く連携しながら、包括的に対応しています。

医師専門分野一覧

医師名	職位	専門分野
森村 尚登	科長 主任教授	救急医学・災害医学・集中治療医学・外傷学 マスキング医学
三宅 康史	教授	救急医学・集中治療医学・脳神経外科学・外傷学 災害医学・医学教育学
鈴木 卓	教授	救急医学・外傷学・整形外科
金子 一郎	教授	救急医学・外科侵襲学・医学教育学
安心院 康彦	教授	救急医学・脳神経外科学
岩下 眞之*	病院教授	救急医学・集中治療医学・麻酔科学
伊藤 香	病院准教授	救急医学・外科学・集中治療医学・外傷学
間田 千晶	病院准教授	救急医学・集中治療医学・災害医学・小児科学
高橋 宏樹	講師	救急医学・重症熱傷
神田 潤	講師	救急医学・集中治療医学・臨床感染症・労働衛生学
西 竜一	講師	救急医学・総合診療
吉田 昌文	講師	救急医学・集中治療医学・外傷学・熱傷医学
大貫 隆広	助教	救急医学・脳神経外科学・集中治療医学・外傷学
長尾 剛至	助教	救急医学・外科学・外傷学・熱傷医学
高野 かおり	助教	救急医学・心臓血管学
朝長 鮎美	助教	救急医学
水谷 泰士	助手	救急医学・外傷学
神田 智希	助手	救急医学・外科学
竹内 智彦	助手	救急医学

*9月より就任



高度救命救急センター Trauma and Resuscitation Center

重い病気と外傷



外傷センター長

渡部 欣忍

副外傷センター長

鈴木 卓

診療実績と研究・教育

当外傷センターは、2009年5月に、都内の大学病院で唯一の外傷センターとして発足しました。外傷患者を主体として年間約1,000件の手術を行っています。手術は整形外傷に関するものが圧倒的に多いため、メンバー構成は整形外科医と整形外科のバックグラウンドをもった救急科医です。高度救命救急センターの外科系医師 (acute care surgeryチーム) や集中治療医との緊密なチーム医療によって運営しています。毎朝の高度救命救急センター医師との合同カンファレンスで重症患者の病態を共有し、毎週月曜日の整形外科カンファレンスで骨・関節外傷に対する手術内容に関して厳しいチェックを行っています。

レジデントは、外傷患者に関する診断・治療のminimal requirementを習得すること、多発外傷患者のdecision makingができること、そして自分の専門性をもち特定のテーマを深く掘り下げsubspecialtyをもつことを目標に研修しています。

これまでの治療実績をまとめた臨床研究を中心に国内外に発信し、当院だけでなく日本の外傷教育のレベルを向上させていきたいと考えています。当外傷センターのメンバーが著者・共著者として発表する査読のある英語論文は8~10編/年です。日本全国の研修医を対象とした骨折治療に関するセミナーも年3回実施しています。

当外傷センターの特徴である開放骨折、骨盤骨折、脊椎外傷、関節内骨折、骨折合併症は、可能な限り優先して治療に当たっております。また、近年では大腿骨近位部骨折や橈骨遠位端骨折などの脆弱性骨折の治療実績も著しく増加しています。

診療内容・特色

当外傷センターが担う診療は、ER外来における全ての外傷患者のファーストタッチ、高度救命救急センターに搬送された重症外傷患者の初期診療への参加、救急ICUへ入院した整形患者の診療サポート、そして二次・三次救急搬送された外傷患者の根本治療とその後のリハビリテーション医療です。多発外傷患者に合併した骨折は、高度救命救急センターや他科との協力体制のもと、全身管理のサポートのため早期に根本治療を行い、早期リハビリテーションを開始し早期の社会復帰を目指しています。救急ICUでの急性期治療後に全身状態が改善した患者は、外傷センター後方病棟へ移動してもらい、社会復帰のために積極的なリハビリテーション医療を行います。退院後は当院の外傷外来でフォローアップし機能予後を評価します。このように、外傷患者の初期診療から参画し、根本治療そしてリハビリテーション医療までを含めた一貫性のある診療を行うのが当外傷センターの大きな特色です。また、2018年度からは、骨折治療の合併症である偽関節・変形癒合・骨髄炎を専門的に治療する整形外科の難治骨折チームとも協力して診療にあたっています。当外傷センターでは、新鮮外傷から難治例まですべての骨・関節外傷の治療が可能です。医学部附属の外傷センターの役割として、2020年度からは当外傷センターで治療した患者の1年後までの機能評価を徹底し、治療成績を評価するためのレジストリーシステムを稼働させています。

2019年5月に、当外傷センター発足から10年の節目をむかえ、時を同じくして、平成から令和へ新しい時代に入りました。日本一の外傷センターから、世界有数の外傷センターの一つと言われる日まで、一丸となって、診療に従事していきたいと考えています。

医師専門分野一覧

医師名	職位	専門分野
渡部 欣忍	センター長 教授	骨癒合不全・偽関節・骨髄炎・感染性偽関節・変形癒合などの難治骨折の治療は、年間50~75例と国内随一の手術実績。 日本専門医機構整形外科専門医、 日本骨折治療学会理事長、 日本四肢再建・創外固定学会幹事、 日本運動器再建・イリザロフ法研究会
鈴木 卓	副センター長 教授	外傷学・整形外科学・救急医学 治療が困難な骨盤骨折・寛骨臼骨折に対する手術数は年間約50例で、年々増加傾向にある。一施設では国内トップクラスの症例数。近年は、高齢者の脆弱性骨盤骨折に対する手術症例数も増加している。 日本救急医学会専門医・指導医、 日本専門医機構整形外科専門医、 日本骨折治療学会評議員

医師名	職位	専門分野
石井 桂輔	准教授	整形外科学・救急医学・外傷学・脊椎外科 脊椎・骨髄外傷が専門で、年間手術数は約50例。 日本整形外科学会専門医、 日本骨折治療学会評議員、 日本体育協会公認スポーツドクター
松井 健太郎	講師	外傷学・整形外科学・骨折・足の外科 関節鏡を併用した足関節骨折手術や足部骨折の治療は国内随一の手術実績。 日本専門医機構整形外科専門医、 日本骨折治療学会評議員、 AO Trauma Japan評議員



外傷センター
Trauma and Reconstruction Center

外傷



診療科長

長阪 一憲

外来医長

鎌田 英男(産科)
平野 茉来(婦人科)

病棟医長

紀平 力(産科)
西田 晴香(婦人科)

医局長

一瀬 隆行

専門外来

腫瘍・ゲノム外来

子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、その他の婦人科関連がんに対応しております。

手術療法、化学療法、同時化学放射線療法は全て院内で行っており、早期子宮体癌に対する腹腔鏡下手術、最新の分子標的治療も導入しています。婦人科腫瘍を専門とする医師が診療を行い、婦人科腫瘍専門医、腹腔鏡技術認定医の資格を有している医師がおります。

ゲノム診療外来

婦人科腫瘍に関連する「がん遺伝」についての情報を詳しくお聞きになりたいという方を対象にしています。院内で治療を受けられた患者さんやご家族だけでなく、他施設で治療を受けられた患者さんやご家族も受診できます。

内分泌外来

月経不順・月経困難症に対しては、原因・治療の可否と方法につき、生活の質だけでなく、将来の妊娠・出産から中高年での健康までを視野にいれた人生設計を踏まえた上で治療方針を検討します。

子宮内腺症に対するホルモン療法・腹腔鏡手術、子宮内腔病変に対する子宮鏡下手術も施行しています。

不妊外来

できる限り原因を検索し必要最小限の介入での妊娠をめざします。

卵管性不妊に対しては、腹腔鏡・卵管鏡下卵管形成術が可能です。

子宮鏡下経頸管的筋腫核出術も選択可能です。日帰りでの外来子宮鏡手術で、子宮内膜ポリープ切除術を行っております。

周産期外来

合併症妊娠・ハイリスク妊娠に対し、各科と協力して対応しています。新生児科の充実により、母児に負担がかかる前の早目の対応が可能であり、このことが母児の安全性をより高いものにしています。

超音波外来

胎児診断はもとより、パルスドプラ法による胎児循環動態の把握など、胎児生理学を踏まえた周産期管理を行っています。3D超音波だけの受診も可能です。

出生前診断カウンセリング外来

習慣流産に対してその原因を追求します。出生前診断としては、母体血液検査による胎児染色体異常の確率判定、羊水採取による胎児染色体確定診断が可能です。

外来受付 TEL:03-3964-1211 (代)
内線:30323(産科)/30317(婦人科)
再診予約・変更電話
TEL:03-3964-8735(産科)/03-3964-8736(婦人科)
受付時間(月~金) 13:00~17:00

医療連携室 初診予約専用 初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498

電話予約時間(平日) 8:30~17:00 (土曜日) 8:30~12:30

診療内容・特色

産科では、総合周産期母子医療センターとしてハイリスク妊娠にも24時間体制で対応しています。リスクが低い妊婦さんの健診・出産もお引き受けしています。助産師による外来もご利用いただけますし、夫立ち会い分娩も可能です。無痛分娩も産科麻酔医師のサポートのもと万全な体制で行っております。その他、近隣のクリニックとのセミオープンシステムも導入しております。全ての妊婦さんが快適で安全なお産をご提供できるような体制を整備しています。

婦人科では、小児・思春期から中高年まで、女性の一生を広く視野にいれた幅の広い診療を行っています。患者さんの状態を個別に評価して、心身両面をサポートできるような治療を目指しています。良性疾患だけでなく悪性疾患に対しても、積極的に低侵襲治療を行っています。各分野を専門とする医師が在籍しており、エビデンスに基づいた最善の医療を提示できるようにしています。

医師専門分野一覧

ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。

医師名	職位	専門分野	外来診療日		
長阪 一憲	科長 主任教授	婦人科腫瘍学	婦人科(初診)	水	午前
		内視鏡下手術 腹腔鏡・子宮鏡 遺伝性腫瘍 がんゲノム医療	婦人科(再診)	月	午後
梁 栄治	教授	産婦人科領域一般	産科(再診)	水	午後
		超音波医学・周産期医学	セカンドオピニオン外来(がんオピニオン含む)	水	午後
木戸 浩一郎	病院教授	産科	産科(周産期・多胎)	月	午前
		超音波診断 臨床遺伝 医療安全	超音波	木	午後
笹森 幸文	総合周産期 母子医療 センター長 病院教授	産科	出生前カウンセリング外来(初診)	火・木	午後
		周産期医学 医学教育学	出生前カウンセリング外来(再診)	木・金	午後
平池 春子	病院教授	産婦人科学	産科	金	午前
紀平 力	講師	周産期医学	婦人科(初診)	木	午前
		産科婦人科臨床遺伝診療 低侵襲手術(腹腔鏡手術、 子宮鏡手術) 産婦人科全般	超音波 産科	火・金 木	午後 午前
鎌田 英男	講師	周産期医学	産科	火(第4週)	午前
		超音波診断	水 土(第4週)	午前 午前	
平野 茉来	講師	不妊・内分泌	超音波 婦人科	火 土(第1・3・5週)	午後 午前
		女性ヘルスケア 腹腔鏡・子宮鏡	婦人科(初診)	金	午前
一瀬 隆行	講師	婦人科腫瘍学	婦人科(再診)	木	午前
		内視鏡下手術	不妊・内分泌	月	午前
西田 晴香	講師	婦人科腫瘍学	婦人科(初診)	火	午前
		遺伝性腫瘍 産婦人科全般	婦人科(再診)	月	午前
高崎 和樹	助教	産婦人科学	腫瘍・ゲノム外来	火	午後
		婦人科腫瘍学 内視鏡下手術 遺伝性腫瘍	婦人科(初診)	月	午前
西澤 美紀	助教	産婦人科学	婦人科(再診)	水	午前
		周産期医学	腫瘍・ゲノム外来	水	午後
八木 慶太	助教	産婦人科学	産科	火(第1・2・3・5週)	午前
		周産期医学	産科	木 金・土(第1・2・3・5週)	午前 午前
渡邊 さや	助手	産婦人科学	産科	木	午前
伊 大塚	助手	産婦人科学	婦人科	水	午前
寺島 豪志	臨床助手	産婦人科学	産科	水	午後
		産婦人科学	産科	木	午後
小野寺 貴子	臨床助手	産婦人科学	産科	月	午前
		産婦人科学	産科	金(第1・2・3・5週)	午前
竹原 洗平	臨床助手	産婦人科学	産科	月	午前
鈴木 由美	シニアレジデント	産婦人科学	産科	月	午前
宮川 恒介	シニアレジデント	産婦人科学	産科	月	午前
高橋 旭翔	シニアレジデント	産婦人科学	産科	月	午前
富谷 紘加	シニアレジデント	産婦人科学	産科	月	午前
綾部 琢哉	客員教授	生殖内分泌学	産科	月	午前



診療科長

三牧 正和

外来医長

萩原 教文

病棟医長

小山 隆之
伊藤 直樹

医局長

星野 英紀

専門外来

神経外来

小児の神経外来の対象は、てんかん、脳性麻痺、発達障害、代謝疾患、脳血管障害、末梢神経障害、筋疾患など、極めて多岐にわたりますが、全ての領域に対応します。熱性けいれん重積や急性脳症、髄膜炎などの急性疾患に対しても、豊富な経験を有する小児神経専門医が診療にあたっています。

神経疾患入院数:年間約120例
長時間ビデオ脳波検査:年間約20例

アレルギー外来

新たに開設した小児アレルギーセンターにて、ますます増えいく食物アレルギー、アトピー、喘息などの小児アレルギー疾患に対して、適切な検査とアドバイスをしていくことで、薬剤の効果を高めるような指導を心がけています。

食物負荷試験:年間400~500例

内分泌・代謝外来

低身長症、甲状腺機能異常症、糖尿病、思春期早発症など小児期の診断・治療が特に大切な内分泌疾患に力を注いでいます。低身長をはじめとする負荷試験が必要な場合は外来または入院で検査を行います。

内分泌疾患入院数:年間約30例

循環器外来

新生児・乳児から学童まで、心雑音やチアノーゼ、不整脈などの疾患を中心に、小児に負担をかけない胸部X線写真・心電図・超音波検査などを用いて診断・治療を行います。より高度の検査を必要とする場合は、入院のうえ検査を行います。

循環器疾患入院数:年間約30例

免疫外来

診断の困難な小児の免疫疾患に対して、専門家が適切な検査・治療計画をたてて対応します。

乳幼児健診外来

総合周産期母子医療センターで経過をみていた新生児・乳児を中心に、経過をみつつアドバイスをしています。

血液・腫瘍外来

血液疾患と腫瘍性疾患を主に診察しています。特に小児がんは他診療科とも協力して、患者さんに適切な診断と治療を提供しています。当院は日本小児がん研究グループ(JCCG)に属し、小児がんの臨床研究に参加していますので、全国と同じ水準の医療を受けることができます。

腎臓外来

3歳児健診や学校検尿で発見された血尿・蛋白尿のフォローから腎炎・ネフローゼ症候群の治療まで、専門医がこどもの立場にたった診療を行っています。また、水腎症をはじめとした腎尿路疾患や夜尿症・頻尿についても、精力的に診療しています。

腎・尿路疾患入院数:年間約40例

発達外来

NICUで経過をみていた小児を中心に、その神経学的発達を注意深く見守り、適切なアドバイスを心がけています。

NICU入院数:年間約300例

外科疾患につきましては、小児外科等と密接に連携をとって対応しております。その他にも予防接種外来・心理外来などの外来枠がございますのでご相談ください。

診療内容・特色

こどもが病気になったら、まず受診するのが小児科です。当科では、日常よく遭遇する小児疾患に対する診療を重視しており、月~土曜の週6日午前中に一般外来を設けて、小児科専門医を中心に診療を行っています。必要に応じて外来での検査、点滴などの治療を行い、また状態によっては入院し治療・検査を行います。けいれん・意識障害などの重症患者の受け入れ体制も整備し、二次救急、三次救急の対応にも力を入れています。

当科で扱う専門領域としては、神経・アレルギー・内分泌・代謝・栄養・循環器・免疫・血液・悪性腫瘍・腎・心理・発達などがあり、それぞれ専門外来を開いています。また、当院は東京都に指定された総合周産期母子医療センターを有し、生まれたばかりの低出生体重児などの診療にあたるNICU(新生児集中治療室)にて、地域の産婦人科医のご紹介を通して入院を受け付けています。

急性疾患の救急対応から慢性疾患の長期管理に至る医療と、小児の健全な育ちを守る小児保健の重要性を常に意識し、地域に密着した成育医療の充実に貢献したいと考えております。

小児アレルギーセンター

最先端のアレルギー診療を長期的・包括的に提供することを目標とし、小児科では「小児アレルギーセンター」を設置しています。現在、ひと月あたり約400名の子どもたちが通院しており、蓄積された経験に基づいて、最新の治療を行っております。関連他科や地域の医療機関の先生方、行政や学校・幼稚園・保育園との連携や教育活動などを通して、地域のみなさまの健康に貢献することを目指して診療しております。

医師専門分野一覧 ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。

医師名	職位	専門分野	外来診療日
三牧 正和	科長 主任教授	小児神経学・臨床遺伝学	神経 月・木 午後
小林 茂俊	小児アレルギーセンター長 教授	小児アレルギー・免疫学	免疫・アレルギー 月・水・土 午後午前
萩原 教文	講師	小児循環器学・小児不整脈学	一般外来循環器 月・木・火 午前午前
高橋 和浩	講師	小児腎臓病学・小児感染症学 バイオインフォマティクス	一般外来 月・水・土 午前(土曜日不定期) 午後 腎臓 水 午後
橘波 光輝	講師	小児血液腫瘍学	一般外来 火・金・土 午前(土曜日不定期) 午後 血液 水 午後
伊藤 直樹	講師	新生児学・臨床薬理学(妊娠および授乳と薬)	発達 水(第13週) 午後午後
小山 隆之	講師	小児アレルギー・免疫学	免疫・アレルギー 月 午後
遠海 重裕	講師	小児内分泌・代謝・感染症学	一般外来 水・木・土 午前(土曜日不定期) 午後 内分泌・代謝 水・木 午後
星野 英紀	講師	小児神経学・神経生理学 発達神経学	神経・発達(初診) 水 午前 神経 水 午後 土(不定期) 午前
森田 清子	助教	新生児学	発達 金 午後
置塩 英美	助教	新生児学	発達 月 午後
西野 智彦	助教	小児腎臓病学	腎臓 月 午後
小寺 美咲	助手	新生児学	発達 水 午後
山本 美佳智	助手	小児感染症学	一般外来 金・土 午前(土曜日不定期) 午後 感染(予防接種) 金 午後
眞下 秀明	助手	小児神経学	神経 水 午後
嶋田 怜士	助手	小児心身症 思春期(精神)医学	思春期 金 午後
高宮 聖実	助手	小児内分泌・代謝学	内分泌・代謝 木(不定期) 午前午後
落合 悟	助手	小児神経学	神経 木 午前
藤井 靖史	大学院教職 研究科教授	小児神経学	神経 LD 金 午前午後
中村 こずえ	客員講師	小児血液腫瘍学	血液 金 午後 乳幼児健診 木 午後
堀江 恭子	シニアレジデント		乳幼児健診 水 午後
黒田 友紀子	非常勤講師	臨床遺伝学	遺伝 月(第4週) 午後
磯島 晋	非常勤講師	小児内分泌・代謝学	内分泌・代謝 火(第2・3週) 午前・午後
浦田 晋	非常勤講師	小児循環器学	循環器 土(第3週) 午前
大和田 啓峰	非常勤講師	小児精神学・小児画像診断	一般外来 金 午前
中井 まりえ	非常勤助手	小児神経学	神経 金 午後
望月 大史	非常勤医師	小児内分泌・代謝学	内分泌・代謝 木(不定期) 午前午後
足田 敏之	非常勤医師	小児神経学	神経 木(不定期) 午後

外来受付 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30229 再診予約・変更電話 TEL:03-3964-8512 受付時間(月~金) 13:00~17:00

医療連携室 初診予約専用
初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498 電話予約時間(平日) 8:30~17:00 (土曜日) 8:30~12:30



診療科長
くぬぎ
功刀 浩

外来医長
赤羽 晃寿

病棟医長／医局長
渡邊 由香子

外来

初診

初診は精神保健指定医、精神科専門医のいずれか、または両方の資格をもつ医師が、再診とは別枠で、十分な時間をかけて診療します。詳しい問診・診察の後、必要に応じて各種検査（血液検査、脳波検査、脳画像検査、心理検査など）を行います。

もの忘れ（認知症）外来・検査入院

アルツハイマー型認知症、血管型認知症、レビー小体型認知症などの認知症の早期発見・早期診断と初期治療を行います。脳MRI検査、脳血流シンチ（SPECT検査）、さまざまな評価尺度による記憶力の測定や日常生活の困りごとなどの評価を実施します。さらに、レビー小体型認知症の診断に有用なドパミントランスporterシンチ（ダツスキャン）などの検査を行うこともできます。アルツハイマー型認知症の診断に有用な脳脊髄液検査も実施可能です。もの忘れの症状が気になる方はお気軽にご相談下さい。また、治りにくいうつ病でお困りの高齢者の方にも、一度検査を受けて認知症の有無を確認することをお勧めしています。検査入院では、3泊程度で必要な検査一式を行うことができます。

受診をご希望の方はメンタルヘルス科外来にて予約をお願いします。現在かかりつけ医療機関がある場合は、紹介状をお持ち下さい。当科では早期発見・早期診断を主な役割としています。診断が決まり、初期治療に導入後は、適切な医療機関への紹介をいたします。

デイケア

デイケアでは、メンタルヘルス科外来に通院する主に統合失調症の患者さんに対するリハビリテーションを行っています。ご病気の影響で、生活リズム・人づきあい・勉強・仕事などがうまくいかなかった方が、自分の希望する社会生活を取り戻すことが目標です。そのためには、社会生活に必要な能力の回復、自信の回復、病気とのつきあい方を自分なりに見出すことが大切です。医師・看護師・作業療法士・精神保健福祉士・臨床心理士による多職種チームが、個別担当制によるきめ細かな関わり、料理・スポーツなどのグループ活動（コロナ禍により料理や外出は一時的に中断しています）、社会技能訓練（SST）や心理教育など病気への理解を深めストレスとのつきあい方や人づきあいを練習するプログラムの中で、社会生活を積極的に支援します。また、認知機能リハビリテーションや就労支援にも力をいれています。

外来受付 **TEL:03-3964-1211 (代)**
内線:30351

電話予約時間（平日）8:30～17:00
（土曜日）8:30～12:30

初診・再診の予約や変更は上記までご連絡ください。なお、初診の場合は入院のご希望の有無をお伝えください。

入院をご希望の場合は専用の予約枠にて速やかに検討させていただきます。

診療内容・特色

当科では、統合失調症と関連障害（妄想性障害など）、気分障害（うつ病、双極性障害）、不安障害（パニック障害、社交不安症など）、強迫性障害、睡眠・覚醒障害、ストレス性障害（心的外傷後ストレス障害、適応障害など）、摂食障害、アルコール・薬物依存症、パーソナリティ障害といった成人の精神疾患、老年期の認知症（アルツハイマー病、レビー小体型認知症など）、および思春期青年期以降の神経発達症（自閉症スペクトラム障害や注意欠陥・多動性障害）に至るまで、幅広い精神障害に対する専門的医療（最新の学会ガイドラインに準拠した標準的治療）を提供しています。外来では、薬物療法、精神療法、そして患者さんの食生活等のライフスタイル改善療法も行います。

病棟での入院治療は、できる限り開放的な環境で療養できるように配慮するとともに、大学病院の特長を生かし、主治医だけでなくチームで一人の患者さんの診療に取り組んでいます。脳画像検査や心理検査によって病状を詳細に把握し、薬物療法、精神療法、必要に応じて通電療法（手術室で行う修正型）を行います。また、退院後の家庭生活、社会生活がスムーズになるように、入院中は心理教育、レクリエーション的活動、ミーティングなど病棟内プログラムも導入しています。

デイケアでは、症状はある程度緩和されたものの、社会生活に踏み出すまで十分に回復していない患者さん、引きこもりがちで対人関係が苦手な患者さんなどを対象にして、トレーニング（リハビリテーション）を行っています。医師、看護師、精神保健福祉士、心理師などからなる多職種によって、社会技能訓練（SST）、認知機能リハビリテーション、運動プログラムなどが実施されています。

地域との連携では、板橋区・北区・豊島区、練馬区、埼玉県南部などを中心とする地域への医療サービスとして、精神科病院やクリニック、社会復帰施設などと連携しながら、入院受け入れ、心理社会的問題への対応や地域生活のサポート、社会復帰に向けての支援などを行っています。また、デイケアを起点として就労支援が行われています。

医師専門分野一覧

ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。
初診担当は科長（木曜午前）以外は曜日固定していません

医師名	職位	専門分野	外来診療日
功刀 浩	科長 主任教授	統合失調症、うつ病・双極性障害、栄養学的治療	再診 火 午前
赤羽 晃寿	病院准教授	うつ病・双極性障害 リエゾン精神医学	再診 土 午前
渡邊 由香子	講師	統合失調症	再診 金 午前
金田 渉	助教	思春期の障害、学校生活支援	再診 月 午前
松村 謙一	助教	リエゾン精神医学、脳波判読	再診 水 午前
秀瀬 真輔	助教	精神科一般	再診 金 午前
金井 理恵	助教	精神療法・リエゾン精神医学	再診 水 午前 木 午後
小方 茂弘	助教	精神科一般	再診 火 午前
鈴木 幹夫	客員教授	精神科一般	再診 金(第2・4週) 午後
林 直樹	非常勤講師	統合失調症、うつ病、パーソナリティ障害、精神療法など	再診 木 午前・午後
栃木 衛	非常勤講師	認知症・緩和ケアなど	再診 水 午前
押久保 岳	非常勤医師	精神科一般	再診 火 午前
伊藤 令	非常勤医師	精神科一般	再診 木 午前・午後
渡邊 公聡	非常勤医師	精神科一般	再診 月 午前
野村 芳子	非常勤医師	児童・思春期、神経発達症	再診 金(第1・3週) 午前

入院診療について

病床数：開放病棟47床（保護室2室・個室5室舎）

4床室・6床室：室料差額なし（個室差額：20,900円）

主な治療内容：

急性期治療【統合失調症・うつ病・双極性障害の薬物療法・修正型電気けいれん療法】
各種検査入院【うつ状態の鑑別・認知症の診断確定】

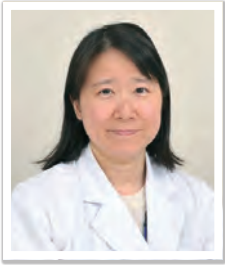
神経発達症（自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害）・アルコール／薬物依存症・摂食障害・心的外傷後ストレス障害（PTSD）・睡眠障害の診断と治療
統合失調症のリハビリ支援／うつ病の休息入院

多床室で対応可能な身体合併症の治療など

<医療機関の先生方へ>

入院診療が必要な場合、当科外来（03-3964-1211(代)内線:30351）までご連絡下さい。担当医が患者さんのお名前・年齢・性別・病状・連絡先などを伺います。当科より患者さんにご連絡し、入院日・持ち物などをお伝えします。

ただし、当科で入院治療をお引き受けできるかどうかを判断するために、一度外来を受診していただく場合がございます。



診療科長

多田 弥生

外来医長

田中 隆光

病棟医長

鎌田 昌洋

医局長

江川 昌太

診療内容・特色

アトピー性皮膚炎をはじめとする湿疹・皮膚炎群や感染症、膠原病、良性・悪性腫瘍、乾癬、水疱症など、皮膚疾患全般に加えて静脈瘤まで幅広く対応しています。乾癬、アトピー、陥入爪、水疱症、皮膚腫瘍（良性・悪性）、静脈瘤、レーザーの専門外来も開設しています。

専門外来

当科では下記の様に各曜日午後の時間帯を専門外来とし開設しています。原則として午前中の一般外来を受診していただき各治療の日を予約する流れとなります。

	午前	午後
月		
火	静脈瘤	
水	静脈瘤	皮膚外科・アトピー・水疱症・乾癬
木		皮膚外科・陥入爪/巻き爪
金	レーザー	皮膚外科・アトピー・水疱症・乾癬
土	乾癬	

静脈瘤外来（火・水 AM）

当科では下肢静脈瘤に対して相談、治療を行っています。蛇行した血管が浮き出ただけでなく、夕方にひどくなるむくみやだるさ、足首周辺の湿疹など気になる症状のある方はご相談ください。患者さんの静脈瘤の状態やご希望を踏まえて治療方針を決めていきます。2019年1月より高周波による傷の残らない血管内治療を中心にっております。ご相談ください。

アトピー性皮膚炎外来（水・金 PM）

難治のアトピー性皮膚炎に対する治療を行っています。具体的には、外用療法、従来の内服療法、光線療法その他、新しい治療法であるデュピクセント、オルミエント、リンヴォック、ミチーガによる治療を行っています。それぞれの患者さんにあった治療を相談しながら行っていきます。アトピー性皮膚炎があり、病院に通っているけど治らない、塗る範囲が広すぎて継続できない、話を聞きたいなどありましたらご相談ください。

皮膚外科外来（水・木・金 PM）

皮膚外科外来では皮膚外科手術の習熟した専門の医師の監督のもと、治療にあたっています。ホクロや粉瘤などの皮膚良性腫瘍の切除、皮膚生検検査はもちろんのこと、皮膚悪性腫瘍（皮膚癌）の切除・再建も行います。切除した組織はすべて病理検査を行い、病理結果をご紹介いただいた先生にご報告させていただいています。患者さんの状態やご希望に合わせて外用療法・凍結療法も適宜選択しますし、当然のことながら整容面での配慮も忘れてはおりません。

乾癬外来（水・金 PM・土 AM）

https://www.teikyo-hospital.jp/hospital/teikyo_medical/035.html 患者さんご相談しながら、生活スタイルに沿った治療を提供しております。生物学的製剤の土曜日の投与にも対応させていただいております。光線治療も月～土曜日の午前、月・火・金曜日の午後予約の上、照射可能です。

レーザー外来（金 AM）

対象疾患は、太田母斑、伊藤母斑、異所性蒙古斑（青アザ）、老人性色素斑（シミ）、単純性黒子・母斑細胞性母斑（ホクロ・アザ）、口唇メラノシス、雀卵斑（そばかす）などの色素性病変、外傷性刺青などです。
*太田母斑、異所性蒙古斑、外傷性刺青、扁平母斑が保険診療で対応できます。前記以外は自費診療となり、5mm六角形の照射1発につき約千円で設定しています。（その他に診察料などがかかります。）
*当院の設備はQスイッチルビールーザーになります。アザの種類によっては当院で治療のできないものもありますので、ご了承ください。

水疱症外来（水・金 PM）

水疱性類天疱瘡、尋常性天疱瘡、落葉状天疱瘡など、自己免疫性水疱症の診断、治療を行います。全身に水疱、痂皮（かさぶた）、紅斑、小膿疱（うみ）などがみられる場合や、他の病院で水疱症を疑

ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。

医師名	職位	専門分野	外来診療日
多田 弥生	科長 主任教授	皮膚科一般	初診 月 午前
		乾癬	再診 金・土 午前
		アトピー性皮膚炎	乾癬外来 金 午後 土 午前
鎌田 昌洋	准教授	皮膚科一般・乾癬	アトピー乾癬水疱症外来 水・金 午後
		自己免疫性水疱症 アトピー性皮膚炎	
石川 武子	講師	皮膚科一般 皮膚外科	皮膚外科外来 水 午後
田中 隆光	講師	皮膚科一般	初診 水 午前
		皮膚腫瘍	皮膚外科外来 木 午後
		静脈瘤	静脈瘤外来 火・水 午前
林 耕太郎	講師	皮膚科一般	乾癬外来 金 午後
		乾癬	土 午前
福安 厚子	助教	皮膚科一般	初診 木 午前
		皮膚外科	皮膚外科外来 金 午後 レーザー外来 金 午前
深谷 早希	臨床助手	皮膚科一般・静脈瘤	静脈瘤外来 火・水 午前
		皮膚科一般・乾癬	初診 水 午前
内田 秀昭	臨床助手	自己免疫性水疱症	アトピー乾癬水疱症外来 水・金 午後
		アトピー性皮膚炎	
江川 昌太	臨床助手	皮膚科一般	皮膚外科外来 水 午後
向井 慶	員外助手	皮膚科一般	初診 火 午後
竹内 周子	員外助手	皮膚科一般	初診 火 午前
			木 午後
千々和 智佳	員外助手	皮膚科一般・乾癬	初診 金 午前
			乾癬外来 金 午後
上松 藍	員外助手	皮膚科一般 爪疾患	再診 木 午前
			陥入爪・巻き爪外来 木 午後
藪内 由季菜	員外助手	皮膚科一般 爪疾患	陥入爪・巻き爪外来 木 午後
			皮膚外科外来 金 午後
東 さおり	員外助手	皮膚科一般・乾癬	初診 土 午前
			再診 火 午前
山口 祐子	員外助手	皮膚科一般	乾癬外来 金 午後
			初診 金 午前
加世田 千夏	員外助手	皮膚科一般	再診 月 午前
加藤 和夏	員外助手	皮膚科一般	初診 火 午前
			水 午後
渡辺 愛友	員外助手	皮膚科一般	再診 水 午前
			初診 月 午前
伊藤 誠時	員外助手	皮膚科一般	アトピー乾癬水疱症外来 水 午後
新村 佳子	シニアレジデント	皮膚科一般	再診 金 午前
櫻井 恵海	シニアレジデント	皮膚科一般	初診 土 午前
陣内 晃子	シニアレジデント	皮膚科一般	再診 木 午前
鈴木 翔也	シニアレジデント	皮膚科一般	再診 火 午前
			アトピー乾癬水疱症外来 水 午後
鷹尾 純	シニアレジデント	皮膚科一般	初診 月 午後
			再診 火 午前
中島 秀之	シニアレジデント	皮膚科一般	再診 水 午前
古橋 祥子	シニアレジデント	皮膚科一般	再診 月 午前
大山 拓也	シニアレジデント	皮膚科一般	再診 木 午前
金城 晶彦	シニアレジデント	皮膚科一般	再診 金 午前
吉澤 学	医師	皮膚科一般	初診 土 午前

うまたは水疱症と診断された場合、必要な検査を行い正確に診断した上で、入院または外来でそれぞれの患者さんに合った治療を行っていきます。

陥入爪・巻き爪外来（木 PM）

当科では巻き爪や陥入爪に対する治療を行っています。主に保険治療による“テーピング”や“ガター法”。また重症な方には手術を行い、患者さんに合った治療を提供します。さらに自費診療の“巻き爪用クリップ、VHO”といった巻き爪専用の医療機器を使用して、より快適に治療ができるようにしています。お気軽にご相談ください。

外来受付 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30307 再診予約・変更電話 TEL:03-3964-8275 受付時間(月～金) 13:00～17:00

医療連携室 初診予約専用
初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498 電話予約時間(平日) 8:30～17:00 (土曜日) 8:30～12:30



診療科長

井上 裕治

外来医長

三村 達哉

病棟医長

寺内 岳

医局長

水野 嘉信

専門外来

当科には緑内障外来、形成外科、涙道・眼窩疾患・眼瞼・顔面痙攣外来、斜視・弱視・視能矯正・眼振外来、ぶどう膜外来、角膜外来、黄斑外来の各専門外来があり、また一般外来と平行した形で以下の疾患に対しても積極的な診療を行っています。

網膜硝子体疾患

網膜剥離、黄斑円孔、黄斑上膜などの網膜硝子体疾患に対して手術療法を中心に行っています。また増殖糖尿病網膜症に対する治療も行っています。適応に応じて27Gシステムによる低侵襲手術も行っています。

緑内障外来

緑内障は有病率が高いにもかかわらず自覚症状に乏しく気がつかないうちに進行してしまう不可逆性の疾患です。当科では各種緑内障に対して各種最新の診断機器およびレーザー治療を含む最新の治療法により対応しています。

形成外科、涙道・眼窩疾患・眼瞼痙攣・顔面痙攣外来

眼瞼下垂、眼瞼内反、眼瞼皮膚弛緩症、眼瞼形成などの眼瞼疾患および涙管炎、鼻涙管閉塞（流涙症）、眼窩腫瘍に対して手術療法を中心に行っています。また眼瞼痙攣・顔面痙攣に対してはボツリヌス毒素注射治療や形成手術を行っています。

斜視・弱視・視能矯正・眼振外来

視能訓練士による検査結果をもとに、斜視・弱視・眼振に対して専門的な治療を行っています。

ぶどう膜外来

原田病、ベーチェット病、サルコイドーシス、悪性リンパ腫をはじめとする各種ぶどう膜炎に対し対応しています。入院での加療や、ステロイドパルス、生物学的製剤による治療。難治性の疾患に対しては外科的治療も行っています。

角膜外来

ドライアイ、感染性角膜炎などに対する薬物治療や角膜白斑、水疱性角膜炎などに対して全層角膜移植や角膜内皮移植などの手術療法を行っています。

黄斑外来

加齢黄斑変性、近視性脈絡膜新生血管黄斑症、中心性漿液性脈絡網膜症などの黄斑疾患に対し、抗VEGF薬硝子体注射や光線力学療法、網膜光凝固術などの治療を行っています。

診療内容・特色

白内障、緑内障、網膜剥離、黄斑円孔、黄斑上膜、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性、ぶどう膜炎、角膜疾患などの内眼疾患と斜視、弱視、眼振、眼筋麻痺、眼瞼下垂、眼瞼内反、眼瞼皮膚弛緩症、眼瞼形成、涙管炎、鼻涙管閉塞（流涙症）、涙小管断裂、眼窩腫瘍、眼窩底骨折、眼球突出、眼瞼痙攣、顔面痙攣などの外眼疾患に対して広く対応しています。

それぞれの疾患に対しては教授、准教授、講師、助教の各スタッフが各自の専門性を活かして最新の医学知識に基づき対応し、走査型レーザー検眼鏡（SLO）、光干渉断層計（OCT）、自動静的視野計、半波長YAGレーザー（SLTに対応）、PDTレーザーなどをはじめとする新しい外来診療機器を揃え、また手術治療に関しても小切開網膜硝子体手術や無縫合白内障手術をはじめとした最新技術を含めて最も適切な術式を選択するようにしています。外眼部の比較的低侵襲の手術では外来手術も行っています。

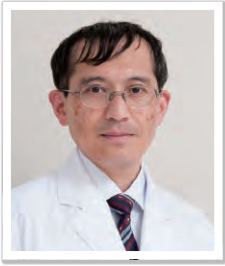
当科外来は日によっては大変混雑し、ときに長時間お待ちになってしまうこともあります。できる限り迅速に診療を行うように心掛けてはおりますので、どうかご容赦いただけるようお願いいたします。

医師専門分野一覧		ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。		
医師名	職位	専門分野	外来診療	
井上 裕治	科長 主任教授	黄斑・網膜疾患 網膜硝子体	一般外来 黄斑外来	月・木 水 午後 午前
三村 達哉	准教授	角膜・ぶどう膜	一般外来 ぶどう膜外来	木・金 木 午前 午前
渡邊 恵美子	病院准教授	眼底疾患・網膜硝子体	一般外来 網膜硝子体	金(第2・4週) 火 水 午後 (完全予約制) 午前 午前
太根 ゆさ	助教	斜視・弱視	一般外来 斜視・眼筋麻痺・弱視 視能矯正	水・金 火 金 午前 午後 午後
水野 嘉信	助教	角膜疾患	一般外来 角膜外来	水・木 水 午前 午後
寺内 岳	助教	眼底疾患・網膜硝子体 斜視・小児眼科	一般外来	月・金・土(第2・4週) 午前
川嶋 真	助教	眼科一般・涙器涙道	一般外来	木・金・土(第1・3週) 午前
吉津 和真	助手	眼科一般	一般外来	火・水・土(第1・3週) 午前
林 孝雄	医療技術学部 教授	視能矯正・斜視・弱視 眼振	斜視・眼筋麻痺・弱視 視能矯正・眼振	火 月 午前 午後
金子 博行	医療技術学部 准教授	眼瞼・義眼・眼窩 涙道・眼腫瘍・斜視	形成眼科・涙道・眼窩疾患 斜視・眼筋麻痺・弱視	木 (完全予約制) 午前
冲永 聡子	非常勤講師	緑内障・白内障	一般外来 緑内障	水 水 午後 (完全予約制) 午後
宮坂 英世	非常勤医師	視能矯正・斜視・弱視 小児眼科	一般外来	火 午前
平石 剛宏	非常勤医師	斜視・弱視・小児眼科	一般外来	火 午前
水村 早織	医療技術学部 非常勤講師	眼科一般	一般外来	木 午前

外来受付 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30327
再診予約・変更電話 TEL:03-3964-8623 受付時間(月～金) 13:00～17:00

医療連携室
初診予約専用 初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498 電話予約時間(平日) 8:30～17:00 (土曜日) 8:30～12:30



診療科長
伊藤 健
医局長
持木 将人
外来医長
安井 拓也
病棟医長
清水 裕也

専門外来

伝音難聴・人工内耳外来

対象は、真珠腫性中耳炎、慢性中耳炎、耳硬化症、中耳奇形および高度感音難聴など手術で聴力が改善する疾患です。

鼓室形成術、アブミ骨手術および人工内耳埋込術で良い成績を残してきています。

高度難聴で補聴器が使用できない患者さんに対し聴力検査、画像診断の結果で人工内耳手術の適応を決定しています。

補聴外来

対象は、老人性難聴を代表とする感音難聴です。専門の医師・言語聴覚士・認定補聴器技能者が最も適合し価格的にも妥当な補聴器を選択し、調整をしています。

アレルギー外来

対象は鼻アレルギーです。治療は症状に応じて内服療法、レーザーによる外来手術、入院の上で後鼻神経切断・下甲介形成手術等の治療を行っています。

聴覚言語センター

当科は初代鈴木淳一教授の時代より耳科学を専門として、他の専門施設と連携するに十分な設備・人員を有していましたが、この度「聴覚言語センター」を設立致しました。これにより、聴覚医学的疾患におけるさらにスムーズな連携ならびに共同研究(耳や聞こえの疾患について)等が可能となります。すでにいくつかの聴覚専門機関との連携を開始しており、今後徐々に対象を拡大する所存ですので、宜しくお問い合わせ申し上げます。

外来受付

TEL:03-3964-1211 (代)
内線:30335

再診予約・変更電話

TEL:03-3964-8651
受付時間(月～金) 13:00～17:00

医療連携室

初診予約専用 初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498

電話予約時間
(平日) 8:30～17:00 (土曜日) 8:30～12:30

診療内容・特色

帝京大学耳鼻咽喉科は一貫して耳科学・聴覚医学を専門とすると共に、広く耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域を、救急疾患を含めカバーして参りました。

耳の診療につきましては、特に新病院となってから各外来診療室に手術用顕微鏡を装備したことを始めとして、手術室の装備の最新化・手術侵襲の低減(早期治癒)等、随所に改善を行っております。

中耳炎症例は特に難治例の紹介が多く、毎週のように広範進展真珠腫の手術が行われます。当科での術式は、中耳開放により病変を完全に除去した後、元通りのサイズに外耳道を再建する手技(初代教授考案)であり、病変コントロールに有利であると併に術後の治癒が良いのが特長です。難聴の中でも耳硬化症や中耳奇形など手術による改善が見込めるものは積極的にアブミ骨手術・鼓室形成術を施行し、良好な成績を取っております。

治療不能な両側感音難聴に対しては補聴外来にて専門の医師・言語聴覚士・認定補聴器技能者が補聴器を適合しております。補聴器も使用できない程の高度難聴には、人工内耳を埋め込む手術を行います。

慢性副鼻腔炎に対しては内視鏡下鼻内手術を行っており、通年性アレルギー性鼻炎や花粉症に対しても、外来小手術はもとより入院での後鼻神経切断術(くしゃみ・鼻水を止める)・下甲介形成術(鼻づまりを改善させる)も積極的にを行っています。

頭頸部腫瘍(悪性・良性)については、頭頸部外科専門医を中心にQOLを重視した治療を行っております。特に頭頸部癌の治療に不可欠な放射線治療は、放射線専門医と十分な連携を取って行うのが特長です。

専門領域・地域医療連携ともにさらに進歩を加えながら進めて参る所存ですので、何卒宜しくお願い申し上げます。

医師専門分野一覧

ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。

医師名	職位	専門分野	外来診療日
伊藤 健	科長 主任教授	耳科学・聴覚医学 (耳科手術執刀1,800例以上)	一般外来 火 人工内耳・中耳 火 午前 午前
持木 将人	病院准教授	頭頸部腫瘍 (悪性腫瘍手術執刀3,000例以上)	月・金 午前
安井 拓也	講師	聴覚・耳疾患・鼻咽頭疾患 ナビゲーション手術	火・木・土(要確認) 午前
吉原 晋太郎	助教	耳鼻咽喉科全般	一般外来 木・金・土(要確認) 午前
清水 裕也	助手	耳鼻咽喉科全般	一般外来 月・火・土(要確認) 午前
鈴木 邦啓	助手	耳鼻咽喉科全般	一般外来 月・金・土(要確認) 午前
石田 洋介	助手	耳鼻咽喉科全般	一般外来 月・金・土(要確認) 午前
山岸 純也	助手	耳鼻咽喉科全般	一般外来 火・金・土(要確認) 午前
黒木 良子	臨床助手	耳鼻咽喉科全般	一般外来 月・火 午前
岩波 朋子	臨床助手	耳鼻咽喉科全般	一般外来 木 午前
平野 真希子	非常勤講師	耳鼻咽喉科全般	一般外来 月(第1・3・5週) 午前 木 午前



診療科長

河野 博隆

外来医長

宮本 英明

病棟医長

豊岡 青海(9階)

佐々木 源(10階)

医局長

藤田 宗義

専門外来

腫瘍診

良悪性を問わず全ての骨腫瘍と軟部腫瘍、そしてがんの骨転移を対象としています。罹患部位や病気の進行具合は症例により様々ですが、整形外科内の他診療グループ、他診療科と連携し、個々の症例に応じてより良い治療が行えるよう体制を整えています。液体窒素処理やナビゲーション手術、様々なタイプの人工関節による再建など、最新の術式を取り入れています。病的骨折や進行の早い肉腫などが疑われ、急いの方がよいと思われる場合は、予約日以外でも可能な限り対応しますので外来までご相談ください。

手外科診

手・上肢の外傷一般(挫滅・切断を含む)、変性疾患、腫瘍性疾患、先天性疾患、上下肢末梢神経障害の治療、およびその機能・形態再建を対象としています。

膝関節診

変形性膝関節症に対しては、最先端のテクノロジーである手術支援ロボット「Mako」を導入し、人工膝関節全置換術を行っています。ロボットによる正確な手術操作が可能となり、より良好で安定した手術成績を得ています。スポーツ外傷に関しても積極的に取り組んでおり、解剖学的前十字靭帯再建術・半月修復術など最新の術式を取り入れております。

股関節診

変形性股関節症・寛骨臼形成不全・大腿骨頭壊死症などを対象として、人工股関節全置換術・大腿骨骨切り術・低侵襲的骨盤骨切り術などの手術を行っています。正確で安全な手術を行うために、3次元の術前計画をたてた上で、ナビゲーション・システムや手術支援ロボット「Mako」を用いて手術を行っています。

脊椎診

安全・確実な脊椎脊髄手術を行うことをモットーにして、後頭骨頸椎移行部から尾骨までの全脊椎高位における各種疾患に対処できる体制を整えています。頸椎性脊髄症、胸椎黄色靭帯骨化症、腰部脊柱管狭窄症、頸椎および腰椎椎間板ヘルニア、後縦靭帯骨化症などの脊椎変性疾患を主に扱っています。脊椎外傷、関節リウマチ、破壊性骨関節症、脊椎腫瘍(原発性、転移性)、脊髄腫瘍などにも対処しています。脊柱側弯症をはじめとした脊柱変形にも対応可能です。主として腰椎疾患に対し、脊椎内視鏡を用いた低侵襲手術を積極的に行っています。

診療内容・特色

人が生き生きとした生活を送るためには、立つ、歩く、物を持つなど自分の体を動かすことが必要です。体を動かすために必要な部分を運動器といい、骨、関節、靭帯、腱、神経、筋肉などが含まれます。整形外科とは、これらの運動器の病気(疾患)や怪我(外傷)を診療する科です。もっとわかりやすくいうと、頭と内臓以外はすべて整形外科の分野です。もし、あなたが体のどこかが痛いとか、事故で怪我をしたとか、手足が痺れて思うように動かせないといった症状でお悩みでしたら、整形外科を受診してください。

われわれ整形外科では、患者さんの悩みを親身になってうかがい、生き生きとした生活を取り戻すお手伝いをします。

帝京大学整形外科では、整形外科外来、整形外科病棟で診療を行うと同時に、救急外来および外傷センターに整形外科医を配置して診療を行っています。外来では、一般外来は毎日(休日祭日を除く)診療を行い、特定の曜日に専門外来を開いています。専門外来は、難治骨折診、股関節診、膝関節診、脊椎診、手の外科診、腫瘍診、リウマチ診、スポーツ診、肩関節診、骨粗鬆症診、足の外科診、外傷外来があり、それぞれ高度の知識と豊かな経験をもつ専門医が診療をしています。

当科は臨床をもっとも重視し、整形外科のほとんど全ての分野に臨床経験豊かな専門医をそろえ、年間1900件以上の手術を行っています。2022年度の手術のうち一番件数が多かったのは新鮮骨折等の外傷手術(約830件)で、大学病院として外傷の手術件数が多いのが特徴です。新鮮骨折以外に、他施設から紹介された偽関節や骨髄炎、変形治療など骨折の合併症に対する手術も80件ありました。股関節の手術(人工関節や骨切り手術)は90件、膝関節は160件、足・足関節の手術は250件、脊椎の手術は160件、手・手関節の手術は90件、骨・軟部腫瘍の手術は110件、肩関節の手術は70件、リウマチの手術は4件と、各専門グループが活発に手術を行っています。

スポーツ診

スポーツ傷害の画像診断でしばしば用いられる単純レントゲンやCT、MRIは、全て静止画による画像診断ツールですが、超音波検査では、スポーツ傷害を動的に診断することが可能です。

またMRIは通常予約制の検査ですが、超音波検査では、診察室でリアルタイムに病態を観察できます。

スポーツ診(月曜午後)では、スポーツ傷害の原因精査や注射治療において超音波検査を活用し、できる限り保存治療での競技復帰を目指しております。保存治療で治癒しない場合や難治性のスポーツ傷害に対しては、各専門診と協力して関節鏡を用いた手術治療にも対応しております。

難治骨折診

骨折後の癒合不全(骨がくっつかない)、変形癒合(骨が曲がってくっついたり、足が短くなってしまった)、骨髄炎(骨折部が感染してしまった)、膝関節拘縮(骨折後に膝が曲がらない)などを対象として治療しています。

足の外科診

足関節鏡を診断・治療に積極的に応用し、これまで約2000例の関節鏡視下手術を行っています。

肩関節診

凍結肩（いわゆる四十肩、五十肩）や腱板損傷、変形性肩関節症、反復性肩関節脱臼をはじめ、肩関節の痛みや機能障害をきたしている方を対象に超音波ガイド下注射を中心とした保存治療や、低侵襲な関節鏡視下手術、人工関節手術などをおこなっています。

リウマチ診

関節リウマチをはじめ、脊椎関節炎、痛風、偽痛風といった疾患を診断し、薬物治療、手術療法、リハビリテーションを行っています。このような炎症性疾患では診断に難渋する場合があります。局所だけでなく、症状のない関節や脊椎・骨盤、さらには呼吸器といった全身にも注意を払い、正確な診断を導きます。関節リウマチ、脊椎関節炎に対しては生物学的製剤やJAK阻害薬の使用を考慮した積極的な治療を行っています。また、手足に変形・機能障害がある場合には人工関節置換術や関節形成術などの手術療法を行っています。

外傷外来

外傷センターとして四肢骨折を専門的に治療しています。手術を要する四肢骨折の診療および外傷センターで手術を受けた方のフォローアップをしています。

医師専門分野一覧				ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。		
医師名	職位	専門分野	外来診療日			
河野 博隆	科長 主任教授	骨軟部腫瘍 骨粗鬆症	一般外来 腫瘍診	金(予約のみ) 金	午前 午後	
中川 匠	教授	膝関節外科 スポーツ整形外科 人工膝関節 ナビゲーション手術	一般外来 膝関節診	水 月	午前 午後	
渡部 欣忍	教授	骨折・外傷後合併症 (癒合不全偽関節 変形治癒・骨髄炎 関節拘縮)	難治骨折診	木	午前	
北川 知明	病院教授	脊椎脊髄病外科	一般外来 脊椎診	月 月	午前 午後	
今西 淳悟	准教授	骨軟部腫瘍 腫瘍外科	一般外来 腫瘍診	木 金	午前 午後	
松田 健太	准教授	股関節疾患	一般外来 股関節診	火 火	午前 午後	
安井 洋一	講師	足の外科	一般外来 足の外科診	金(第1・3・5週) 月 水(第1・3週)	午前 午後 午後	
松井 健太郎	講師	外傷・足の外科 骨折	外傷外来	金	午前	
宮本 英明	講師	外傷・手の外科	一般外来 手の外科診	木 水	午前 午後	
塚田 圭輔	助手	肩関節外科 スポーツ整形外科	肩診	木(第1・3週) 木	午前 午後	
西村 慶太	医療技術学部 特任教授	リウマチ薬物療法 関節外科	リウマチ診	水	午後	
宮本 亘	医療技術学部 准教授	足の外科 スポーツ整形外科	足の外科診	月 金(第1・3・5週)	午後 午前	
笹原 潤	医療技術学部 准教授	スポーツ整形外科 超音波・足の外科	スポーツ診 足の外科診	月 月	午後 午後	
時崎 暢	教育学部 准教授	骨軟部腫瘍	腫瘍診	金	午後	

スポーツ外傷・関節鏡センター

2017年4月からスポーツ外傷・関節鏡センターを標榜しました。帝京大学整形外科では、これまでも、アスリートが受傷前レベルのスポーツ活動に早期かつ確実に復帰できるように診療を行ってきました。膝関節・肩関節・足の外科の各スペシャリストが、最先端の医療技術を用いて、早期スポーツ復帰を可能とする創の小さい手術（最小侵襲手術）を行ってきました。また、八王子キャンパスの帝京大学スポーツ医科学センターと連携して、ラグビー部やチアリーディング部、駅伝部などのトップアスリートを競技復帰までサポートしてきた実績があります。当科のように各関節の専門医やリハビリ医が揃っており、競技復帰まで手厚くサポートできる施設は首都圏には他にありません。

これまで培ってきた治療経験をいかして、安心してスポーツ復帰できるようにスタッフ一同で真摯に治療にあたります。スポーツ外傷でお困りの患者さんはぜひ受診してください。

人工関節・関節機能再建センター

四肢の関節疾患について、患者さんの病状や生活レベル・治療ゴールに応じて人工関節手術のみならず、骨切り術や関節鏡を用いた関節機能再建の幅広い選択肢を提供できる診療体制を備えています。膝関節と股関節の人工関節手術についてはナビゲーション・システムや手術支援ロボット「Mako」を用いて正確・安全な手術を行っています。肩関節では、これまで治療の難しかった腱板機能の低下した患者さんに対してリバース型人工関節手術も行っています。リハビリテーションにも力を入れています。

脊椎脊髄病センター

2023年4月より脊椎脊髄病センターを標榜することになりました。整形外科では脊椎診として、脊椎や脊髄の様々な疾患に対し、専門の治療を提供してきました。今回、脳神経外科、脳神経内科をはじめとする脊椎、脊髄疾患をとりあつかう各科と、外傷センター、リハビリテーション科、放射線科など診療、治療を協力する各科が結集し、より高度な診療を提供できる体制が整いました。当センターでは、最新の医療機器を導入し、低侵襲手術から、高難度脊椎脊髄手術まであらゆる疾患に対応しています。また外科的治療に限定せずに疾患に合わせた最適な治療を提供していきます。ぜひ、当センターをご活用ください。

外来受付 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30203
再診予約・変更電話 TEL:03-3964-8627 受付時間(月～金) 13:00～17:00

医療連携室
初診予約専用 初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498 電話予約時間(平日) 8:30～17:00 (土曜日) 8:30～12:30



診療科長

中川 徹

外来医長

川合 剛人

病棟医長

金子 智之

医局長

川合 剛人

専門外来

ロボット手術外来

前立腺癌・腎細胞癌・膀胱癌・腎盂尿管移行部狭窄症に対して、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチXi」を用いた手術を実施し、出血量の減少など低侵襲化を実現しています。2022年度からは、副腎腫瘍に対する副腎摘除術、腎細胞癌に対する腎全摘除術、腎盂尿管癌に対する腎尿管全摘術が新たに保険収載されました。当外来ではその適応についての相談、術後のフォローアップなどを行っています。

結石外来

腎結石・尿管結石に対してホルミニウムレーザーによる内視鏡下破碎術(TUL)・経皮的尿路結石破碎術(PNL)・TULとPNLを同時に行う術式(TAP)を患者さんの状況に合わせて施行し、優れた治療成績を上げています。結石は50%が再発するといわれ、生活習慣病とも密接な関係があります。そのため、再発予防についてはご紹介頂く掛かりつけの先生方との連携が不可欠と考えています。

レーザー手術外来

前立腺肥大症に対して、レーザーを用いた手術を行っています。当科では最新のPVPグリーンライトレーザー(XPS)を2020年に導入しました。本機が使用可能な病院は都内で2施設のみです。最大の特徴は、高出力レーザーによる蒸散をおこなうため出血が少ないことです。そのため、抗凝固剤を内服していても安全に実施可能です。

間質性膀胱炎外来

間質性膀胱炎は、膀胱痛、頻尿、尿意切迫感などの症状を呈する、原因不明で比較的多い疾患です。重症例(ハンナ型)は厚生労働省の指定する難病指定を受けています。専門的な治療を行っている施設は少ないですが、当院では経験豊富な医師を有しており、麻酔下膀胱水圧拡張術などの治療を行っています。

前立腺癌外来

前立腺癌に対する診断、手術、放射線治療、薬物療法(内分泌療法、化学療法)について包括的に診療します。手術は「ダ・ヴィンチXi」を用いたロボット支援手術を行っています。放射線治療については放射線科担当医と密接な連携のもとに実施しています。また、前立腺癌に関するセカンドオピニオンも実施しています。

膀胱癌外来

膀胱癌(膀胱腫瘍)は再発しやすく、再発予防と定期的なフォローアップが重要です。また膀胱全摘除術を受けた患者さんの尿路変向手術後のフォローアップも行っています。

診療内容・特色

社会の高齢化とともに、当科の診療対象となる患者さんは急増しています。悪性疾患としては、特に前立腺癌や膀胱癌は高齢者に多いことが知られています。良性疾患も、前立腺肥大症や過活動膀胱による排尿障害のため、生活の質(QOL)の低下を来している高齢者が増加しています。また一方で、若年男性における男性不妊や性機能障害、尿路結石症といった、専門性の高い分野の需要も増えています。

当科では、悪性腫瘍(腎細胞癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、陰茎癌、精巣腫瘍、後腹膜肉腫など)、尿路結石、排尿障害(前立腺肥大症、神経因性膀胱、過活動膀胱など)、さらに男性不妊・性機能障害・男性更年期といった幅広い分野を、各分野の専門医が中心になって診療しています。

手術ロボット「ダ・ヴィンチXi」を用いたロボット手術

当科では、手術ロボット「ダ・ヴィンチXi」による手術を積極的に行っています。多関節アームの広範な可動性や、3D内視鏡による高解像度画像により、開腹手術に比べて優れた治療成績が証明されています。本邦におけるロボット手術は、前立腺癌での保険収載(2012年)に始まりますが、当院は早期からロボット支援手術を導入しており、豊富な経験を有しています。2022年春からは、ロボット支援手術として、副腎腫瘍に対する副腎摘除術、腎細胞癌に対する腎全摘除術、腎盂尿管癌に対する腎尿管全摘術が新たに保険収載されました。いまや当科の摘出手術はほとんどがロボット手術・腹腔鏡下手術となり、治療の低侵襲化が進んでいます。

【ロボット支援手術を実施している疾患】

- 副腎腫瘍(副腎摘除術)
- 腎細胞癌(腎部分切除術、根治的腎摘除術)
- 腎盂尿管癌(腎尿管全摘術)
- 膀胱癌(膀胱全摘術、体腔内回腸導管/代用膀胱造設術)
- 前立腺癌(前立腺全摘術)
- 腎盂尿管移行部狭窄症(腎盂形成術)

進行癌に対する集学的治療

低侵襲治療の推進の一方で、拡大・多臓器合併切除や、強力な薬物療法を必要とする高度進行癌の症例も存在します。当院では、そのような難治症例を積極的に治療しています。

例えば、下大静脈に進展している腎細胞癌に対して、心臓血管外科や肝胆膵外科と協力し、場合によっては体外循環も併用した手術を実施しています。後腹膜肉腫に対しては、必要に応じて整形外科や腫瘍内科と協議しながら治療方針を決定します。

また、腎細胞癌や膀胱癌など、多くの癌腫で免疫チェックポイント阻害剤が保険適応になっています。その実施に当たっては、多彩な副作用に対応できる診療体制が必要です。必要に応じて他科に協力いただきながら、薬物療法を着実に実施しています。

特色のある専門外来

結石外来では、経尿道的な破碎手術(TUL)を積極的に実施しています。男性不妊・性機能外来では、外来での各種検査や薬物療法のほか、顕微鏡下精巣内精子採取術(micro-TESE)、顕微鏡下精索静脈瘤低位結紮術、顕微鏡下精路再建術といった、高度な技術を要する手術治療を、経験豊富な専門チームを中心に積極的に行っています。

患者さん中心のチーム医療

わたしたちは、患者さんを中心として、担当医及び泌尿器科の全医師、看護師、薬剤師、必要に応じて他科の医師など、関係するスタッフ全員が患者さんを診る「チーム医療」を実践しています。例えば前立腺癌では、手術治療と放射線治療の選択は放射線治療医との相談が必要です。また、内科的な合併症を有する高齢の患者さんも多数おられます。定期的なカンファレンスで、多くのスタッフによる討論を経て患者さんの治療方針を決めています。

男性不妊外来

お子さんを作ろうとしても妊娠しない場合、男性側が原因になっていることがあります。基本的な問診のほかに、精液検査、精索静脈瘤のチェック、ホルモン検査、必要に応じて染色体検査、画像検査等を行います。治療は薬物療法のほか、顕微鏡下精巣内精子採取術 (micro-TESE)、顕微鏡下精索静脈瘤低位結紮術、顕微鏡下精路再建術などを行っており、これらを経験豊富な生殖医療専門医を中心とする専門チームが担当します。

男性更年期外来

近年、加齢やストレスによる男性ホルモンの低下が、性機能の低下のみならず、種々の身体症状、精神・心理的变化と関係することがわかってきています。この状態はLOH症候群と呼ばれ、多くの患者さんが悩んでいることが知られてきています。男性ホルモン値を測定し、ホルモン補充療法等、適切な治療を行うことで、症状の改善がみられます。

性機能外来

性機能外来では、勃起障害 (Erectile dysfunction:ED)をはじめ、陰茎に関する問題、射精・性行為に関する悩みに対して、性機能学会専門医が診察、治療します。内服薬が無効な症例に対しても陰茎海綿体自己注射法を導入して良好な結果を得ています。

診療・治療を行う疾患・症状名

腫瘍	腎、副腎、腎盂尿管、膀胱、前立腺、尿道、陰茎、精巣、後腹膜
結石	腎、尿管、膀胱、尿道
炎症	各種尿路感染症、男性生殖器感染症
排尿障害	前立腺肥大症、頻尿、尿失禁 過活動膀胱
尿路閉塞	水腎症、尿閉
性機能障害	男性機能障害 (勃起障害・射精障害・ 男性更年期障害)
男性不妊症	精索静脈瘤、無精子症、乏精子症
尿路外傷	腎外傷、尿道外傷
腎不全	透析腎癌



医師専門分野一覧		ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。			
医師名	職位	専門分野	外来診療日		
中川 徹	科長 主任教授	泌尿器癌 ロボット手術 腹腔鏡手術 癌薬物療法	一般外来	月	午前・午後
			一般外来 (初診)	金	午前
金子 智之	病院准教授	泌尿器癌 ロボット手術 腹腔鏡手術 尿路結石症 排尿障害	ロボット手術外来	月	午前
			前立腺癌外来	月	午前
			セカンドオピニオン外来	月	午後
			ロボット手術外来	水	午後
川合 剛人	講師	泌尿器癌 ロボット手術 腹腔鏡手術 癌薬物療法 排尿障害	一般外来	水	午前・午後
			一般外来 (初診)	金	午前
			前立腺癌外来	水	午前
			膀胱癌外来	水	午前
吉村 巖	助教	泌尿器一般	一般外来	水	午前・午後
			一般外来 (初診)	金	午後
			レーザー手術外来	水	午後
間質性膀胱炎外来	金	午後			
戸倉 祐未	助教	泌尿器一般	一般外来	金	午前・午後
			一般外来 (初診)	金	午前
野田 軌夫	助手	泌尿器一般	一般外来	金	午前・午後
柳田 和己	助手	泌尿器一般	一般外来 (初診)	金	午前
			一般外来	水	午後
清藤 豊士	シニアレジデント	泌尿器一般	一般外来	月	午前・午後
			一般外来 (初診)	月	午前
山峯 直樹	シニアレジデント	泌尿器一般	一般外来	金	午前・午後
			一般外来 (初診)	金	午前
氏家 隆志	シニアレジデント	泌尿器一般	一般外来	月	午前・午後
			一般外来 (初診)	月	午前
木村 将貴	非常勤講師	男性不妊症 性機能障害 男性更年期 マイクロサージャリー	男性不妊外来	木	午後
			性機能外来	木	午後
			男性更年期外来	木	午後
栗原 浩司	非常勤医師	泌尿器一般	一般外来	月	午後
橋本 尚弥	非常勤医師	泌尿器一般 尿路結石症	一般外来	木	午前
			一般外来 (初診)	木	午前
			結石外来	木	午前



外来受付 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30300
再診予約・変更電話 TEL:03-3964-8262 受付時間(月~金) 13:00~17:00

医療連携室
初診予約専用 初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498 電話予約時間(平日) 8:30~17:00 (土曜日) 8:30~12:30



診療科長

辛 正廣

医局長

庄島 正明

外来医長

宇野 健志

病棟医長

大山 裕太

診療内容・特色

帝京大学の脳神経外科は頭蓋底腫瘍専門の辛教授に加え、脳卒中診療における第一人者である庄島教授を迎え、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、先天奇形など、様々な器質的疾患から、水頭症や、顔面けいれん、三叉神経痛など機能的疾患まで、幅広い脳神経疾患を対象に、治療を行っています。当科では、患者さんの体の負担を抑え、最大限の治療効果を発揮する“低侵襲治療”の実現をコンセプトに掲げ、治療を受けていただく患者さんの早期改善と社会生活の回復を目指して診療にあたっています。

経験豊富な専門医によるハイブリッド手術室での脳卒中手術

高度救命救急センターを有する帝京大学では、脳卒中センターを開設し、一次脳卒中センターコア施設の認定を受け、24時間体制で脳卒中診療を行っています。当科における脳卒中診療の特徴は、顕微鏡下の開頭手術に加え、血管の問題を体の中からカテーテルで修復する、脳血管内治療を積極的に推進しているところにあります。脳血管内治療は、くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤の出血を予防・阻止したり、脳梗塞の原因となるような血管の狭窄に対し、血管を広げて血流の停滞を改善させたりすることのできる、安全かつ有効な治療法です。当科では、救急医学専門医（大山助教）のサポートのもとで、日本脳神経血管内治療の指導医（庄島教授、宇野准教授）を中心に血管内治療専門医（後藤講師、大山助教、富岡助教）と日本脳卒中の外科学会技術認定医（宇野准教授、後藤講師）が治療にあたっております。経験豊富な脳卒中治療の専門医が、顕微鏡下での開頭手術と脳血管内治療の適応について、十分検討を行い、患者さん一人一人に最適な治療を、日夜、提供しています。



顕微鏡下での開頭手術



手術室と血管撮影室の機能を兼ね備えた“ハイブリッド手術室”での脳血管内治療

開頭せず、鼻腔を経由して脳深部に到達、神経内視鏡下頭蓋底手術

帝京大学では、下垂体・内視鏡センターを開設し、下垂体腺腫や頭蓋底腫瘍に対し、開頭せずに鼻腔を経由して腫瘍の切除を行う、内視鏡下経鼻頭蓋底手術を積極的に行っています。この手術法では、脳に圧迫を加えることなく、深部に存在する病変に直接、脳の底側から到達することが可能であるため、開頭手術と比べ、患者さんの体の負担が少なく抑えられます。現在まで、下垂体腫瘍に対する手術に加え、頭蓋底に発生し脳神経を巻き込んで発育する、髄膜腫や頭蓋咽頭腫に対しても、この手術法を応用し、良好な治療成績を達成しています。さらに、頭蓋底脊索腫や軟骨肉腫など、一般に安全な切除が難しいとされる疾患に対しても、内視鏡手術により、徹底切除と症状の改善の両方を達成しています。



鼻腔を経由して脳深部の病変に到達する内視鏡下経鼻頭蓋底手術

当院の内視鏡下経鼻手術は、国内でも有数の手術経験のある、日本神経内視鏡学会技術認定医（辛教授、後藤講師、樋口講師）が手術を担当しています。

もやもや病をはじめとした、脳虚血性疾患に対する脳血流再建術

もやもや病は、日本をはじめ、東アジアで多発する進行性の脳血管閉塞症です。脳の血管の中でも、最も重要な内頸動脈が閉塞を来す病気で、脳血流の低下により、小児や若年成人で手足の麻痺やてんかん症状を認めます。また、これとは別に、高齢者における脳動脈硬化症でも、脳の血管が徐々に狭窄を来し、脳血流が低下することで脳梗塞へと進行していきます。当科では、こうした脳虚血性疾患に対しても、積極的な治療を行っています。顕微鏡下に頭皮血管を脳血管に吻合して脳血流を増加させる直接血行再建術と共に、硬膜の一部や側頭筋を脳表に敷き込み、脳表の動脈との自然吻合を促す間接的血行再建術を、患者さんの病状に応じてお勧めしています。手術中には、電気刺激による運動機能のモニタリングを行い、術中から術後には近赤外線を用いた脳血流の測定を併用することで、安全面に最新の配慮を行いながら術中術後の脳血流の管理を行います。こうして、脳梗塞や脳内出血を未然に防ぐ予防的な外科治療も行っています。

最新の手術支援機器を駆使した脳腫瘍の手術と分子診断に基づいた集学的治療

神経膠腫や、リンパ腫、転移性脳腫瘍は、脳組織内に浸潤しながら増大するため、脳の機能を温存しつつ、最大限の摘出を行うことが必要です。当科では、脳腫瘍の摘出術に際し、ナビゲーションシステム、蛍光診断、神経モニタリングなどの最新の手術支援機器を用いて、安全面に最大限の配慮をしながら、精密な摘出術を行っています。多くの手術経験を有する専門医（樋口講師、後藤講師、大山助教、辛教授）が、顕微鏡と内視鏡を駆使して手術にあたります。また、脳腫瘍の十分な摘出を行った後に、脳組織内に細胞レベルで浸潤する病変に、放射線治療や化学療法を効果的に組み合わせ治療を行っています。当科では、摘出検体を元に分子診断、遺伝子診断を行う体制を整えています。新しい脳腫瘍の分類や、新たに開発される最新の治療にも対応しています。

医師専門分野一覧		ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。	
医師名	職位	専門分野	外来診療日
辛 正廣	科長 主任教授	間脳下垂体腫瘍(下垂体腫瘍、頭蓋咽頭腫) 頭蓋底腫瘍(髄膜腫、脊索腫、神経鞘腫) 小児脳神経疾患全般	下垂体・頭蓋底腫瘍外来 月 午前・午後 金 午前
庄島 正明	教授	脳動脈瘤、脳動脈静脈奇形、硬膜動静脈瘻、頸動脈狭窄 急性期脳梗塞	脳動脈瘤・血管内治療外来 木 午前・午後 脳血管ドック 月 午後
宇野 健志	准教授	脳血管障害・血管内治療・もやもや病・三叉神経痛 顔面けいれん・頭蓋底腫瘍	脳動脈瘤・血管内治療外来 水・金 午前 もやもや病外来 水 午前 三叉神経痛・顔面けいれん外来 金 午前 水・金 午前
樋口 芙未	講師	脳腫瘍(神経膠腫、その他全般)	脳神経外科一般外来 月 午前・午後 脳腫瘍外来 月 午前・午後
後藤 芳明	講師	脳血管障害・血管内治療・もやもや病・間脳下垂体腫瘍 頭蓋底腫瘍	脳神経外科一般外来 木 午前 下垂体・頭蓋底腫瘍外来 火 午前
大山 裕太	助教	脳血管障害・血管内治療・もやもや病・救命救急	脳神経外科一般外来 金 午前 脳動脈瘤・血管内治療外来 金 午前 もやもや病外来 金 午前
富岡 亜梨沙	助教	脳血管障害・血管内治療・もやもや病	脳神経外科一般外来 火・木 午前
川口 愛	助手	脳神経外科一般	脳神経外科一般外来 水 午前
展 広智	客員准教授	脳神経外科一般	脳神経外科一般外来 水(1・3・5週) 午前

専門外来

下垂体・頭蓋底腫瘍外来

下垂体腫瘍や頭蓋底腫瘍などの良性腫瘍は、何年もの間、経過観察できるものが多く存在しています。ここでは、各々の症例での治療必要性について、症状や増大傾向、画像所見などを詳細に検討して決定します。手術については、内視鏡手術を中心とした、体の負担の少ない、安全かつ効果的な手術をお勧めしています。

脳動脈瘤・血管内治療外来

くも膜下出血の原因となる、脳動脈瘤は大きさや形状により、出血の危険性や治療の必要性が変わります。脳動脈瘤治療の適応について、データを示して検討するとともに、最適な治療法を提案いたします。また、その他の脳血管病変についても、脳血管内治療を中心に安全面に配慮した治療法の提案を行っています。

もやもや病外来

もやもや病や動脈硬化による脳虚血を来している患者さんに、適切な検査を行い、外科的な治療のみならず、各々に最適な治療法をお勧めしています。手術が必要な場合でも、高度な血管吻合技術を有する医師が治療を担当いたします。

三叉神経痛・顔面けいれん外来

三叉神経痛・顔面けいれんに対する手術は、脳の血管を神経から剥離するため、細心かつ高度な操作が必要です。当科では、最新の神経機能モニタリングを行いながら、内視鏡、外視鏡、顕微鏡を組み合わせ、小さな開頭ながら、広い視野の下で手術を行っています。安全かつ効果的な手術により、顔面の痛みやけいれんなどを短期間で消失させることができます。

脳腫瘍外来

神経膠腫や悪性リンパ腫、転移性脳腫瘍の患者さんを中心に脳腫瘍全般について、手術前の診察と手術後の経過観察、化学療法などの診療を行っています。

脳血管ドック

脳卒中の危険因子の有無の評価、頸動脈エコーによる動脈硬化の評価、脳MRIによる脳梗塞・脳内出血・脳腫瘍など脳疾患の有無についての精査、脳MRAによる脳動脈瘤、脳動脈狭窄・閉塞の有無などの精査を行っています。

外来受付 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30208
再診予約・変更電話 TEL:03-3964-8632 受付時間(月～金) 13:00～17:00

医療連携室
初診予約専用 初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498 電話予約時間(平日) 8:30～17:00 (土曜日) 8:30～12:30



診療科長

大場 洋

外来医長

野元 昭弘

病棟医長

和田 武

医局長

山本 真由

専門外来

画像診断

CT5台、MRI4台（3Tesla3台、1.5Tesla1台）が導入されており、合わせて年間約4.6万件の検査を行っています。核医学検査はガンマカメラ（SPECT装置）2台、PET-CT 1台が導入され年間約4,100件の検査を行っています。

IVR

昨年度のIVR件数は、合計で1,113件でした。内訳としては血管系IVR【動脈塞栓術、血管拡張術、胃食道静脈瘤塞栓術、CVポートの留置など】773件、非血管系IVR【CTガイド下生検、ドレナージ術など】340件を行いました。当科には（日本IVR学会専門医3名を含む）8名のIVR専従医が勤務しており、夜間、休日を含めて、緊急IVR（外傷性出血、消化管出血、産科出血に対する動脈塞栓術など）の依頼に対応し、病院の診療レベルの維持、向上に努め、救急医療の一翼を担っています。また、悪性腫瘍に対するIVRだけでなく、大動脈瘤、内臓動脈瘤、肺動脈静脈奇形、リンパ疾患のIVRや門脈圧亢進症に対するIVRに力を入れています。治療だけでなく適応の有無についても随時対応しております。

また、令和4年度より肺動脈静脈奇形を合併することがあるオスラー病の専門外来を開始しました。遺伝子カウンセリング外来と連携し、遺伝子診断に関する診療も行っています。

放射線治療

外照射装置（リニアック）2台と高線量率密封小線源治療装置1台が設置されており、日本医学放射線学会放射線治療専門医（常勤2名、非常勤4名）、がん放射線治療専門看護師1名、医学物理士2名が診療にあたっています。「帝京がんセンター」所属の「がん放射線治療チーム」として院内のあらゆるがん診療部門のキャンサーボードに参加し、年間650例強の悪性腫瘍に対して、腫瘍の種類や広がりに応じた綿密な治療計画を立て、先駆的技術を駆使した放射線治療（照射部位は約500、照射件数は11,545）を行っています。最近では高精度治療の適応を拡大し、年間約350件と増加の一途にあります。最先端技術として体表面画像誘導技術や適応放射線治療の導入等、より精度の高い放射線治療を目指して努力を続けています。また2023年春には、大学病院として国内初となる新型リニアック（Elekta社製Harmony）の臨床稼働を開始しました。Harmonyは柔らかな印象を持つ洗練されたデザインで患者さんに安心を与えつつ、人間工学に基づくエラープルーフ化を促進するシステムで、治療提供側が効率的に操作ができるように設計されています。先進的がん治療に全力で取り組む帝京大学病院にふさわしい治療装置です。

診療内容・特色

放射線医学は画像診断、interventional radiology(IVR)、放射線治療の3部門に分けられます。画像診断部門にはX線CT、MRI、単純写真などを用いた各疾患の診断、放射線医薬品を投与しSPECTやPETを撮像して診断を行う核医学が含まれます。IVR部門は、血管造影、CT、超音波検査などの画像を見ながら様々な疾患の治療を行う部門です。放射線治療部門では「帝京がんセンター」所属の「がん放射線治療チーム」として独立してあらゆる悪性腫瘍に対する高精度放射線治療を行っています。当科は、日本医学放射線学会認定の研修施設です。また、多数の科とのカンファレンスを積極的に行い、各診療科の先生方と緊密な連携に努めています。

医師専門分野一覧

ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。

医師名	職位	専門分野	外来診療日
大場 洋	科長 主任教授	画像診断一般 神経放射線診断 小児神経放射線診断	
近藤 浩史	教授	肝・胆・膵画像診断 IVR	IVR外来 火 午前
白石 憲史郎	病院教授 がん放射線治療 チームリーダー	放射線治療	放射線治療外来 初診 月 午後 火・金 午前 再診 火・水 午後 水 午前・午後
山本 真由	講師	画像診断、IVR	IVR外来 月 午前
野元 昭弘	講師 がん放射線治療 チームサブリーダー	放射線治療	放射線治療外来 初診 月 午前 火 午後 水・金 午前・午後
和田 武	助教	画像診断、IVR	IVR外来 木 午前
山本 浩太郎	助手	画像診断、IVR	IVR外来 金 午前
石田 亜樹	助手	放射線治療	放射線治療外来 初診 火 午後 水 午前・午後 木 午前 再診 木 午前
平野 貴規	シニアレジデント	画像診断、IVR	IVR外来 月 午前
小塚 拓洋	非常勤医師	放射線治療	放射線治療外来 初診 火 午前
笹野 仲史	非常勤医師	放射線治療	放射線治療外来 初診 土 午前
加藤 大基	非常勤医師	放射線治療	放射線治療外来 初診 木・土 午前
山本 健太郎	非常勤医師	放射線治療	放射線治療外来 初診 金 午前

令和4年度実績

一般撮影	156,041件	放射線治療(人数)	652人
X線TV撮影	2,131件	IMRT照射実人数	351人
血管撮影	2,840件	定位照射人数	45人
CT検査	33,495件	放射線科IVR	1,113件
MRI検査	12,494件	放射線科IVR(緊急)	264件
核医学検査	4,124件	血管系IVR	773件
読影レポート	55,205件	非血管系IVR	340件
放射線治療(件数)	11,545件		

外来受付 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:32007
再診予約・変更電話 TEL:03-3964-8515
受付時間(月～金) 13:00～17:00

医療連携室

初診予約専用 初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498

電話予約時間(平日) 8:30～17:00 (土曜日) 8:30～12:30



診療科長
緒方 直史
外来医長
中原 康雄
病棟医長
緒方 直史
医局長
小黒 大輔

専門外来

いずれも外来予約が必要です。

義肢装具・車いすシーティング外来

脳卒中や脊髄損傷後の訓練や生活に必要な装具や車いす、下肢切断後の義足や上肢切断後の義手などの作製を行っています。また脳性麻痺などの小児の成長に合わせた装具・靴や車いす・座位保持いすの相談も受けまます。作製だけでなく、使用に必要な訓練も適宜行います。

ボツリヌス治療外来

「片側顔面痙攣、眼瞼痙攣、痙性斜頸、2歳以上の脳性麻痺や脳卒中片麻痺、頸髄胸腰髄損傷における上肢下肢痙縮に伴う尖足やはさみ足などに対する治療」を行っています。

なお、ボツリヌス治療は初回の診察で適応・投与部位などについて検討させていただき、実際にボツリヌス治療を行うのは2回目以降の診察時になります。

障害者スポーツ相談外来

障害があるけれどスポーツがしたい、障害があるけれど体力をつけたい、そんな方にどんなスポーツができるかをアドバイスをします。

在宅リハビリテーション外来

障害をもちながら在宅生活を送るにあたって困っていることに対して、リハビリテーション医学的な観点から解決の方法を考えます。医療福祉相談とタイアップして、よりよい生活を目指します。



診療内容・特色

リハビリテーション科では、四肢体幹の運動障害とそれに関係の深い障害をもつ方の全身状態を診察し、障害の原因やその種類、程度を診断します。訓練が必要かどうか、訓練が可能かどうかを判断して、理学療法や作業療法など訓練、治療を開始しています。

一般外来での主な対象は、脳血管障害（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など）、脊髄損傷、リウマチ、脳性麻痺、神経筋疾患、切断、呼吸器・循環器疾患などがあります。病気の発症まもない急性期からベッドサイドでの積極的訓練、開腹や開胸手術の前後の全身状態の改善、さらに慢性疾患に伴う寝たきり予防のリハビリテーション訓練も行っています。

専門外来は、義肢装具車いすシーティング外来、ボツリヌス治療外来、在宅リハ外来などがあります。リハビリテーション科専門医を中心に、毎日交代で診療にあたっています。

一般外来、専門外来ともに原則予約制になっています。初診の場合紹介状が原則必要です。

医師専門分野一覧		ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。	
医師名	職位	専門分野	外来診療日
緒方 直史	科長 主任教授	リハビリテーション医学 整形外科(運動器疾患・脊髄損傷・脳卒中・義肢装具)	水・木
中原 康雄	准教授	リハビリテーション医学 (脳卒中・神経疾患)	火・金
小黒 大輔	助教	リハビリテーション医学	木・金
徳永 貴久	助手	嚙下リハビリテーション医学	
徳田 彩	臨床助手	リハビリテーション医学	月・火
大谷 真貴子	臨床助手	リハビリテーション医学	月・火
若林 宏樹	臨床助手	リハビリテーション医学	水・木
小泉 玄	シニアレジデント	リハビリテーション医学	
旭 和俊	シニアレジデント	リハビリテーション医学	
内田 恵理香	シニアレジデント	リハビリテーション医学	
田中 良学	シニアレジデント	リハビリテーション医学	
渡邊 規子	医師	リハビリテーション医学	木(第2・4週)
伊佐地 隆	非常勤講師	リハビリテーション医学 (脳卒中・脊髄損傷・義肢装具シーティング年間100件以上・障害者スポーツ地域リハビリテーション)	月(第2・4週)
大西 康史	非常勤講師	リハビリテーション医学	金(第1・3週)

外来受付 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30241
再診予約・変更電話 TEL:03-3964-8710 受付時間(月～金) 13:00～17:00

医療連携室

初診予約専用 初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498 電話予約時間(平日) 8:30～17:00 (土曜日) 8:30～12:30



診療科長
澤村 成史
医局長
小西 康貴

特色・活動

当科は、(1)中央手術部における手術医療の運営と麻酔管理、(2)集中治療室における重症患者さんの診療、(3)ペインクリニック科における痛みの診療、を3つの大きな柱とし、多数の海外留学経験者を含む経験豊かな専門スタッフが活動を支援しています。

中央手術部では年間9500件以上の手術症例が行われており、集中治療部門とともに救命救急部門やがん診療を含む当院の高度先進医療を支援しています。

また、周術期管理センターでは、担当科・麻酔科医師、看護師のみならず、歯科口腔外科、薬剤部、栄養部、リハビリテーション部などの多部門が協調して、患者さんとご家族が周術期を乗り切るための最適な環境を提供しています。

外来での疼痛治療に関しては、ペインクリニック科のページをご参照ください。

診療内容・特色

当院は高度救命救急センターを有し、緊急手術を要する患者さんが日々、時間を問わず来院しています。麻酔科はこのような緊急症例に対して安全かつ速やかに手術を行える体制を常に維持するよう努め、地域の救急医療に貢献しています。

また、当院は地域がん診療連携拠点病院であるため、重症がん患者さんの手術も多数行われています。高齢や合併症のために一般病院では対応しきれない患者さんに対して、術前から術後にわたる質の高い全身管理を行い、術後は集中治療室と密接に連携して手術患者さんの治療に従事しています。

さらに、ダビンチ手術、内視鏡手術、経カテーテル的大動脈弁植え込み術(TAVI)や僧帽弁形成術(MitraClip)、などの高度な手術医療を安全に施行し、地域の先進医療に貢献できるよう管理体制の充実に努めています。

集中治療部門では、生命維持装置を含む先進医療機器を備えた環境が整備されており、専従の麻酔科医師が24時間常駐し、各科の医師と協力して重症患者さんの診療にあたっています。



医師専門分野一覧

医師名	職位	専門分野
澤村 成史	科長・主任教授	手術麻酔・安全管理
高田 眞二	教授	集中治療・安全管理
張 京浩	教授	集中治療
原 芳樹	教授	手術麻酔
柿沼 玲史	病院教授	手術麻酔、集中治療、ペインクリニック
原島 敏也	病院教授	手術麻酔
安田 篤史	病院教授	手術麻酔、集中治療
杉本 真理子	講師	手術麻酔、ペインクリニック
佐島 威行	助教	手術麻酔
小西 康貴	助教	手術麻酔、集中治療
窪田 絹子	助教	手術麻酔、集中治療
池田 祐亮	助教	手術麻酔、集中治療
水口 泰介	助教	手術麻酔、集中治療
稲垣 翔子	助教	手術麻酔
長尾 瞳	助教	手術麻酔、ペインクリニック
仲本 博史	助教	手術麻酔、集中治療、ペインクリニック
原田 真依	助教	手術麻酔、集中治療
本庄 鷹浩	助教	手術麻酔、集中治療
齋藤 彩香	助教	手術麻酔、集中治療、ペインクリニック
高橋 隆一郎	助手	手術麻酔、集中治療
鬼丸 大知	助教	手術麻酔、集中治療
山田 亜紗美	助手	手術麻酔、集中治療
加島 汀子	助手	手術麻酔、集中治療
生井 彩香	助手	手術麻酔、集中治療
重松 純子	助手	手術麻酔、集中治療
早瀬 千栄	助手	手術麻酔、集中治療
岡本 善基	助手	手術麻酔、集中治療、ペインクリニック
奥富 由貴	助手	手術麻酔、集中治療、ペインクリニック
小林 真美	助手	手術麻酔、集中治療

医師名	職位	専門分野
田村 朋世	助手	手術麻酔、集中治療
加賀 侑姫	助手	手術麻酔、集中治療
弘岡 玲奈	助手	手術麻酔、集中治療
小田嶋 絵理	助手	手術麻酔、集中治療
臼田 香織	助手	手術麻酔、集中治療
大賀 真緒	助手	手術麻酔、集中治療
島野 拳	助手	手術麻酔、集中治療
中澤 凜	助手	手術麻酔、集中治療
古谷 茉莉	助手	手術麻酔、集中治療
深谷 佑理子	助手	手術麻酔、集中治療
本庄 樹	助手	手術麻酔、集中治療
野原 最登	助手	手術麻酔、集中治療
上利 裕子	助手	手術麻酔、集中治療
古賀 美登里	助手	手術麻酔、集中治療
永田 恵	助手	手術麻酔、集中治療
別府 匠	助手	手術麻酔、集中治療
西川 祐美	助手	手術麻酔、集中治療
落合 裕貴	助手	手術麻酔、集中治療
川木 護	助手	手術麻酔、集中治療
太田 萌	助手	手術麻酔、集中治療
金 東煥	助手	手術麻酔、集中治療
小池 伶奈	助手	手術麻酔、集中治療
鈴木 美帆	助手	手術麻酔、集中治療
竹内 彼野音	助手	手術麻酔、集中治療
立野 博	助手	手術麻酔、集中治療
玉城 優志	助手	手術麻酔、集中治療
藤野 和哉	助手	手術麻酔、集中治療
矢部 祐章	助手	手術麻酔、集中治療



診療担当教授

關山 裕詩

外来医長

杉本 真理子

専門外来

インターベンショナル痛み治療外来

薬物療法に抵抗性の、運動器疼痛、神経障害性疼痛、術後遷延性疼痛、がん性疼痛などに対して、局所麻酔薬を用いた神経ブロックを行います。効果が長続きしない場合には、高周波熱凝固法・パルス高周波法も選択します。また、神経破壊薬を用いた神経ブロックも行なっております。

痛みの漢方外来

漢方治療においては西洋医学的治療のように痛みに関与する神経の興奮を抑制するという手法ではなく、人間の身体全体のバランスを整えるという全く視点の異なる東洋医学的治療により、劇的に痛みから解放されることが多々あります。痛みの漢方治療をしていると不眠、のぼせ、いらいら、冷え症、便秘、下痢、耳鳴り、湿疹等痛みと関連のないと思われる症状も同時に改善する事も少なくありません。痛みで苦しむ方のみならず、漢方薬でいろいろな症状を緩和されたい方はご相談ください。

神経障害性のかゆみ外来

大部分のかゆみは皮膚科的治療が適応の末梢性のかゆみです。その他腎臓や肝臓などの疾患に伴うかゆみ、オピオイドの副作用としてのかゆみ、神経障害性のかゆみがあります。神経障害性のかゆみは、帯状疱疹や糖尿病、様々な神経疾患に伴って起こります。このようなケースでは神経障害性疼痛治療に準じた治療が有効な場合が少なくありません。お困りの方は一度ご相談ください。



診療内容・特色

痛みの疾患は様々であり、各科でも診断、治療が行われています。それでもなかなかうまく緩和できない慢性の痛みをもつ患者さんを対象としています。具体的には頭痛、三叉神経痛などの顔面痛、頸肩腕痛や腰下肢痛などの運動器疼痛、帯状疱疹による痛みや糖尿病性神経障害などの神経障害性疼痛、血行障害による痛み、遷延する術後の痛み、がんやその治療に伴う痛みなどが対象となります。

治療は薬物療法（オピオイド、鎮痛補助薬、漢方薬など）、インターベンショナル痛み治療（局所麻酔薬による各種神経ブロック、高周波熱凝固法・パルス高周波法、腹腔神経叢・内臓神経ブロックなど）、光線療法、鍼灸治療などを行っております。また慢性疼痛の場合、日常生活における情動や行動も疼痛管理を行う上で重要となります。患者さんやご家族と日頃の対処方法についてじっくりお話しさせていただき、ご自宅でできる運動療法、心理療法についてもサポートしております。必要があれば他科との連携によって、診断、治療を進めることもあります。

今まで治らないといわれた痛みや、原因のよく分からない痛みなどを抱えて悩んでいる患者さんがおられる場合には、是非ご相談ください。

医師専門分野一覧		ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。	
医師名	職位	専門分野	外来診療日
關山 裕詩	病院教授	神経障害性の痛みとかゆみ 運動器疼痛、がん性疼痛 インターベンショナル痛み治療	初診・再診 月・水
柿沼 玲史	病院教授	ペインクリニック 麻酔学	初診・再診 月
杉本 真理子	講師	臨床麻酔・ペインクリニック 術後疼痛管理・漢方治療	初診・再診 火・金
仲本 博史	助教	ペインクリニック 麻酔学	初診・再診 木
長尾 瞳	助教	ペインクリニック 麻酔学・周産期麻酔	初診・再診 水
齋藤 彩香	助教	ペインクリニック 麻酔学	初診・再診 金
岡本 善基	助手	ペインクリニック 麻酔学	初診・再診 月
田村 奈保子	非常勤助手	ペインクリニック 麻酔学、東洋医学	初診・再診 木
川上 桃子	非常勤助手	ペインクリニック 麻酔学	初診・再診 月
名城 れい子	非常勤助手	ペインクリニック 麻酔学	初診・再診 火

(土曜日は再診のみ、担当医は輪番制)



外来受付 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30326
再診予約・変更電話 TEL:03-3964-1452 受付時間(月～金) 13:00～17:00

医療連携室

初診予約専用 初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498

電話予約時間(平日) 8:30～17:00 (土曜日) 8:30～12:30



診療科長

小室 裕造

外来医長

山岡 尚世

病棟医長

堂後 京子

医局長

福場 美千子

専門外来

先天異常外来

口唇裂や口蓋裂、頭蓋縫合早期癒合症、副耳、耳瘻孔、埋没耳、小耳症、臍ヘルニア(でべそ)、多合指(趾)症など、主として頭蓋顔面、体幹、手足の先天異常が対象となります。

乳房再建外来

乳癌手術後の乳房再建だけでなく、乳癌手術との同時再建や乳癌手術前に乳房再建についてのセカンドオピニオンも受け付けています。

リンパ浮腫外来

原発性および続発性(二次性)リンパ浮腫に対して、リンパ浮腫の診断、評価を行った上で、病態に合わせた指導と治療を行います。リンパ管静脈吻合術(LVA)も行っています。

眼瞼下垂外来

先天性および後天性の眼瞼下垂の治療を行っております。

美容外科外来

さまざまな美容医療に取り組んでいます。内容は、傷跡の修正、シミとり、目元のクマ・たるみの改善、しわ取り(フェイスリフト)、鼻の修正、顎前突などの顎変形、エラや頬骨の輪郭手術、などです。

顔面神経麻痺外来

残存してしまった顔面神経麻痺による様々な顔面の変形や機能障害を手術で治療します。瞼が閉じられなくなった兔眼、眉毛の下垂、動かない頬の再建などを行い日常生活へ復帰するお手伝いをさせていただきます。マイクロサージャリーを用いた再建手術も行っています。



診療内容・特色

形成外科では、頭から足先まで身体表面全体にわたり、先天異常や外傷、腫瘍など、幅広い分野の疾患を扱います。帝京大学形成外科も体表に関するあらゆる疾患を扱っていますが、なかでも顔面骨折症例(約120件)や乳房再建症例(約70例)の多いことが特徴です。また最近では眼瞼下垂の手術が急増しており先天性を含め約80例の手術を行っています。

その他、先天異常では唇顎口蓋裂や多合指(趾)症など、腫瘍では皮膚・軟部悪性腫瘍切除および切除後再建などが主たるものです。

また、特殊な疾患としてクルーズン症候群やアペール症候群などの頭蓋縫合早期癒合症や顎変形症などの骨切り手術や顔面神経麻痺の手術にも積極的に取り組んでいます。

もちろん、手術は全身麻酔に限らず、粉瘤をはじめとする各種小腫瘍の切除や軽度の外傷は外来で局所麻酔下にて行っています。また、内科と共同で行う虚血肢の潰瘍や壊疽、糖尿病足の治療、褥瘡の治療にも力を入れています。

医師専門分野一覧

ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。

医師名	職位	専門分野	外来診療日
小室 裕造	科長 主任教授	眼瞼下垂など瞼の手術 頭蓋顎顔面外科 唇裂口蓋裂・美容外科	形成外科 火 午前・午後
大河内 真之	病院教授	形成外科一般・再建外科 顔面神経麻痺	形成外科 月 午前・午後
堂後 京子	病院准教授	形成外科一般・乳房再建 リンパ浮腫・難治性潰瘍	形成外科 木 午前・午後
山岡 尚世	講師	四肢の先天異常 リンパ浮腫 形成外科一般	形成外科 金 午前・午後
福場 美千子	助教	形成外科一般・顔面骨折 難治性潰瘍	形成外科 水 午前・午後
藤井 麻紀	助手	形成外科一般・乳房再建	形成外科 月・木 午前・午後
福山 漱辰	臨床助手	形成外科一般・顎顔面外科 顔面外傷・鼻の変形	形成外科 月 午前・午後
江口 智明	非常勤講師	唇裂・口蓋裂	先天異常 金(要確認) 午後
石井 秀典	非常勤講師	形成外科一般・美容外科	形成外科 木(要確認) 午前
青井 則之	非常勤講師	形成外科一般・美容外科	形成外科 水(要確認) 午後
加納 麻由子	非常勤医師	形成外科一般	形成外科 水 午前
上原 恵理	非常勤医師	形成外科一般・乳房再建	乳房再建 火 午後
山本 崇弘	非常勤医師	形成外科一般・顎顔面外科	形成外科 火(要確認) 午前

外来受付

TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30312

再診予約・変更電話 TEL:03-3964-8260 受付時間(月~金) 13:00~17:00

医療連携室

初診予約専用 初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498

電話予約時間(平日) 8:30~17:00 (土曜日) 8:30~12:30



診療科長
大金 寛
外来医長
佐竹 杏奈
病棟医長
平田 亮介

専門外来

腫瘍外来

顎口腔領域の良性・悪性腫瘍の診査、診断、手術および手術後の経過観察を行います。
口腔がんに対しては、院内の各診療科と密な連携を取り、手術療法、放射線治療、化学療法の集学的治療を行っています。

顎変形症外来

下顎前突症、下顎後退症、上顎前突症、上顎後退症、開咬症、顔面非対称症などの咬合不正や顎顔面の変形に対して、機能的、審美的回復を目的に骨切り術を用いて外科的治療を行っています。

矯正外来

歯列不正に対し、全顎的または部分的な歯の移動により機能的、審美的な回復を図ります。
診察ご希望の方は必ず事前にご予約をお取りください。
(第4木曜日のみ)

睡眠外来

睡眠時無呼吸症候群と診断された方の口腔内装置などの歯科的介入を行っています。

対象となる主な疾患

歯の疾患	親知らずの抜歯、難易度の高い抜歯
口腔腫瘍・口腔がん	口腔領域に発生する良性ならびに悪性腫瘍
顎変形症	上下顎前突症、顔面非対称など
外傷	顎骨骨折、歯の外傷、口腔顎顔面の軟組織の損傷など
感染症・炎症	口腔顎顔面領域の重症感染症
嚢胞	顎骨や口腔軟組織に発生する嚢胞
口腔粘膜疾患	白板症、扁平苔癬、難治性口内炎、口腔乾燥症など
唾液腺疾患	唾石、粘液嚢胞、唾液腺腫瘍など
顎関節症	
睡眠時無呼吸症候群	

診療内容・特色

当科は、病院内の各科や地域の医療機関と連携して診療を行っております。

歯科医院では治療が困難な親知らずの抜歯、難治性口腔粘膜疾患、骨折などの外傷、顎骨病変、腫瘍性病変などの診断から治療までを専門性を持った医局員が外科的治療を中心に診療に取り組んでいます。

一般歯科治療（むし歯、入れ歯等）については、地域歯科医師会、関連歯科医院をご紹介させていただいております。

医師専門分野一覧
ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。
予約なしの紹介の場合には、被紹介医以外の担当となる場合があります。

医師名	職位	専門分野	外来診療日
大金 寛	科長 准教授	口腔外科全般 口腔がん	一般外来 月・水・木 土 腫瘍外来 月 午前・午後 午前 午後
佐竹 杏奈	助教	口腔外科全般	一般外来 月・火・木 土 午前・午後 午前
平田 亮介	助教	口腔外科全般	一般外来 月・火・水 土 午前・午後 午前
吉田 成緒	臨床助手	口腔外科全般	一般外来 月・火・水 土 午前・午後 午前
豊田 智章	臨床助手	口腔外科全般	一般外来 月・水・木 土 午前・午後 午前
中野 優	シニアレジデント	口腔外科全般	一般外来 月・火・木 土 午前・午後 午前
渡辺 那奈	シニアレジデント	口腔外科全般	一般外来 月・水・木 土 午前・午後 午前
市場 光雅	シニアレジデント	口腔外科全般	一般外来 月・水・木 土 午前・午後 午前
片田 英憲	非常勤講師	矯正歯科	矯正外来 木(第4週) 午後
有坂 岳大	非常勤講師	口腔外科全般 顎変形症	
兼古 晃輔	非常勤講師	口腔外科全般	一般外来 金 午前
田邊 陽子	非常勤講師	口腔外科全般 口腔腫瘍	一般外来 土(要確認) 午前
廣瀬 聡	非常勤講師	インプラント	インプラント外来 水(第3週) 午後

外来受付 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30348
再診予約・変更電話 TEL:03-3964-8613 受付時間(月~金) 13:00~17:00

医療連携室 TEL:03-3964-1498 電話予約時間(平日) 8:30~17:00 (土曜日) 8:30~12:30
初診予約専用 初診で紹介状をお持ちの方



診療科長
佐川 俊世
医局長
立澤 直子

ご挨拶

2022年4月から新たに設立された総合診療科を担当することになりました。どうぞよろしくお願いたします。2022年3月までは救急医学講座に所属し2009年に新病院とともにERセンターが開設されセンター長として年間約6,000台の救急車や多くの外来患者さんの初期医療に携わってきました。その間にも医療の細分化、高齢化社会、さらには2019年の新型コロナウイルス感染症パンデミックなど私たちを取り巻く社会・医療環境は劇的に変化しています。約14年間の総合診療ERセンター勤務では直接、救急医療や地域医療の声や状況を見聞させていただきました。今までの経験を通して今後は総合的な診療を担う医師のさらなる重要性を認識しています。総合診療科は多くの医療機関に存在していますが科の方針や特色は様々です。当科は地域の医療機関、診療所の方々と共に帝京大学病院の特色を活かした科にしたいと考えております。今まで培ってきた臨床経験を活かして皆様とともに地域医療に貢献できる総合診療科を作り上げていきたいと考えておりますのでよろしくお願いたします。

診療内容・特色

総合診療科は、1. 診断のつかない身体症状でお困りの患者さん、2. いくつもの医学的問題のためこれからどうしてよいかわからない、3. どの科を受診したらよいかわからない患者さんに対して外来で診察させていただきます。毎週月曜日の午前に予約診察をしていますので医療連携室に連絡していただき予約をお願いします。現在、外来診療のみで入院患者さんは受け持っていないため、入院加療が必要であれば主要な問題に対応する診療科での入院となります。帝京大学病院総合診療科は臨床において総合診療医 (General practitioner/ Family doctor) として地域のプライマリ・ケアを担う役割と病院総合診療 (Hospitalist) として病院診療を担う2つの役割があると考えています。さらに重要で大切なのは総合診療医の育成です。総合診療科は2018年から開始された新専門医制度で19番目の基本診療科に位置付けられました。当院では初年度より総合診療専門医専攻プログラムを作成し総合診療医の育成をしています。総合診療やプライマリ・ケアに興味のある学生や研修医はいますので、医学部学生の地域医療実習含めより良い総合診療医育成のため学生教育にも力を入れていきたいと考えています。

医師専門分野一覧

医師名	職位	専門分野
佐川 俊世	科長 教授	総合診療・救急医学・内科学・循環器内科学
立澤 直子	助教	総合診療・救急医学・内科学(消化器内科)

医療連携室

初診予約専用 初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498

電話予約時間(平日) 8:30~17:00 (土曜日) 8:30~12:30

セカンドオピニオン外来

最新情報はこちら



診療内容・特色

当院以外の医療機関におかかりの患者さん(入院中またはそのご家族)を対象としています。現在、治療を受けている病気に対しての診断内容や治療法に関して、患者さんからのお話や主治医の先生からの資料等をもとに当院の専門医が意見を提供いたします。その意見を患者さんがご自身の治療を受ける上での参考にしていただくことを目的としています。

相談時間および料金

- (i) 自由診療で行われます。健康保険は使えません。
- (ii) 相談時間は原則30分、最長50分とさせていただきます。
- (iii) 料金は30分以内16,500円(税込)となります。
*30分を超えた場合は10分毎に2,200円(税込)をお支払いいただきます。

相談の対象となる方

診療情報提供書(主治医からの文書)を持参できる方(相談日決定のため、事前に送付いただきます)。ご本人の相談を原則とします。やむを得ない場合は、同意書をご用意いただければご家族だけでも相談は可能です。患者さんが未成年の場合には、続柄を確認できる書類(健康保険証等)が必要になります。

お申し込みをお受けできない場合

- 診療情報提供書等、主治医からの文書がない場合
- 主治医に対する不満、医療過誤及び裁判のための相談
- 医療費の内容、医療給付に関わる相談
- 死亡した患者さんを対象とする場合
- 相談内容が当院の専門外である場合
- 資料が乏しく相談が困難な場合
上記以外にも相談の内容により、ご相談をお断りすることもあります。



診療科長
笹島 ゆう子

おもな診療内容

病理診断科では、年間約20,000件の病理診断業務(組織診断約9,000件、細胞診断約11,000件)を行うとともに、カンファレンス(症例検討会)等を通じて院内の各診療グループとも密接な連携を取り、医療チームの一員として患者さん一人ひとりの治療方針の決定に寄与する情報を提供しています。

各病理医はそれぞれ専門領域を持ち、最新の知見を加味した正確な診断を行うとともに、必要に応じて外部コンサルテーションシステム(日本病理学会、国立がん研究センターなどで組織される、難解症例のためのセカンドオピニオンシステム)を利用しながら、診断レベルの向上を目指しています。
診断業務を通じて得られた新たな病理学的知見は、関連学会や専門誌に発表することで広く院外にも発信し、医療の進歩に貢献し続けています。



診療内容・特色

病気の適切な治療のためには、病気の正確な診断が不可欠です。病気を持つ患者さんの体から採取された臓器(例えば胃癌患者さんの胃など)や組織・細胞を、肉眼あるいは顕微鏡で観察し、この病気が何であるか、どのくらい進行しているかなどの判定を下すことを病理診断といいます。病理診断は、患者さんの治療方針を決める重要な行為であることから、医師が行う「医行為」であることが明確に定義されており、医師でなければ行うことはできません。病理診断を専門とする医師(病理医)は、患者さんに直接お会いすることはありませんが、患者さんの病変(病気の起きている場所)から採取された組織や細胞から作製した顕微鏡標本(プレパラート)を観察し、その細胞の配列や形態をもとに病理診断を行います。主治医は、病理医によって報告される病理診断結果を受け取って初めて適切な治療を開始できるのです。

当院においては2012年12月より病理診断科を標榜し、診療科の一つとして病理診断業務を行うことで日常診療に貢献しています。

医師専門分野一覧

医師名	職位	専門分野
笹島 ゆう子	科長 教授	人体病理全般 婦人科・乳腺・皮膚の病理
斉藤 光次	病院教授	人体病理全般 肝・胆・膵の病理
石田 毅	助教	人体病理全般
羽賀 敏博	助教	人体病理全般 消化器の病理
大島 康利	臨床助手	人体病理全般 腎の病理
藤倉 睦生	臨床助手	人体病理全般(研修中)
水見 敦	シニアレジデント	人体病理全般(研修中)
宇崎 宏	病理学講座 主任教授	人体病理全般 消化器の病理
菊地 良直	病理学講座 准教授	人体病理全般 骨軟部・口腔領域の病理
沼倉 里枝	病理学講座 講師	人体病理全般 消化管の病理
安井 万里子	病理学講座 助教	人体病理全般
土谷 麻衣子	病理学講座 助教	人体病理学 口腔病理学
望月 眞	医療技術学部 教授	人体病理全般 呼吸器・腎・肝・リンパ節の病理

細胞診断



粘液、痰、胸水、腹水、尿など
(臓器から剥がれた細胞が
混じっています。)

プレパラートに塗付



顕微鏡で観察



染色



術中迅速診断



手術室から
臓器や組織が
運ばれます。



臨床検査技師が迅速に
顕微鏡標本を作ります。

手術室に結果を
報告します。



病理医が顕微鏡で
病理診断を行います。

不妊カウンセリング外来

最新情報はこちら



診療内容・特色

不妊に悩んでいらっしゃるカップルの様々なご希望に沿って、必要な検査や治療についてご案内します。患者さんの状況によっては手術をお勧めする場合がございます。また不妊のみならず癌治療による妊孕性(妊娠するための力)への影響や治療法、不育症についてのご相談などについて完全予約制によりご説明いたします。

医師専門分野一覧

ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。

診療科	医師名	職位	専門分野	外来診療日
産婦人科	長阪 一憲	主任教授	産婦人科学 腹腔鏡・子宮鏡	水 午前・午後 (セカンドオペオン外来枠)
産婦人科	平野 菜来	講師	不妊・内分泌 女性ヘルスケア 腹腔鏡・子宮鏡	月 午前 (不妊内分泌外来初診)

禁煙外来

最新情報はこちら



診療内容・特色

当院では2010年4月から禁煙外来を開設しており、医師・看護師・薬剤師がチームとなって積極的に禁煙に取り組んでいます。禁煙をしたいけれどもなかなかふみきれないとお悩みの方、お手伝いさせていただきますので、ぜひご相談ください。禁煙成功実績 235名

医師専門分野一覧

ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。

診療科	医師名	職位	専門分野	外来診療日
内科	長瀬 洋之	教授	呼吸器・アレルギー 禁煙治療	月(交代制) 午後
内科	小林 このみ	助手	呼吸器・アレルギー	月(交代制) 午後

◎禁煙外来(2F内科外来)

診療日:毎週月曜日 14:00~16:00[要予約]

- 日本禁煙学会認定専門指導医
内科学講座 教授 長瀬 洋之
- 日本禁煙学会認定指導医
内科学講座 助手 小林 このみ
- 同認定指導看護師 早川 ひろみ
- 同認定指導薬剤師 石原 美鈴

主な診療内容

- ・喫煙状況とニコチン依存度の調査
- ・呼気中一酸化炭素濃度測定
- ・禁煙アドバイス
- ・禁煙補助薬の処方

禁煙補助薬(チャンピックス[®]、ニコチンパッチ[®])は、医師の処方箋が必要です。

※2023年4月現在、チャンピックス[®]は
出荷停止中のため、処方できません。

費用:主に保険診療を行っています。

次の4つの条件を満たす方は、健康保険が適用されます。なお、過去1年以内に保険による禁煙治療を受けている場合は、下記条件に関わらず自費となります。

- ①ニコチン依存症に係るスクリーニングテストでニコチン依存症と診断されていること。
- ②1日喫煙本数×喫煙年数(プリンクマン指数)が200以上であること。(ただし35歳未満は指数に関わらず治療可能。未成年者も可。)
- ③ただちに、禁煙したいと考えていること。
- ④禁煙治療を受けることを、文書により同意していること。

例 健康保険の適用の場合(3割負担)約22,000円(診察料、呼吸機能検査、処方箋代、薬剤料など。)

- ・患者さんの基礎疾患や投薬の状況などにより、別に検査が必要となる場合があります。
- ・他院で治療や投薬を受けている方は、紹介状をお持ちいただくようお願いします。
- ・当院で治療中の方は、事前に主治医にご相談ください。メンタルヘルス科に受診中の方は主治医から依頼していただくようお願いします。

ゲノム診療外来

最新情報はこちら



診療内容・特色

- がんの遺伝や遺伝子に関するご相談について、医師・看護師・認定遺伝カウンセラーが十分なカウンセリングを行い、医療面と心理社会面から患者さん・ご家族のサポートを行います。
- がんの遺伝形式や遺伝素因による発症の可能性について、疾患に関する最新情報を踏まえて情報提供し、また必要に応じて遺伝学的検査(遺伝子検査など)の可能性について情報提供しながら、患者さんやご家族が抱えるさまざまな不安、悩みに寄り添い、問題点を整理するなどして対処の方法を一緒に考えていきます。
- 遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)と診断された方に対して、希望される方には乳房や卵管卵巣に対する予防的切除を行っています。これらのリスク低減手術を行わない場合は定期的なフォローアップを外来にて行っています。

医師専門分野一覧

ご紹介時には下記の一覧表をご参照の上、お電話で予約をお取りください。

診療科	医師名	職位	専門分野	外来診療日
産婦人科	長阪 一憲	主任教授	婦人科腫瘍学・内視鏡下手術 遺伝性腫瘍・家族性腫瘍	水 午前
外科	神野 浩光	教授	乳腺外科・外科腫瘍学	月 午後
内科	渡邊 清高	病院教授	臨床腫瘍学・がんゲノム医療 消化器病学	木 午後
内科	市川 靖子	講師	臨床腫瘍学・がんゲノム医療 呼吸器病学	火 午後
産婦人科	西田 晴香	講師	婦人科腫瘍学・内視鏡下手術 がんゲノム医療	水 午後
産婦人科	一瀬 隆行	講師	婦人科腫瘍学・内視鏡下手術 がんゲノム医療	火 午後

受診方法

外来受診をご希望の方

当院または他院を受診している方、地域医療機関にかかりつけの方を対象としています。「ゲノム診療外来」の受診希望をお伝えいただき、各診療科(腫瘍内科、乳腺外科、産婦人科など)の外来を予約してください。

遺伝カウンセリング外来

最新情報はこちら



診療内容・特色

当院では、遺伝性腫瘍、オスラー病(遺伝性出血性末梢血管拡張症)、出生前検査等に関する遺伝カウンセリングに積極的に取り組んでいます。認定遺伝カウンセラー、乳腺外科医、産婦人科医、小児科医、腫瘍内科医、放射線科医、助産師などの複数診療科の専門職がチームとなりフォローアップを実施しています。遺伝カウンセリングでは認定遺伝カウンセラーが家族歴や病歴について詳しく伺い、染色体検査や遺伝子検査を受けるかどうかも含め、正確かつ最新の医学的情報をわかりやすくお伝えし、かつ心理社会的サポートを通して十分にご理解をいただいた上で納得できる選択や行動ができるように支援しています。

診療の対象となる方

●遺伝性腫瘍

遺伝性乳がん・遺伝性卵巣がん症候群(HBOC)や家族性大腸腺腫症(FAP)リンチ症候群などのがんになりやすい体質がある遺伝性腫瘍が疑われる方や遺伝に関する不安や疑問のある方には、主治医が遺伝カウンセリングの受診をお勧めしています。

●オスラー病(遺伝性出血性末梢血管拡張症)

オスラー病は鼻出血、毛細血管拡張、動静脈奇形を症状とする遺伝性疾患の一つです。臨床診断基準に複数当てはまる場合にはオスラー病の可能性がります。当院放射線科の診察を受けていただき、必要に応じて後日遺伝カウンセリングを行います。

●出生前カウンセリング

当院では、出生前検査を希望される妊婦さんには、事前に出生前カウンセリングを受けていただくことが必須となっています。

出生前カウンセリングでは、遺伝学的内容や検査の詳細、検査前に知っておいていただきたいことについて臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラーがお話いたします。検査を受けることを否定、推奨することなく、お二人のお気持ちに寄り添いながら意思決定に向けて支援します。

遺伝カウンセリング外来の日時・費用

外来日時

月曜13:30~17:00

(完全予約制、外来日は下記にお問い合わせください)

費用

初診8,800円(税込) 再診5,500円(税込)

(遺伝カウンセリングや遺伝子検査は保険適用外の
自費診療になっています)

医師専門分野一覧

診療科	医師名	職位	専門分野
産婦人科	長阪 一憲	主任教授	婦人科腫瘍学・内視鏡下手術 遺伝性腫瘍・家族性腫瘍
外科	神野 浩光	教授	乳腺外科・外科腫瘍学
放射線科	近藤 浩史	教授	放射線診断・IVR
産婦人科	木戸 浩一郎	病院教授	周産期医学
内科	渡邊 清高	病院教授	臨床腫瘍学・がんゲノム医療 消化器病学
外科	池田 達彦	講師	内分泌外科・乳腺外科
産婦人科	紀平 力	講師	周産期医学 産科婦人科 臨床遺伝診療
産婦人科	西田 晴香	講師	婦人科腫瘍学・内視鏡下手術 がんゲノム医療
産婦人科	一瀬 隆行	講師	婦人科腫瘍学・内視鏡下手術 がんゲノム医療

受診方法

当院に通院中の方

各診療科にて「遺伝カウンセリングを希望する」旨お申し出ください。主治医が遺伝カウンセリングを予約し、日時をお伝えいたします。

当院への受診歴があるが現在通院されていない方

当院を受診いただき、「遺伝カウンセリングを希望する」旨を各診療科にてお申し出ください。

当院の受診歴がない方

一度当院を受診いただき、「遺伝カウンセリングを希望する」旨を各診療科にてお申し出ください。かかりつけ医療機関経由でFAXによる申し込みも可能です。

来院時にご用意いただくもの

- ・血縁者の病気に関する詳しい情報(何歳でどのような病気と診断されたなど、できれば祖父母、両親、きょうだい、おじ・おば、おい・めい、孫、いとこまで)
- ・ご相談内容に関する検査を受けたことがある方は、その結果をご持参ください。

ご予約について

遺伝カウンセリング外来の予約方法は55ページをご参照ください。

お問い合わせ:医療連携室 初診予約専用 TEL:03-3964-1498 受付時間(月~金) 9:00~16:30



総合周産期母子医療センター

最新情報はこちら

周産期領域での救急・重症管理、治療に対応できる施設として、平成10年4月に東京都から指定された総合周産期母子医療センターのひとつです(総合周産期母子医療センター数=23区:12施設、多摩地区:2施設)(東京都周産期センター配置図参照)。当院の管轄地区である区東北部ブロック(荒川、足立、葛飾)や近隣の区西北部ブロック(板橋、北、豊島、練馬)から多くの母体、新生児搬送を受け入れています。

当センターには母体・胎児集中治療室(MFICU)を10床と新生児集中治療室(NICU)を12床、新生児回復期治療室(GCU)を24床備えており、地域の医療機関と連携を図り、周産期に係る高度な医療を行うことをめざしています。

出産においては250件に1件の頻度で危険を伴うとされていますが、出産年齢の高齢化などによりハイリスクの妊娠・出産は、ますます増加傾向にあります。

切迫早産や前期破水、妊娠高血圧症候群などの妊婦さんは、周産期センターで厳重な管理を行い、安全と判断できる場合にはできるだけ待機し、母児に負担がかかり始めていると判断される場合には早めに、より元気な状態で出産させることが必要です。その一方で、正常分娩においては自然で快適な分娩が求められています。

当センターでは正常分娩はLDRにおいて快適性を追求し、予期せぬ危険が突発した際には周産期センターとして安全性を追及する、という理想を実現すべく、24時間態勢で臨んでいます。

●セミオープンシステムと無痛分娩の導入

2023年8月より「セミオープンシステム」を正式に導入しました。セミオープンシステムとは、地域の連携病院(クリニックや診療所)と連携し、妊婦健診は自宅や職場近くの通いやすい連携病院で、分娩は当院で、といった形を提供することで、妊婦さんが安心して出産できるようにするものです。

さらに2022年7月より無痛分娩を始めました。産科麻酔を専門とする麻酔科医が中心となり、産科医師、新生児科医師、助産師が協働して、安心かつ安全な無痛分娩を提供してまいります。

主な対象疾患

母体管理を要する疾患

妊娠高血圧症候群・前置胎盤・常位胎盤早期剥離・母体合併症妊娠・その他ハイリスク妊娠・産後出血・ショック

胎児・新生児管理を要する疾患

切迫早産・前期破水・胎児発育不全・多胎妊娠・双胎間輸血症候群・血液型不適合妊娠・羊水過多・羊水過少・胎児機能不全・新生児内科疾患(超低出生体重児、新生児呼吸障害、重症新生児仮死、新生児黄疸、未熟児網膜症など)・新生児外科疾患(先天性消化管閉鎖症、先天性横隔膜ヘルニア、鎖肛、腸回転異常症、臍帯ヘルニアなど)



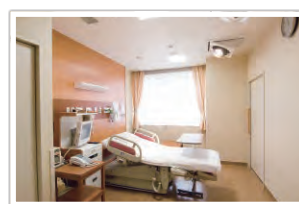
新生児集中治療室(NICU)



分娩室

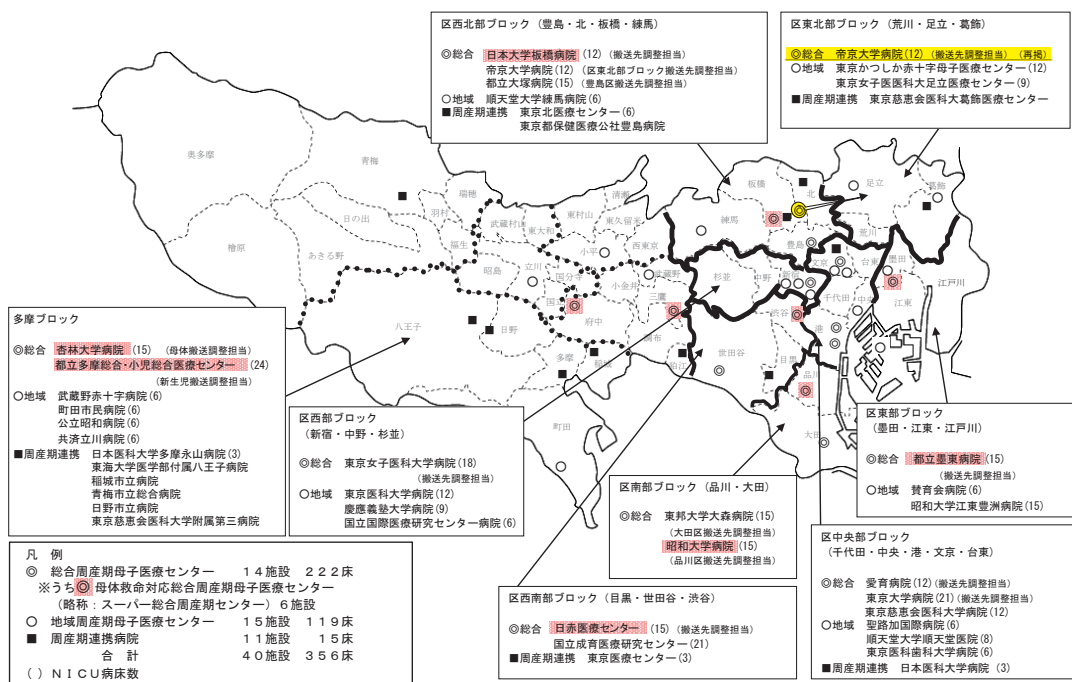


母体・胎児集中治療室(MFICU)



LDR

東京都周産期母子医療センター及び周産期連携病院の配置図(令和4年4月1日)





診療内容・特色

慢性維持透析を受けている患者さんは全国で約34万9千人となっており、現在も1年に4万人以上の方が新たに透析導入となっています。平均の開始年齢は69.7歳と高齢であり、原因のトップが糖尿病腎症であることを反映して、虚血性心疾患、脳血管障害、末梢血管障害、感染症、骨折、眼障害、悪性腫瘍、認知症などさまざまな合併症を有している患者さんが増えています。

さらに、透析予備軍と考えられる慢性腎臓病（CKD）の患者数は1,330万人と試算され、成人の8人に1人と高頻度です。透析導入前の腎機能がまだ中等度に保たれている時期にいかに残存腎機能を温存するかが極めて重要になります。そのため当院の腎臓内科では多職種と連携して危険因子に対する集中的な介入を行っています。塩分制限、蛋白制限、リン制限、飲水管理などの生活習慣と自己管理が非常に重要ですので、栄養部とも協調しながら診療しております。

平時には、年に4回の帝京CKD教室を開催しています。当院の患者さんだけでなくお知り合いの方々も多く参加され、貴重な質問も受けています。CKDの診療につきましては地元医師会とも医療連携を構築しており「2人の主治医」を実践しています。このような積み重ねの結果として透析導入が少しでも先延ばしできることを目指しています。

当センターでは外来通院の患者さんはもちろんのこと、入院中の患者さんについても各診療科との連携を積極的に行い、慢性腎不全に対する透析導入、入院患者さんの維持透析、急性腎不全に対する緊急透析のほか、潰瘍性大腸炎に対する白血球吸着療法、難治性ネフローゼ症候群・家族性高脂血症・閉塞性動脈硬化症・種々の神経疾患群への血漿交換や血漿吸着についても行っています。さらに集中治療室の重症患者さんにおけるエンドトキシン吸着や持続的血液濾過透析、劇症肝炎に対する血漿交換療法など、体外循環による血液浄化療法全般に携わっております。このように血液浄化療法の可能性が広がっており、今後ますますその需要が高まることが予測されます。腎センターでの治療中は、安全で安心して過ごせる時間と空間になるようにスタッフ一同努めています。

当センターの最近の特徴としては最適な治療を提供できるように、末期腎不全腎代替療法選択支援を積極的に行っています。血液透析の前段階として腹膜透析を積極的に導入しており、患者さんのQOL（生活の質）を考慮した治療を行うようにしています。腹膜透析と週1回の血液透析を組み合わせたハイブリッド治療にも取り組んでいます。また、血液透析を行う上でシャントの狭窄や閉塞は重大な問題です。当センターでは、超音波ガイド下でのカテーテルを用いたバルーン拡張術行っており、造影剤を使うことなく、また再手術することなく回復する患者さんが増えています。シャント造設手術あるいはカテーテルによる血管内治療についても他科と連携をとって行っております。最近注目されています腎臓リハビリテーションおよび多発性のう胞腎に対する治療の取り組みも実施しています。

このように腎センターでは、血液透析に限らず幅広く血液浄化療法を行い、さまざまな活動を行っていますので、何かご相談がありましたら、遠慮なくご連絡ください。



腎センター内



腎センタースタッフ

◎血液透析外来

診療日:月曜日～土曜日 午前9時～午後5時

◎腹膜透析外来

診療日:月曜日～金曜日 午後1時～4時

【診療内容】

血液透析
血液濾過透析（オンライン・オフライン）
血漿交換療法
血漿吸着療法（LDL吸着療法）
血液吸着療法（白血球吸着療法・エンドトキシン吸着療法）
腹膜透析
超音波ガイド経皮的シャント血管形成術
体液区分測定（InBody）
腎臓リハビリテーション



循環器センター

最新情報はこちら

循環器センターは心筋梗塞や狭心症、弁膜症、心不全、不整脈、大動脈疾患などの循環器疾患を取り扱う専門病棟で、最新鋭のモニター設備を備えた集中治療室(12床)と後方病棟(26床)の2つの隣接する病棟から成り立っています。

また当院は東京都CCUネットワークに属し、循環器センターの廊下を挟んだ向かい側には幅広い検査や治療に対応できる心臓血管造影室があり、心臓カテーテル検査、治療(令和4年度 冠動脈形成術405件、末梢動脈形成術64件)、不整脈治療(アブレーション70件)が行われます。また急性大動脈スーパーネットワークにも属しており、都内13施設ある緊急大動脈重点病院のうちのひとつであり、大動脈疾患の緊急治療を行っております。

同フロアに手術室が配置されているため、心臓や大血管の外科手術時にも迅速に対応できます。手術室内にあるハイブリッド手術室では、手術室としてだけでなく血管造影室の機能を兼ね備え、最先端の低侵襲治療を行っております(令和4年度 年間TAVI 208件、マイトラクリップ40件、ペースメーカー/除細動器106件)。重症心不全に対する機械的補助循環も行っております。新しい経皮的心肺補助装置であるインペラは令和4年度は16件施行しました。循環器内科と心臓血管外科の医師が協力して最先端の医療を提供しています。



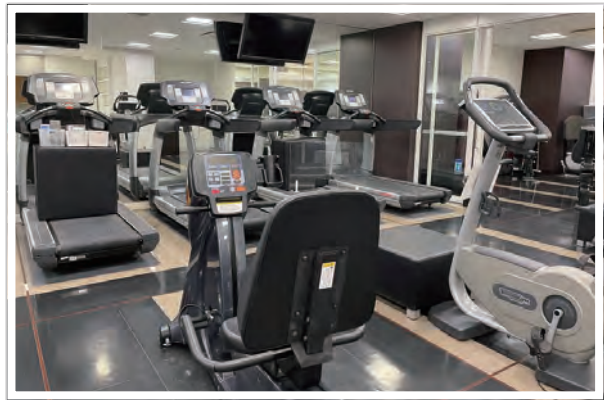
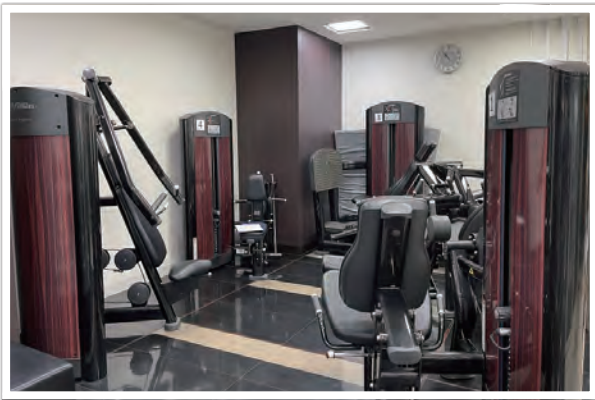
循環器センター内



血管造影検査室



～血管内治療をより安全・確実に～
手術室と血管造影検査室を融合させたハイブリッド手術室



心臓リハビリテーションは、心不全の患者さんをはじめとして、心筋梗塞や狭心症、弁膜症、大動脈疾患（大動脈瘤など）、末梢動脈疾患や心臓外科手術後の患者さんの心肺機能を高め、生活の質を改善させることを目的として行われます。当センターには有酸素運動機器や筋力トレーニング機器が設置してあり、患者さんは医師の運動処方の下、個々の心機能や体力に合わせた運動プログラムを実施します。これらの器械を用いた運動の他に、理学療法士によるストレッチ運動やバランスボールなどを使用した運動療法も行い、患者さん同士のコミュニケーションの場を提供します。また、看護師による日常生活のカウンセリングの他、管理栄養士による栄養相談や薬剤師によるお薬の内服相談を受けていただくこともあります。

心臓リハビリテーションセンターでは、心臓病に悩む患者さんの健康的な生活を取り戻すために私どもスタッフがお手伝いします。心臓リハビリテーションに関するご質問やご相談は当センターあるいは循環器内科のスタッフにお気軽にお声を掛けて下さい。



プログラムスケジュール

	月	火	水	木	金	土
9:30~10:30	○	○	○	○	○	○
14:00~15:00	○	○	○	○	○	×

お問い合わせ先 **TEL:03-3964-1211** (代) 内線:**30368** 受付時間(月~金) 9:00~16:30

帝京大学医学部附属病院 脳卒中センターは、平成29年1月の開設以来、地域における包括的脳卒中診療の中心的役割を担えることを願って尽力してきました。脳卒中急性期の患者さんには、大型病院ならではの豊富なリソースを注力した治療を提供しています。急性期には、脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血だけでなく、脳卒中に類似する様々な病態に対して適切な診断や治療が求められます。そのために、当センターでは、全ての救急患者さんを、各科が別々に診療するのではなく、救急科・脳神経内科・脳神経外科の医師が集合して診療しており、知恵を出し合ったり、同時並行して処置を担当する事でスピーディな診断と治療を可能にしています。

当センターでは、リハビリテーションや再発予防への取り組みは急性期から開始しています。リハビリテーション科、脳卒中リハビリテーション認定看護師、脳卒中療養相談士が中心となり、患者さんができるだけ早く社会に復帰出来るように多面的なアプローチをしています。

脳卒中の再発予防には、高血圧や高脂血症、糖尿病、心房細動などのリスクファクターの治療が一番大切ですが、狭窄が進行した血管がある場合や、脳動脈瘤がある場合は外科治療が必要となることもあります。当院では、「低侵襲脳神経外科治療」を掲げており、血管病変の場合は主にカテーテルで手術していますが、脳卒中の外科学会技術認定医も在籍しており、あらゆる脳血管障害に対応可能です。また、ブレイン・ハートチームの連携を行っており、心房細動や心房中隔欠損が原因の脳卒中の再発を防ぐ為に様々な専門的治療も提供しています。

当センターでは、脳卒中専門医8名、脳血管内治療専門医5名、脳卒中の外科学会技術認定医1名が常勤しており、24時間365日、質の高い急性期治療を提供しています。また、5名の脳卒中療養相談士を中心とする合計12名の脳卒中相談窓口のメンバーは、様々な観点から、患者さんが脳卒中から社会に復帰するのをサポートしています。

当院では2人主治医制のコンセプトを掲げており、病状が安定しているときは近隣の先生方へ、症状の変化があればいつでも当院で受け入れられるような連携を広めていきたいと考えております。脳卒中の治療には「地域でのチーム医療」が必要です。皆様のご賛同・ご協力を賜りつつ、地域の脳卒中医療に少しでも貢献できることを願っています。

センター長 庄島 正明 副センター長 畑中 裕己

担当医師

	医師名	職位
救急診療部 高度救命救急センター・ERセンター	森村 尚登	主任教授
	三宅 康史	教授
	高橋 宏樹	講師
	吉田 昌文	講師
	西 竜一	講師
	神田 潤	講師
	大貫 隆広	助教

	医師名	職位
脳神経外科	庄島 正明	センター長 教授
	辛 正廣	主任教授
	宇野 健志	准教授
	樋口 芙未	講師
	後藤 芳明	講師
	大山 裕太	助教
	富岡 亜梨沙	助教
	川口 愛	助手
	平田 操	臨床助手
	井上 雄貴	臨床助手
	大本 裕次郎	臨床助手
	中村 祐基	臨床助手

	医師名	職位
脳神経内科	小林 俊輔	主任教授
	斉藤 史明	教授
	畑中 裕己	副センター長 准教授
	北國 圭一	講師
	神林 隆道	助教
	千葉 隆司	助教
	古川 裕一	臨床助手
	松倉 清司	臨床助手
	内田 雄大	臨床助手
	向井 泰司	臨床助手
	田中 園子	臨床助手
	萩原 夕紀	臨床助手
	藤井 勇基	シニアレジデント
	黒澤 豪	シニアレジデント
	井上 雅人	シニアレジデント
	近藤 あむろ	非常勤医師
和田 彩令奈	非常勤医師	

お問い合わせ先 TEL:03-3964-1211 (代) 「脳卒中センターへ」とお申しつけ下さい。



日本のIBD（炎症性腸疾患）患者数は急増し、治療の選択肢も増えています。しかし、適切な治療を行うには最新の知識と豊富な治療経験が必要です。当院では2017年6月にIBDセンターを立ち上げました。

●帝京IBDセンターの特色

最先端の内視鏡検査・治療を実施している内科と年間200症例以上の腹腔鏡手術実績を持つ外科とが密接に連携し、両分野の専門性を活かした診療に取り組んでいます。毎週木曜にはIBD専門外来を開設し、診療経験が豊富な松田（外科）・山本（内科）・磯野（内科）が中心となり、明るい雰囲気の中で診察・治療を行っています。さらに顆粒球吸着療法が行える透析室や外来の化学療法室、総合周産期母子医療センター、メンタルヘルス科など、専門性と総合性を兼ね備えた全人的な医療を提供できる環境を整えています。

●診療内容

現在は外科・内科合わせて約450名のIBD患者さんを診療しており、そのうちクローン病と潰瘍性大腸炎の比率はおおよそ1対2です。内科治療は患者さんの希望を重視し、保険適用内のあらゆる治療から選択します。消化器外科では従来からIBDの外科治療を積極的に行っており、内科治療無効例では、患者さんの術後を考慮した低侵襲な手術を実施しています。

・クローン病の治療内容

軽症～中等症であれば5-ASA、栄養療法、中等症～重症であればステロイド、抗菌薬、免疫調節薬、生物学的製剤、顆粒球吸着療法、より重症の場合は外科治療を考慮します。厚生労働省で認められたあらゆる内科治療が可能です。

・潰瘍性大腸炎の治療内容

軽症～中等症であれば5-ASA（経口、注腸）、ステロイド（経口、注腸）、顆粒球吸着療法、重症であればステロイド点滴、抗TNF- α 抗体薬を行います。ステロイド依存あるいは抵抗例に対しては、顆粒球吸着療法、生物学的製剤、免疫調節薬を用います。手術は劇症型、内科治療無効、ステロイド依存性、大腸癌等に行います。

・外科治療

個々の患者さんで個別化された最適な治療法を選択しても、内科的治療無効例では、外科的治療が必要になる時があります。私達は従来の開腹手術に加えて、より繊細な手術手技が可能になる腹腔鏡手術も積極的に導入を試みています。

●メッセージ

IBDは一生つきあっていく病気ですが、うまく付き合うことで通常の生活を送ることが可能になってきました。治療も大きく進歩しており、良い新薬が出てきています。しかし、いまだに原因不明の難治性疾患であることも事実です。私達は家庭医の先生方と協力し、患者さんが日常生活を少しでも快適に送ってもらえるようなお手伝いをしたいと考えています。

担当医師

	医師名	職位
外科	落合 大樹	センター長 教授
	松田 圭二	副センター長 病院教授 IBD専門外来
	野澤 慶次郎	准教授
	端山 軍	講師
	金子 建介	助教
	福島 慶久	助教

	医師名	職位
内科	山本 貴嗣	副センター長 教授
	阿部 浩一郎	講師
	青柳 仁	助教
	丸山 喬平	助教
	磯野 朱里	助手 IBD専門外来
	本田 卓	助手

センター受付

外科外来 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30229

内科外来 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30214

再診予約・変更電話

外科外来 TEL:03-3964-8512 受付時間(月～金) 13:00～17:00

内科外来 TEL:03-3964-8615 受付時間(月～金) 13:00～17:00

医療連携室

初診予約専用 初診で紹介状をお持ちの方

TEL:03-3964-1498

電話予約時間(平日) 8:30～17:00 (土曜日) 8:30～12:30



静脈瘤センター

最新情報はこちら

診療内容・特色

中高年の15%程度に下肢静脈瘤があるといわれています。典型的な症状としては、夕方にひどくなる足のむくみやだるさ、こむらがり、足首周囲の色素沈着、繰り返す湿疹などです。それらがさらに悪化すると難治性の潰瘍ができたり、血栓で疼痛を伴い日常生活に支障をきたすこともあります。しかし、このような症状があっても自身が静脈瘤と認識していないことが少なくありません。上記のような症状でお困りの方がいらっしゃいましたら、まずは皮膚科へご相談ください。静脈瘤の有無や程度を超音波で検査したのち、静脈瘤センターにて現状の評価とご本人に合わせた適切な治療をご提案させていただきます。2014年に保険適応された血管内高周波焼灼治療も行っており良好な結果が得られています。

担当医師

	医師名	職位
皮膚科	多田 弥生	センター長 主任教授
	田中 隆光	副センター長 講師
	鎌田 昌洋	准教授
	石川 武子	講師
	福安 厚子	助教
	深谷 早希	助手

	医師名	職位
循環器内科	上妻 謙	教授
	横山 直之	教授

	医師名	職位
心臓血管外科	下川 智樹	主任教授
	今水流 智浩	教授

外来受付 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30307 再診予約・変更電話 TEL:03-3964-8275 受付時間(月～金) 13:00～17:00

医療連携室 初診予約専用 初診で紹介状をお持ちの方 TEL:03-3964-1498 電話予約時間(平日) 8:30～17:00 (土曜日) 8:30～12:30



周術期管理センター

最新情報はこちら

診療内容・特色

周術期管理センターとは、手術前・手術当日・手術後(周術期といえます)に関わる様々な職種の医療従事者チームを取り纏める拠点となるものです。外科系医師、看護師、麻酔科医師のみならず、コンサルト先診療科、歯科口腔外科、薬剤部、栄養部、リハビリテーション部、ME部(臨床工学技士)、事務部、医療システム部などが、それぞれの専門分野を生かしつつ協調して、患者家族が周術期を乗り切るためのベストな環境を提供します。

現状では対象症例ならびに関与する部署・内容を限定しておりますが、今後拡大していく予定です。

外科系診療科を受診し手術の方針となり対象症例と判断されましたら、まずは歯科口腔外科を受診して歯のチェックを受けて頂きます。それから、いろいろな術前の検査を行った後、手術約2週間前に術前外来を受診して麻酔科医による術前評価を受けて頂きます。ここでは看護師から手術前後の流れの説明もいたします。入院するまでのこと、入院してからのことなど、分からないこと、不安なことなどありましたら、術前外来でご質問いただくか、周術期管理センターにお問い合わせください。

私たちは、皆様が安心して手術に臨み、安全に手術を受けていただき、満足して退院していただくためのサポートをいたします。

周術期管理センタースタッフ

氏名	業務内容	職位	所属
安田 篤史	センター長	医師	麻酔科
齋藤 雄一	副センター長	医師	外科
平田 亮介	スタッフ	歯科医師	歯科口腔外科
杉本 真理子	スタッフ	医師	麻酔科
仲本 博史	スタッフ	医師	麻酔科
甲山 真樹	スタッフ	看護師	看護部
渡邊 基之	スタッフ	薬剤師	薬剤部
河口 麻衣子	スタッフ	管理栄養士	栄養部
本木 菜津美	スタッフ	管理栄養士	栄養部
藤原 潤	スタッフ	理学療法士	リハビリテーション部
松浦 陽平	スタッフ	事務員	医療システム部

お問い合わせ先 TEL:03-3964-1211 (代) 内線:30375 受付時間(月～金) 9:00～16:30

「周術期管理センターへ」とお申しつけ下さい。



診療内容・特色

帝京大学医学部附属病院は、厚生労働省指定の地域がん診療連携拠点病院として年間2000人以上のがん患者さんを治療しています。帝京がんセンターは、がんの診療体制を支える縁の下の力持ちとして、以下の6部門から構成されています。

- (1) いろいろながんの患者さんが通院しながら抗がん剤治療を安心・安全・確実に受けることができる外来化学療法室や、がん患者さんやそのご家族が情報交換・情報収集をしていただける交流スペース「帝京宿場町 陽だまり」
- (2) 医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなど多職種の専門家からなる緩和ケアチーム
- (3) さまざまな患者さん・ご家族からのご相談を受ける窓口となるがん相談支援室(がん相談支援センター)
- (4) 東京都や厚生労働省などにも提出する貴重ながん治療関連資料を膨大なデータからまとめ上げるがん登録室
- (5) 高精度の放射線治療を行うがん放射線治療チーム
- (6) 最近のがん医療の進歩にいち早く対応すべく、質の高いゲノム診療・検査・遺伝カウンセリングの実施体制を整備しているがんゲノム医療支援室

また、帝京がんセンターは、従来の診療科の枠を超えた院内での横のつながり(院内連携)と、病院という枠を超えた地域の横のつながり(地域連携)を重要視することにより、専門性と安全性のより高いがん診療を患者さん・ご家族が地域の中で切れ目なく享受できるようになることを目指しています。

帝京がんセンターは、患者さんにとって高度で良質ながん治療を提供できるようになるだけでなく、地域の医療機関の皆様にとっても大切な患者さんを我々に信頼してお任せいただけるようになるために引き続き努力して参りますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

外来化学療法室

2007年7月から稼働しています。

全部で20ベッドで稼働しており、各診療科外来で指示される予約制の抗がん剤治療に関して、専門の腫瘍内科医師のもとで、専従看護師や認定薬剤師が常時勤務し、患者さんの安全性を第一に考え、リクライニングシートなどの快適な環境で抗がん剤治療を受けていただいています。

抗がん剤のメニュー自体は病院内で使用されるものがすべて事前登録制となっており、医師の誰が処方しても医師の間で治療内容のバラつきが見られないようになっています。また、抗がん剤専門の熟練した医療スタッフチームによる治療であり、幾重にも処方内容や実際の治療スケジュール、用量などに関して薬剤師、看護師、医師の各レベルで安全確認作業が入ります。治療内容によっては数時間かかる場合もありますが、快適さという面では専用設備として個人用TVなどを楽しみながら治療を受けることができます。化学療法室専属の看護師もおりますので、治療後に些細なことと思われることであっても、ご自宅などで心配なことがあれば次の外来を待つことなくお電話でご相談いただけます。繰り返しの化学療法を行う場合でも、期間の長い入院を我慢することなく、安全で快適な通院治療が受けられます。多くのがん患者さんが実際に、食欲不振や嘔気などの抗がん剤の副作用で入院するほどの問題を抱えることなく普通に通院治療を行っています。

なお、2015年からは抗リウマチ薬などの生物製剤で治療を受ける患者さんにも外来化学療法室を快適にご利用いただけるようになっています。



外来化学療法室スタッフ



快適なリクライニングシートでの治療



がん患者・家族交流スペース 「帝京宿場町 陽だまり」



当院の帝京がんセンターでは、2階エスカレーター横の外来化学療法室前に、がん患者・家族交流スペース「帝京宿場町 陽だまり」を設置しています。この交流スペースでは、がん患者さんやそのご家族の方が心の悩みや闘病体験などを語り合うことでコミュニケーションを深め情報交換をしていただける場として、また、がんに関するさまざまな情報収集を行っていただける場として、毎月定期的に専門職より無料の相談会や勉強会の開催、がんに関する書籍などの紹介を行っております。



メイク・ネイル相談会

緩和ケアチーム

当院では、がんに加えて、非がん疾患の緩和ケアに、緩和ケアチーム、緩和ケア外来などで取り組んでいることから、中央診療部門にそれらの機能を統合した緩和ケアセンターを設置しました。

帝京がんセンターと密接に連携し、がんと診断された早い時期から、苦しさの緩和をはじめとするサポートをチームで行っています。（緩和ケアセンター P.56）

がん放射線治療チーム

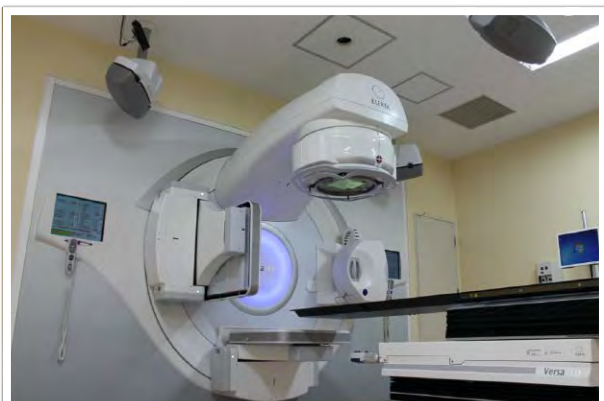
『がん放射線治療チーム』は2022年度に新設されました。外部放射線治療装置(リニアック)2台と密封小線源装置1台を活用し、年間600名を超える患者さんへ放射線治療を提供しています。リニアックでは腫瘍に高線量を投与しつつ、正常臓器の線量を低減する高精度放射線治療(Intensity Modulated Radiation Therapy: IMRTやVolumetric Modulated Arc Therapy: VMAT、Stereotactic Radiotherapy: SRT)を数多く展開しています。近年高精度治療の適応は増大の一途にあり、2022年度は約350名に対して実施しました。さらに体表面画像誘導システムを駆使して、非接触型の位置照合や照射中リアルタイム監視、深吸気息止め照射も行っています。また2023年春には、大学病院として国内初となる新型リニアック (Elekta社製Harmony) の臨床稼働を開始しました。Harmonyは洗練されたデザインで患者さんに安心を与えつつ、効率よく高精度治療を実施でき、先進的がん治療に全力で取り組む帝京大学病院にふさわしい治療装置です。

我々は地域がん診療連携拠点病院に相応しいがん診療を牽引しているという自覚を持って、手術や薬物療法等への深い理解も心がけており、数多くの臨床研究に参加しながら集学的がん治療の一翼を担っています。

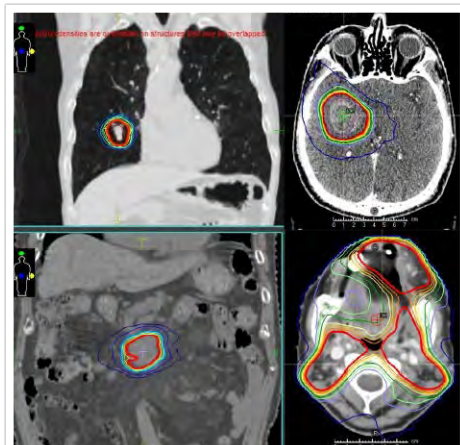
『がん放射線治療チーム』は放射線腫瘍医、医学物理士、診療放射線技師、看護師、受付事務の多職種から構成されており、いずれも患者さんへ高度な放射線治療を提供するためには欠かせません。放射線腫瘍医は、がん診療各科と協力して患者さんの病態や病勢に併せたがん放射線治療のコンセプトを決定します。医学物理士は治療コンセプトを実現するため最適な治療計画を立案・検証します。放射線治療プロセス全体の品質維持活動も担っています。診療放射線技師が治療装置を用いて照射を実施し、看護師は患者さんの初診から治療中、その後のフォローまで長期間、がん放射線治療に特化したケアを提供します。

治療内容の高度化と直結する研究推進も不可欠であり、特に画像処理や測定技術、人工知能、数理統計、腫瘍免疫といった先駆的学問体系との学際的融合に取り組んでいます。

『がん放射線治療チーム』は帝京がんセンターの目指す院内連携と地域連携を強化して、安心安全かつ高精度な放射線治療を提供していきます。



リニアック(外部放射線治療装置)



高精度放射線治療の例

がんゲノム医療支援室

当院のがんゲノム医療支援室ではゲノム・遺伝情報に基づく最適なゲノム診療・遺伝カウンセリングの提供を目指しています。近年の分子生物学、遺伝学の著しい進歩により発症メカニズムが分子レベルで解明され、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬など効果的な治療法が開発されつつあります。がんのゲノム情報に基づき、患者さんにとって最適な薬物療法の選択に必要な情報が得られるようになってきています。

がんゲノム医療に関するご相談は「ゲノム診療外来」へ

当院において、保険診療としてがん遺伝子パネル検査を受けられるようになりました。がん遺伝子パネル検査を希望する方に目的・方法・内容や検査後の流れについて詳しくご説明し、各診療科や当院と連携するがんゲノム中核拠点病院などと協働し、患者さんとご家族にとってより良い選択ができるよう取り組んでいます。

ゲノム診療外来の対象となる方

進行性・転移性のがん、難治がん、希少がんなどの患者さんとそのご家族

ゲノム診療外来の予約方法

詳細はホームページをご確認ください

医療連携室(電話:03-3964-1498)

「ゲノム診療外来」の受診希望をお伝えいただき、各診療科(腫瘍内科、乳腺外科、婦人科など)の外来予約をお取りください。

ご持参いただくもの

診療情報提供書、画像・採血データなど

遺伝カウンセリング外来予約に関するお問い合わせ先
医療連携室 初診予約専用 03-3964-1498
受付時間/月～金8:30-17:00、土8:30-12:30(外来休診日を除く)
休診日/日曜、祝日、創立記念日(6/29)、年末年始(12/29-1/3)

遺伝性腫瘍などに関するご相談は「遺伝カウンセリング外来」へ

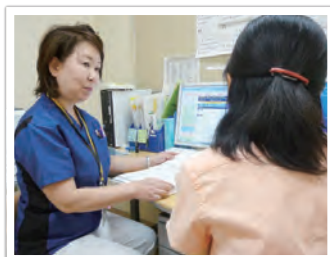
当院の遺伝カウンセリング外来では、患者さんやその血縁者に対して遺伝性腫瘍などの遺伝性疾患および遺伝子検査などに関する最新かつ正確な情報提供と、患者さんやご家族の抱える不安や悩みに寄り添い、問題の整理や解決を医療面のみならず心理社会面からも臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラーが支援を行います。

遺伝カウンセリングの対象となる方

- ・遺伝性腫瘍が疑われる患者さんとその血縁者
- ・オスラー病の疑われる患者さんとその血縁者
- ・遺伝や遺伝子検査に関する相談を希望される方など

遺伝カウンセリング外来の予約方法

予約方法の詳細は遺伝カウンセリング外来のホームページよりご確認ください。



遺伝カウンセリングの様子



がん相談支援室 (がん相談支援センター)

当院ではがんに関する相談窓口として『がん相談支援室 (がん相談支援センター)』を開設しています。患者さんやご家族の「がん」に関するさまざまな問題、不安、疑問について、専属の相談員が医師・看護師などと連絡をとりながらご相談をお受けしています。経済的なことや社会的な内容については専門の医療ソーシャルワーカーも対応しています。

相談内容についてのプライバシーはお守りいたします。どなたでも無料でご利用いただけますので、どうぞお気軽にご相談ください。

がんの情報提供

がんの治療や療養に役立つ情報の提供を行っています。1～3階の外来エリアと、各入院室の食堂デイルームのラックに、各種冊子や市民向け公開講座のご案内も設置しております。ご自由にお持ちいただけますので、ご利用ください。

がんに関するさまざまなご相談が可能です

- ・自分や家族のがん治療について知りたい
- ・セカンドオピニオンを受けたい
- ・緩和ケアやホスピスについて知りたい
- ・自宅での介護や看護のことで相談したい
- ・医療費や生活費の不安がある
- ・治療を受けながら仕事を続けたい
- ・家の近くで治療できる病院が分からない
- ・緩和ケア病棟ってどうやって申し込むの？
- ・家族にどう話していいか分からない
- ・子どもを授かることができるか心配
- ・がんゲノム医療について相談したい
- ・介護保険の手続きの仕方を知りたい
- ・自分の気持ちを聞いてもらいたい
- ・自宅で療養したい

就労支援

がんの治療と仕事の両立を支援します。病院の主治医と職場の産業医との連携が可能です。



場所/帝京大学医学部附属病院1階⑭ **がん相談支援室(がん相談支援センター)**
受付時間/月曜日～金曜日 9:00～16:00

※祝日・年末年始(12/29～1/3)創立記念日(6/29)を除きます。

相談方法/電話・面談 電話/**03-3964-3956** (日中相談直通)

担当者/専属看護師・ソーシャルワーカー

夜間もお電話でご相談をお受けしています。

電話/**03-3964-1211** (代表)月・金のみ 17:00～21:00

ご相談は
無料です



診療内容・特色

緩和ケアセンターは、帝京がんセンター、がん相談支援センターと共に、がんおよび非がん（特に、心不全）の診療における苦痛症状・心理支援の緩和に関するコンサルテーションに取り組んでいます。メンバーは緩和ケア内科、精神科、循環器内科の医師、専従の看護師や公認心理師、兼任の薬剤師、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士、PT/OT、歯科衛生士らで構成され、入院患者には緩和ケアチームがほぼ全診療科に横断的に関わっています。外来では症状緩和・がん患者支援外来として、緩和ケア外来を設置しています。がん治療後のリンパ浮腫を契機とした外来のため、治癒後の患者さんも少なくなく、長期フォロー外来として機能しています。また、診療以外でも、医療者に対する緩和ケア研修会、小中高生に対するがん教育（出張授業）、地域の医療従事者への大学院講義の公開を行っており、地域と共に一丸となって、患者さんの苦痛を見逃さない医療を展開していきたいと思っています。

緩和ケアの役割 - 緩和ケアチームと外来を通して

当院では、がん治療中の早い時期から治療の医師とチームスタッフが連携し、痛みの緩和などのサポートを入院、外来ともに行っています。

緩和ケアの役割

- ・からだの不快感の緩和（痛み・吐き気・呼吸困難・リンパ浮腫セルフケア指導など）
- ・今後のこと（治療・生活全般など）を決めていくサポート（意思決定支援：アドバンス・ケア・プランニング）
- ・こころのサポート
- ・ご家族のサポート
- ・療養の場の選択（在宅・ホスピス・緩和ケア病棟・介護施設など）
- ・大切な方を亡くされた方のサポート
- ・制度利用の紹介（医療保険・介護保険・福祉制度など）
- ・AYA（若年者）世代へのサポート（仕事・学校の両立）

多職種カンファレンス

緩和ケアセンターでは、患者さんの抱える全人的苦痛に対応するため、患者さんの診療に関する多職種でのカンファレンスを週1回実施しています。



多職種カンファレンスの様子

相談のお申し込み方法

【入院中の方】

主治医や看護師などからチームに依頼があった後、チームスタッフが病室まで訪問します。退院時は医療連携を在宅医・看護師と行っています。

【外来受診をご希望の方】

他院または当院でがん治療の方、地域医療機関にかかりつけの方、ご遺族の方を対象としています。（緩和ケア内科 P.12も参照ください。）



初診の予約をお取りください。

症状緩和・がん患者支援外来
相談時間／月・金曜日の午後（要予約）

医療連携室 初診予約専用 03-3964-1498

持参していただきたいもの／画像、採血データおよび情報提供書

院内施設のご案内

1F コミュニティストリート

ナチュラルローソン

コンビニエンスストア

■ 営業時間

24時間営業(年中無休)
下記取り扱いあり

- ATM
- コピー・FAX
- ゆうパック・郵便ポスト
- Loppi(ロッピー)
- 医材商品



GOURMET PLAZA

レストラン

■ 営業時間

月～土曜 11:00～15:00
※ラストオーダー 14:30

■ 定休日

日曜・祝日



ドトールコーヒー

カフェ

■ 営業時間

月～金曜 7:30～18:00
土曜 7:30～16:00

■ 定休日

日曜・祝日・年末年始



トーカー

クリーニング店

一般のクリーニング受付のほかに、入院患者さん用の病衣・タオルをレンタルにてご用意しています。また、各種アメニティーも販売品にてご用意しています。

- お申込み・お問合せ

TEL 03-3579-0674(直通)

■ 営業時間

平日 9:00～17:30
土曜 9:00～13:00

■ 定休日

日曜・祝日

三菱UFJ銀行

窓口

■ 営業時間

月～金曜 12:00～15:00
祝日・休日および12月31日、1月1日～3日は営業いたしません。

ATM

月～土曜 8:00～21:00
日曜・祝日 8:00～21:00

システムメンテナンス等により、ご利用いただけない場合があります。お客さまがお持ちのキャッシュカードや通帳ならびにご利用になるATMにより、お取扱内容・時間帯等が一部異なります。詳しくは「ATM・店舗のご案内」より「ATMのサービス内容」をご確認ください。

6F

ごはん処 木の葉亭

展望レストラン

■ 営業時間

月～土曜 11:00～15:00
ラストオーダー 14:30
車椅子利用可

■ 定休日

日曜・祝日・年末年始



ナチュラルローソン

コンビニエンスストア

■ 営業時間

7:00～21:00(年中無休)
下記取り扱いあり

- ゆうパック・郵便ポスト
- Loppi(ロッピー)



ヘアサロン こもれび

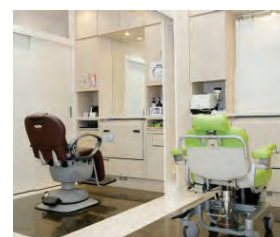
美容室

■ 営業時間

月～金曜9:00～18:00
(祝日も営業)

■ 定休日

土曜・日曜、年末年始



6F

中庭

■ ご利用時間

7:00～20:00
※雨天荒天時は閉鎖



7F

屋上庭園

■ ご利用時間

7:00～20:00
現在、外来エレベーターから行けます。中央エレベーターからは行けません。
※雨天荒天時は閉鎖



各階のご案内

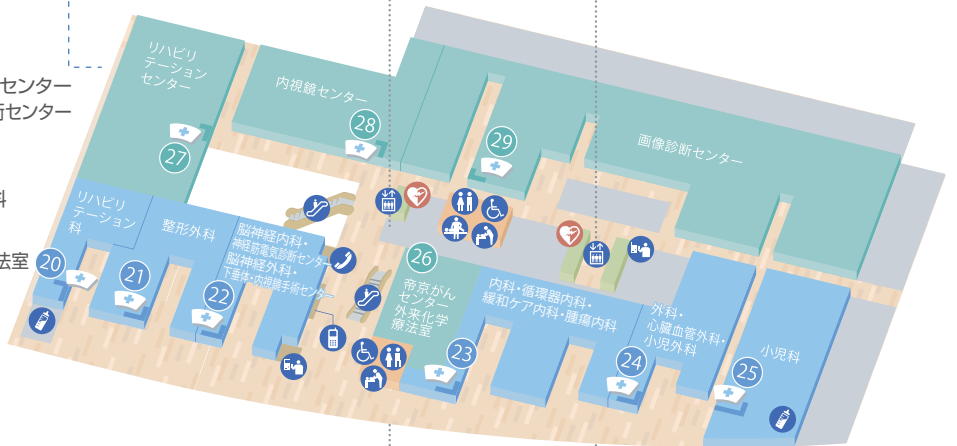
3F

- ③⑩ 泌尿器科・前立腺センター
- ③① 皮膚科
- ③② 形成外科
- ③④ ペインクリニック
- ③⑤ 産婦人科
- ③⑥ 眼科
- ③⑦ 耳鼻咽喉科・聴覚言語センター
- ③⑧ 歯科口腔外科
- ③⑨ メンタルヘルス科／デイケア
- ③③ 心臓リハビリテーションセンター
- ④⑩ 腎センター
- ④① 採血・採尿・生理機能検査センター



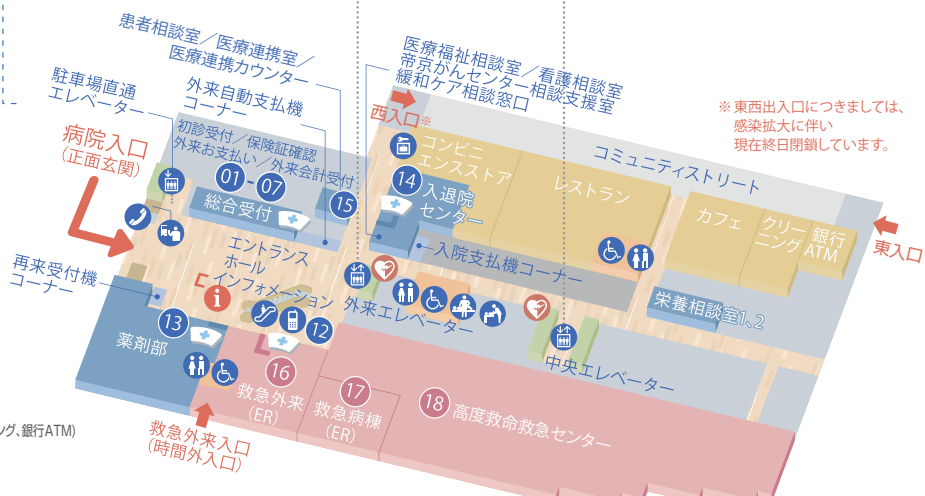
2F

- ②⑩ リハビリテーション科
- ②① 整形外科
- ②② 脳神経内科・神経筋電気診断センター
脳神経外科・下垂体内視鏡手術センター
- ②③ 内科・循環器内科
緩和ケア内科・腫瘍内科
- ②④ 外科・心臓血管外科・小児外科
- ②⑤ 小児科
- ②⑥ 帝京がんセンター外来化学療法室
- ②⑦ リハビリテーションセンター
- ②⑧ 内視鏡センター
- ②⑨ 画像診断センター



1F

- ①①～①⑦ 総合受付
- ①② 情報コーナー
- ①③ 薬剤部
- ①④ 入退院センター
- ①⑤ 患者相談室／医療連携室／
医療連携カウンター
- ①⑥ 救急外来 (ER)
- ①⑦ 救急病棟 (ER)
- ①⑧ 高度救命救急センター
・再来受付機コーナー
・外来支払機コーナー
・入院支払機コーナー
・コミュニティストリート








B1F

- ①⑨ 放射線科／治療・RI検査室

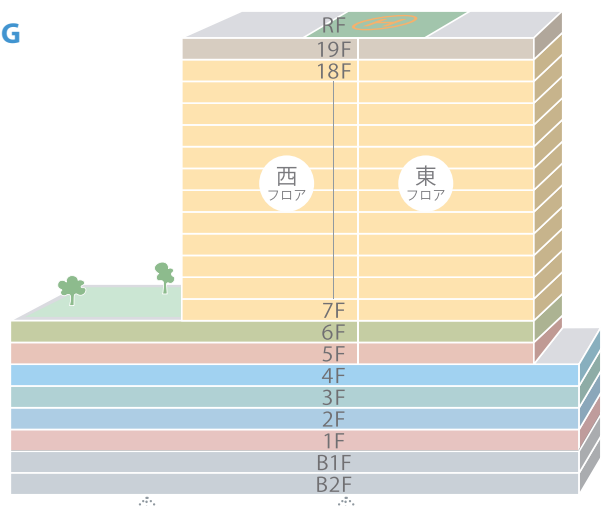
外来を受診される患者の皆様は、2Fまたは3Fにございます。ただし、放射線外来は地下1Fとなります。また、1F受付(初診方は初診受付窓口／再来の方は自動再来受付機)にて、受付を行ってください。ご不明な点は、1Fエントランスホール内のインフォメーションにご相談下さい。

※東西出入口につきましては、感染拡大に伴い現在終日閉鎖しています。

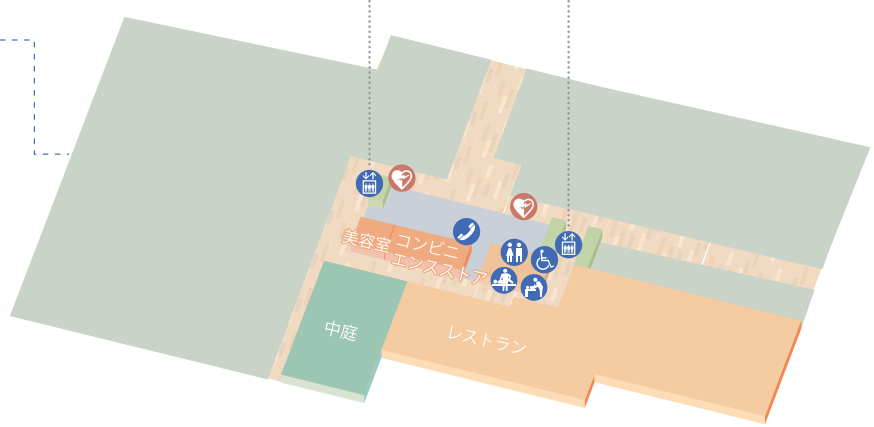
-  インフォメーション (ご案内)
-  受付
-  エレベーター
-  エスカレーター
-  WC
-  公衆電話
-  携帯電話コーナー
-  自動販売機コーナー
-  ロッカー
-  授乳室
-  AED


TEIKYO UNIVERSITY HOSPITAL BUILDING

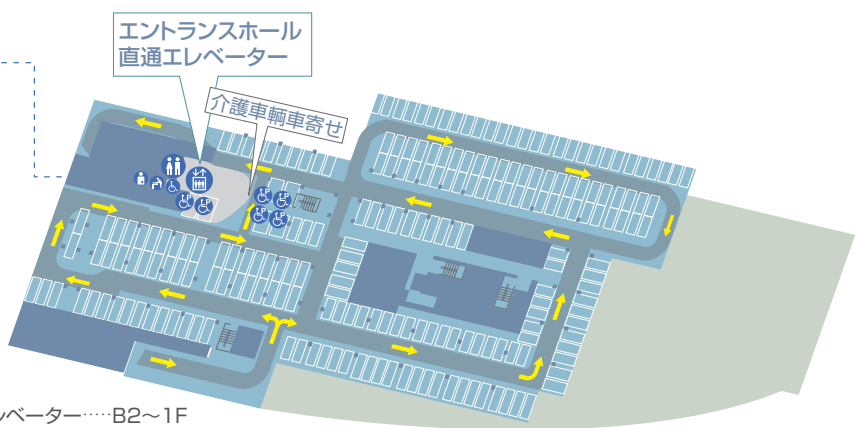
- RF** ヘリポート
- 18F~7F** 入院室、屋上庭園(7F)
- 6F** 展望レストラン、美容室、コンビニエンスストア、中庭 等
- 5F** 総合周産期母子医療センター、婦人科・産科入院室、小児入院室 等
- 4F** 手術室、循環器センター、院内ICU 等
- 3F** 各科外来、腎センター、採血・採尿・生理機能検査センター等
- 2F** 各科外来、外来化学療法室、リハビリテーションセンター、内視鏡センター、画像診断センター 等
- 1F** 総合受付、救急外来、救急病棟、高度救命救急センター 等
- B1F** 放射線治療、RI検査室 等
- B2F** 駐車場



- 6F**
- ・展望レストラン
 - ・美容室
 - ・コンビニエンスストア
 - ・中庭



- B2F**
- エントランスホール
直通エレベーター
- 介護車輛寄せ
-  エレベーターのご案内
- ・駐車場⇄エントランスホール直通エレベーター……B2~1F
 - ・外来エレベーター ……………B1~7F
 - ・中央エレベーター ……………B1~18F
- 駐車場ご利用の場合は
駐車場⇄エントランスホール直通エレベーターを
ご使用ください。



■敷地内は全面禁煙です。

当院では『ふたり主治医』を推進しております。

「地域のかかりつけ医」・「帝京大学病院医療連携登録医」などと
ともに
患者さんを見守ります！

帝京大学病院を受診される患者さんへ

患者さん1人に『2人の主治医』！！

帝京大学病院ではご近所にかかりつけ医をお持ちいただく
「ふたり主治医」制を推進しております

ご近所の「かかりつけ医」よりご紹介いただき専門的治療を行います。
状態が安定ののちは、「かかりつけ医」で健康管理していただきます。



ふだん患者さんの健康管理を行なっているご近所の「かかりつけ医」や密接に情報共有を行なっている「帝京大学病院医療連携登録医」などと連携し、機能分担を行なうことによって、「2人の主治医」で継続した医療を提供することを目指しています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

帝京大学病院は「かかりつけ医」・「帝京大学医療連携登録医」と
ともに患者さんを見守ります！！

- 当院は高度の医療提供を目的として厚生労働省の承認を受けた「特定機能病院」です。「救急・急性期医療」「がん医療」「高度の専門医療」を軸とした医療を推進しております。



帝京大学医学部附属病院
病院長

交通のご案内



上の地図は略図のため、実際の地形とは異なりますのでご注意ください。

① JR埼京線 十条駅

- 🚶 北口より徒歩約10分
- 🚗 北口ロータリータクシー乗り場より約6分

② 都営三田線 板橋本町駅

- 🚶 A1出口より徒歩約13分
- 🚗 A1出口より約6分

③ JR埼京線 板橋駅

- 🚗 西口①番のりばより帝京大学病院経由、王子駅行き **王22** (約8分)
「帝京大学病院」バス停 下車
- 🚗 西口より約9分

④ JR各線 赤羽駅

- 🚗 東口⑤番のりばより高円寺駅北口行き **赤31** (約11分)
「姥ヶ橋」バス停 下車徒歩約5分
- 🚗 西口⑥番のりばより王子駅行き **赤50** (約14分)
「上十条四丁目」バス停 下車徒歩約5分
- 🚗 西口より約12分

⑤ JR京浜東北線・東京メトロ南北線 王子駅

- 🚗 北口⑥番のりばより帝京大学病院経由、板橋駅行き **王22** (約12分)
「帝京大学病院」バス停 下車
- 🚗 北口より約9分

⑥ JR各線・東京メトロ各線 池袋駅

- 🚗 西口より約16分

⑦ 東武東上線 上板橋駅

- 🚗 北口①番のりばより王子駅行き **王54** (約13分)
「姥ヶ橋」バス停 下車徒歩約5分

⑧ 東武東上線 ときわ台駅

- 🚗 北口①番のりばより王子駅行き **王54** (約9分)
「姥ヶ橋」バス停 下車徒歩約5分
- 🚗 北口より約12分

※所要時間は日中平常時、最短時間の目安となっておりますので、時間帯や道路状況により異なります。

🚗 タクシーをご利用の場合 🚌 バスをご利用の場合 🚶 徒歩の場合

赤羽駅から当院構内へのバスが、2023年12月より運行予定。裏表紙をご覧ください。

*2023年12月より、「帝京大学病院正面」バス停設置予定

2023年12月より

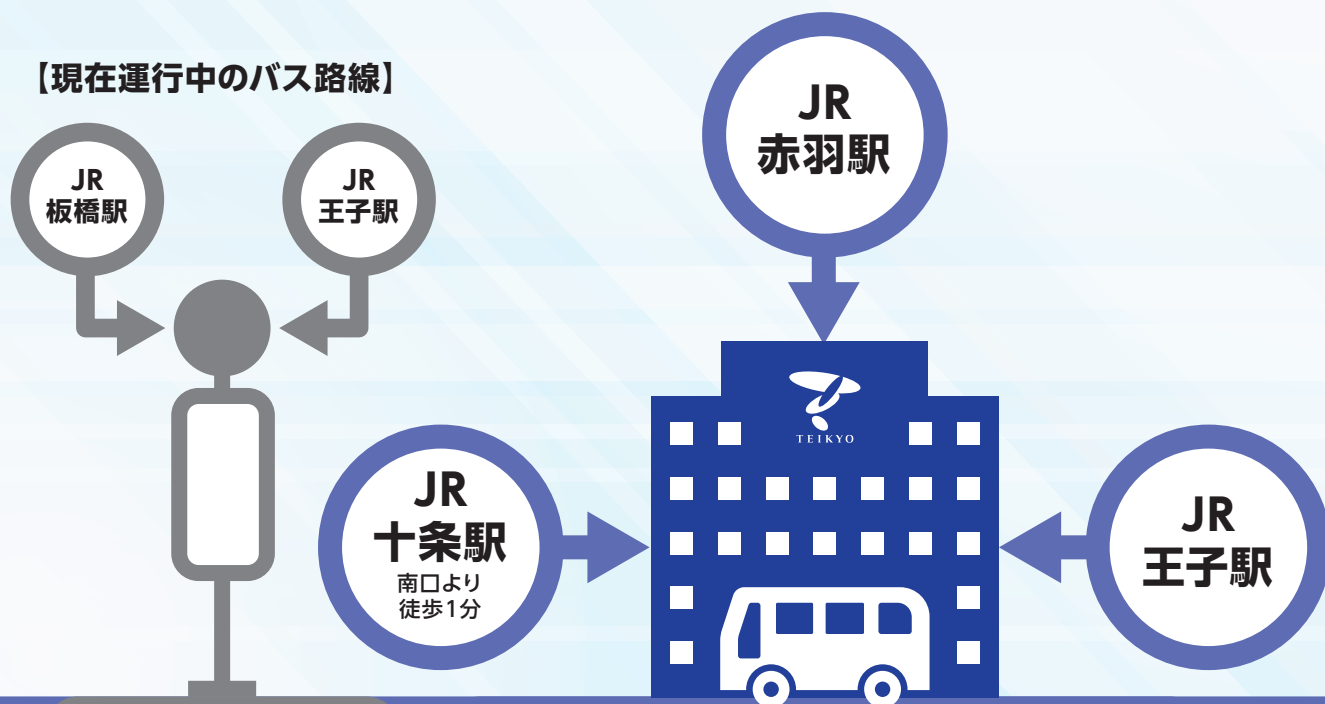
バスの新路線運行開始予定! (認可申請中)



このたび、2023年12月より、現行の板橋～王子路線に加え、
十条駅・赤羽駅・王子駅から
直接当病院の正面玄関前に乗り入れるバス路線
(国際興業バス)が運行を開始する予定です。
これにより、当院へバスで来院される方々の
さらなる利便性の向上が期待されます。

【2023年12月よりバス路線増設】

【現在運行中のバス路線】



「帝京大学病院」バス停



「帝京大学病院正面」バス停

帝京大学医学部附属病院

〒173-8606 東京都板橋区加賀2-11-1

TEL.03-3964-1211 (代表)

帝京大学病院

検索

<https://www.teikyo-hospital.jp>

